

**2025年度**

**専任教員の教育・研究業績**

2025. 8



**神戸薬科大学**

Kobe Pharmaceutical University

## 目次（専任教員の教育・研究業績）

	ページ		ページ		ページ
1. 北川 裕之	1	31. 野村 剛久	101	61. 藤波 綾	203
2. 向 高弘	6	32. 福井 由美子	105	62. 前田 秀子	209
3. 江本 憲昭	10	33. 倉部 綾子	107	63. 鎌尾 まや	212
4. 内田 吉昭	14	34. 柘原 岳人	109	64. 泉 安彦	219
5. 小西 守周	16	35. 赤井 朋子	111	65. 増田 有紀	222
6. 力武 良行	20	36. 竹仲 由希子	117	66. 堀部 紗世	225
7. 長谷川 潤	24	37. 佐々木 直人	120	67. 富田 淑美	229
8. 坂根 稔康	28	38. 八巻 耕也	123	68. 山田 泰之	232
9. 奥田 健介	31	39. 児玉 典子	126	69. 山崎 俊栄	235
10. 土反 伸和	35	40. 灘中 里美	129	70. 高木 晃	238
11. 小山 豊	39	41. 安岡 由美	134	71. 田中 晶子	241
12. 玉巻 欣子	42	42. 中山 喜明	137	72. 中山 啓	245
13. 上田 昌史	47	43. 中島 園美	140	73. 森下 将輝	248
14. 大河原 賢一	51	44. 古林 呂之	145	74. 友繁 有輝	251
15. 波多野 学	54	45. 佐野 紘平	149	75. 竇田 徹	253
16. 田中 将史	59	46. 原 哲也	153	76. 平田 翼	256
17. 白木 孝	62	47. 河内 正二	156	77. 市野 琢爾	259
18. 山野 由美子	65	48. 大山 浩之	160	78. 小池 敏靖	263
19. 神谷 由紀子	68	49. 都出 千里	163	79. 山田 孝博	266
20. 首藤 信通	71	50. 武田 紀彦	166	80. 朝倉 絢子	268
21. 田中 佐智子	75	51. 山田 健	170	81. Gusty Rizky Teguh Ryanto	270
22. 畑中 由香子	78	52. 土生 康司	173		
23. 中山 尋量	80	53. 河野 裕允	176		
24. 安岡 久志	82	54. 佐藤 敦	180		
25. 國正 淳一	84	55. 森田 いずみ	182		
26. 中林 千景	86	56. 多河 典子	185		
27. 山本 克己	89	57. 上田 久美子	188		
28. 國東 ゆかり	92	58. 三上 雅久	191		
29. 小椋 千絵	95	59. 猪野 彩	195		
30. 瀨名 則子	98	60. 西山 由美	198		

## 専任教員の教育・研究業績

所属 生化学研究室	職名 学長・教授	氏名 北川 裕之
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1) 本学薬学部学生への教育	1997年4月-現在に至る	<p>学部学生に生化学と分子生物学(2023年-は生命科学)の講義を行っている。</p> <p>1) 担当している分野の進歩は著しいので、下記の編集担当した教科書を用いながら、講義に関連する内容における最近の発見や注目されている事項（新しい遺伝子医薬品の開発例や病因の解明など）について資料を作成し、適宜配付している。</p> <p>2) できるかぎり疾患、診断薬、治療薬に関連する事項を重点的に解説している。</p> <p>3) 薬剤師国家試験の難易度を学生に意識させるために、過去に出題された国家試験の問題等を毎回20問程度選び、Webclassを用いて、7回確認テストとして実施している。また、更に知識を定着させるために、この問題の一部を定期試験に出題している。</p> <p>4) 講義休憩時にレポート課題を与え、休憩時間終了後解答を提示し、自ら添削を行ったものを提出させている（13回程度）。</p> <p>5) 学生による授業評価は、本学では2004年度より2年に一度行われているが（2021年度からは毎年）、生化学、分子生物学ともに平均以上の評価を得ている。特に、最近行われた6回の授業評価では、いずれもベストティーチャー賞を受賞した（下記の4を参照）。</p> <p>学部学生に生物学系の実習指導を行っている。</p> <p>1) 組換え医薬品に関する理解を深めさせるために、最新の遺伝子工学に関する動向を反映するような実習内容に随時変更を行い、実習テキストも改訂している。</p> <p>2) 実習時間の最後に学生個々と教員が実習内容について質疑応答を行い、その日に行った実習を理解できるようにしている。</p> <p>3) 学生による実習評価も毎年行われているが、平均以上の評価を得ておりおおむね好評である。</p>

		<p>学部学生に卒業研究の指導を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生個々に実験に対する目的意識を持たせるよう、随時質疑応答を行っている。</li> <li>2) 論理的な考え方や表現力が身に付くように、定期的に研究内容を学生にまとめさせ、発表する機会を与えている。</li> <li>3) できるかぎり英文で書かれた論文を読むように奨励し、少なくとも年に一度はその内容をまとめて発表する機会を与えている。</li> </ol>
(2) 本学薬学研究科大学院生の教育研究指導	1994年4月-現在に至る	<p>大学院薬学研究科院生への生化学（生命科学）特論講義と演習及び研究指導を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義は、最新のデーターを分かりやすく解説するために、動画を用いたパワーポイントを使用している。</li> <li>2) 演習時には、研究分野の最近の動向を学生に把握させるため、学生が主体的に国際的な雑誌に発表された論文を論理的に説明でき、活発に討論に参加できるように演習日の少なくとも2日前までにはレジュメを全員に配付することを義務づけている。</li> <li>3) 学生に論理的な思考力と表現力が身に付くように、定期的に自分の研究内容を発表させ、研究室での討論を行い、そのことを通じて現在の自分の研究内容の進展状況や問題点も把握出来るように指導している。</li> <li>4) 学生には、少なくとも毎年一回は学会発表できるように指導している。</li> </ol>
(3) 医学部学生への教育	2008年4月-2023年3月	神戸大学医学部2年生に生化学（糖質の構造と機能）の講義を行った。
(4) 医学研究科大学院生への教育	2007年4月-現在に至る	神戸大学大学院医学研究科院生に薬物治療学の講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
ニューダイレクション薬学生生化学（京都廣川書店、編著：北川裕之、山田修平）（初版及び第2版）	2020年9月4日（初版） 2023年9月7日（第2版）	本教科書全体の編集に携わった。
スタンダード薬学シリーズ第3巻 基礎薬学 VII. 生命科学（東京化学同人、新スタ薬シリーズ編集委員会編）	2024年3月31日	「第1章 1・3糖質」を記述した（pp. 16-23）。

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>ベストティーチャー賞（2年ごとに表彰、ただし2014年度は表彰なし、また2018-2020年度は既受賞者の表彰なし、2021年度からは毎年表彰へ変更）</p> <p>副学長</p> <p><b>FD/SD研修会開催日時とタイトル</b></p> <p>遠隔授業の効果的な実施方法について（webcassの利用について）WebClass使用実例の紹介</p> <p>学修支援の現状と取り組み</p> <p>授業設計と成績評価について</p> <p>アクティブラーニングについて ロジカル思考演習</p> <p>新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み</p> <p>アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について</p> <p>アクティブラーニングについて（その3）</p> <p>障害のある学生への合理的配慮と学修支援研修</p> <p>OSCEの適正な実施に向けて</p> <p>数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望</p> <p>職場における化学物質管理とリスクアセスメント～身近な化学物質も～</p> <p>障害のある学生への合理的配慮と学修支援</p>	<p>2006年度、2008年度、2010年度、2012年度、2016年度、2021年度</p> <p>2018年4月1日-2022年3月31日</p> <p>2021年7月19日（月）15:30-16:45</p> <p>2022年3月11日（金）14:45-15:45</p> <p>2022年7月19日（火）16:15-17:45</p> <p>2023年3月16日（木）15:45-17:00</p> <p>2023年5月15日（月）15:45-17:00</p> <p>2023年10月16日（月）15:45-16:30</p> <p>2024年3月14日（月）15:00-15:30</p> <p>2024年8月22日（木）13:00～16:30</p> <p>2024年10月28日（月）16:15～16:45</p> <p>2025年3月11日（火）13:30～17:05</p> <p>2025年3月17日（月）15:45～16:15</p> <p>2025年3月18日（火）13:00～15:00</p>	<p>生化学III(2006年度)、分子生物学I(2008年度)、分子生物学I(2010年度)、分子生物学I(2012年度)、分子生物学Iおよび生化学III(2016年度)、分子生物学I(2021年度)</p> <p>学長をサポートしながら大学運営に携わった。</p>
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>

Kitazawa, K., Nadanaka, S., Kadomatsu, K., and Kitagawa, H.	論文	Commun. Biol. 2021, 4, 114. "Chondroitin 6-sulfate represses keratinocyte proliferation in mouse skin, which is associated with psoriasis."
Nadanaka, S., Tamura, J., and Kitagawa, H.	論文	Front. Oncol. 2022, 12, 914838. "Chondroitin Sulfates Control Invasiveness of the Basal-like Breast Cancer Cell Line MDA-MB-231 through ROR1."
Koike, T., Mikami, T., Tamura, J., and Kitagawa, H.	論文	Nature Commun. 2022, 13, 7952. "Altered sulfation status of FAM20C-dependent chondroitin sulfate is associated with osteosclerotic bone dysplasia."
Koosha, E., Brenna, C. T. A., Ashique, A. M., Jain N., Ovens, K., Koike, T., Kitagawa, H., and Eames, B. F.	論文	Development 2024, 151, dev201716. "Proteoglycan inhibition of canonical BMP-dependent cartilage maturation delays endochondral ossification."
Harada, A., Kunii, M., Kurokawa, K., Sumi, T., Kanda, S., Zhang, Y., Nadanaka, S., Hirosawa, K. M., Tokunaga, K., Tojima, T., Taniguchi, M., Moriwaki, K., Yoshimura, S., Hino, M., Goto, S., Katagiri, T., Kume, S., Hayashi-Nishino M., Nakano, M., Miyoshi, E., Suzuki, K. G. N., Kitagawa, H., and Nakano, A.	論文	Nature Commun. 2024, 15, 4514. "Dynamic movement of the Golgi unit and its glycosylation enzyme zones."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Sulfated Glycosaminoglycans-Studies in Diversity	2023年8月	26th International Symposium on Glycoconjugates (Glyco26)
プロテオグリカンの機能を制御するグリコサミノグリカンの修飾を制御する仕組み	2023年11月	第96回日本生化学会大会
グリコサミノグリカンの生合成と疾患	2023年12月	Glycoforum
神経系におけるグリコサミノグリカンの役割	2024年2月	1st Glycoscience Frontier Seminar

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2006年4月～現在に至る	日本生化学会近畿支部 幹事
2006年4月～現在に至る	プロテオグリカンフォーラム 世話人
2007年8月～現在に至る	日本糖質学会 評議員
2009年4月～現在に至る	神戸がん研究会 世話人
2009年4月～現在に至る	日本結合組織学会 評議員
2012年11月～2024年12月	日本糖鎖コンソーシアム(JCGG) 幹事
2015年4月～現在に至る	Scientific Reports 編集委員
2015年11月～現在に至る	日本生化学会 評議員
2018年1月～2021年12月	Journal of Biochemistry, Editor
2018年4月～2025年3月	「ひょうご産学連携コーディネーター協議会」運営委員および「TLOひょうご協議会」運営委員
2019年4月～2021年3月	日本薬学会 理事
2020年7月～現在に至る	公益財団法人水谷糖質科学振興財団 選考委員
2021年9月～2023年9月	日本生化学会近畿支部長
2021年11月～現在に至る	日本生化学会 代議員
2021年11月～2023年11月	日本生化学会 理事
2021年9月～2021年11月	日本薬学会学会賞第2次選考委員
2022年3月～現在に至る	Frontiers in Cell and Developmental Biology, Associate Editor
2022年6月～現在に至る	Molecular Biology Reports, Associate Editor
2022年7月～現在に至る	Proteoglycan Research 編集委員
2022年5月～現在に至る	公益財団法人日本高等教育評価機構 大学機関別認証評価員
2022年6月～現在に至る	一般社団法人日本私立薬科大学協会 理事
2022年6月～現在に至る	全国薬科大学長・薬学部長会議 常任理事
2022年7月～現在に至る	一般社団法人薬学教育協議会 業務執行理事
2023年6月～現在に至る	日本薬学会 代議員
2023年6月～現在に至る	一般社団法人薬学教育評価機構 理事
2023年10月～現在に至る	26-27期日本学術会議 連携会員
2025年1月～現在に至る	日本糖鎖コンソーシアム(JCGG) 常任幹事、副会長

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬品物理化学研究室	職名	副学長・教授	氏名	向 高弘
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1) 本学薬学部学生への教育（講義、実習） 物理化学II 放射化学 物理化学系実習		2011年4月～現在	COVID19以前は、授業についてデジタル教材化し、DVDラーニング、e-ラーニングを実施した。また添削アルバイトを活用し、問題演習の添削を実施した。COVID19対策として授業のオンライン動画とともに各講義毎にGoogleフォームによる確認テストを行った。 現在は、対面授業を電子黒板を利用して行うとともに、各講義毎にwebclassでの確認テストを行っている。 物理化学系実習では視聴覚教材を使用している。		
(2) 本学薬学部学生への教育（卒業研究指導）		2011年4月～現在	生命・自然現象の解明と疾患の新たな診断法・治療法の開発を目指した研究を指導している。 指導学部学生が以下の学会賞を受賞した(2021-2025年分)。		
		2021年10月9日	・第71回日本薬学会関西支部大会 優秀ポスター発表賞		
		2022年4月21日	・日本薬学会第142年会 学生優秀発表賞(ポスター発表)		
		2024年4月24日	・日本薬学会第144年会 学生優秀発表賞(ポスター発表)		
		2025年4月25日	・日本薬学会第145年会 学生優秀発表賞(ポスター発表)		
(3) 本学薬学研究科大学院生への教育 物理系基礎創薬学特論、物理系創薬学特論		2011年4月～現在	大学院生への講義と研究指導を行っている。 指導大学院生が以下の学会賞を受賞した(2021-2025年分)。		
		2021年10月2日	・第80回日本癌学会学術総会 JCA若手研究者ポスター賞		
		2022年5月27日	・第16回日本分子イメージング学会学術集会 優秀発表賞		
		2022年7月8日	・第59回アイントープ・放射線研究発表会 若手優秀講演賞		
		2022年9月17日	・第21回放射性医薬品・画像診断薬研究会 優秀発表賞		
		2023年4月24日	・日本薬学会第143年会 学生優秀発表賞(ポスター発表)		

	2024年4月23日	・日本薬学会第144年会 学生優秀発表賞(口頭発表)
2 作成した教科書、教材、参考書 新 放射化学・放射医薬品学 (改訂第5版)	2021年8月5日	南江堂の改訂第5版の編集を担当するとともに「第1章 原子核と放射能」を執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 CBT実施委員会委員長 キャリア支援部長 神戸市消防局員への放射線実習 教務部長 CBT実施委員会委員 神戸市消防局員への放射線実習 神戸市消防局員への放射線実習 総合教育研究センター長 神戸市消防局員への放射線実習  FDへの参加状況(2021-2025年分)	2018年4月～2022年3月 2019年4月～2022年3月 2021年7月29日 2022年4月～2024年3月 2022年4月～2024年3月 2022年9月14日 2023年8月18日 2024年4月～現在 2024年7月11日  2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日 2024年3月14日 2024年10月28日 2025年3月11日	CBT体験受験、本試験、追再試験を実施した。 キャリア支援プログラムの改善を実施した。 神戸市消防局員12名に対し、放射線測定に関する実習を行った。 教務に関する運営の円滑化を図るとともに、アフターコロナの対応を行った。 CBT体験受験、本試験、追再試験を実施した。 神戸市消防局員12名に対し、放射線測定に関する実習を行った。 神戸市消防局員14名に対し、放射線測定に関する実習を行った。 基礎薬学教育と臨床薬学教育の充実及びそれらの有機的連携を図る。 神戸市消防局員14名に対し、放射線測定に関する実習を行った。  遠隔授業の効果的な実施方法について(webclassの利用について)、WebClass使用実例の紹介 学修支援の現状と取り組み 授業設計と成績評価について アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み アクティブラーニングについて(その2)、チューター制度について アクティブラーニングについて(その3) OSCEの適正な実施に向けて 薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望
II 研究活動		

1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Azuma R., Yamasaki T., Sano K., Munekane M., Matsuoka Y., Yamada K., Mukai T.	論文	<i>Free Radic. Biol. Med.</i> <b>2021</b> , 163, 297-305 "A radioiodinated nitroxide probe with improved stability against bioreduction for in vivo detection of lipid radicals"
Tanaka T., Sano K., Munemura M., Hagimori M., Moriyama R., Yamamoto A., Ozaki K., Munekane M., Yamasaki T., Mukai T.	論文	<i>J. Drug Deliv. Sci. Technol.</i> <b>2022</b> , 73, 103473 "A radiolabeled nanoparticle probe coated with hyaluronic acid via electrostatic interaction to diagnose CD44-positive tumors"
Haratake Y., Sano K., Fujioka C., Oshima S., Munekane M., Yamasaki T., Mukai T.	論文	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> <b>2023</b> , 92(15), 117426 "Chemical design of radioiodinated probes with a metabolizable linkage for target-selective imaging of systemic amyloidosis"
Tanaka T., Sano K., Kawakami R., Tanaka S., Munekane M., Yamasaki T., Mukai T.	論文	<i>Nanomedicine</i> <b>2024</b> , 62, 102781 "Electrostatically self-assembled gold nanorods with sulfated hyaluronic acid for targeted photothermal therapy for CD44-positive tumors"
Azuma R., Yamasaki T., Sano K., Mukai T.	論文	<i>Free Radic. Biol. Med.</i> <b>2024</b> , 224, 678-684 "Detection of lipid radicals generated via cerebral ischemia/reperfusion injury using a radiolabeled nitroxide probe"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
生体直交型反応による薬物放出を可能とする抗がん剤内封リポソーム製剤の開発 (JCA若手研究者ポスター賞受賞)	2021年10月	第80回日本癌学会学術総会
関節リウマチの診断、治療を指向するマクロファージ標的蛍光標識酸化鉄ナノ粒子の開発 (学生優秀発表賞(ポスター発表)受賞)	2022年3月	日本薬学会第142年会
酸化ストレスに寄与する炭素ラジカルを標的とした放射性プローブの開発及び病態モデルでの評価 (若手優秀講演賞受賞)	2022年7月	第59回アイソトープ・放射線研究発表会
全身性アミロイドーシスを標的とする核医学診断用プローブの開発：正常組織における非特異的集積の低減を目指した分子設計 (学生優秀発表賞(ポスター発表)受賞)	2023年3月	日本薬学会第143年会

次亜塩素酸の生体内分布・挙動を非侵襲的に検出する放射性プローブの開発 (学生優秀発表賞 (ポスター発表) 受賞)	2024年3月	日本薬学会第144年会
III 学会等および社会における主な活動		
1992年～現在	日本薬学会会員	
1997年～現在	日本薬物動態学会会員	
1997年～現在	日本核医学会会員	
2000年～現在	Society of Nuclear Medicine会員	
2006年～現在	日本分子イメージング学会会員	
2007年～現在	日本癌学会会員	
2009年～現在	Society of Radiopharmaceutical Sciences会員	
2011年～現在	日本アイソトープ協会会員	
2011年5月～現在	日本薬学会近畿 (関西) 支部委員	
2012年～現在	日本DDS学会会員	
2013年2月～2025年1月	日本薬学会代議員	
2013年4月～現在	日本薬剤学会会員	
2014年9月～現在	日本がん分子標的治療学会会員	
2015年5月～現在	金属の関与する生体関連反応シンポジウム (SRM) 評議員	
2016年4月～現在	薬学教育協議会放射薬学教科担当教員会議 薬剤師国家試験問題WG委員	
2016年11月～2024年9月	日本核医学会分科会 放射性薬品科学研究会 運営委員	
2019年4月～現在	薬学教育協議会放射薬学教科担当教員会議 会長	
2019年4月～2022年3月	日本薬学会関西支部幹事	
2020年4月～現在	日本アイソトープ協会 企画専門委員会委員	
2021年12月～2025年3月	阪和第二泉北病院 放射性薬剤委員会・委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	臨床薬学研究室	職名	教授	氏名	江本 憲昭
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
薬物治療学Ⅲ、薬物治療学Ⅴ、他8件		2021年	臨床医としての経験に基づき、具体的な疾患や症例を提示しながら講義した。		
薬物治療学Ⅲ、薬物治療学Ⅴ、他8件		2022年	臨床医としての経験に基づき、具体的な疾患や症例を提示しながら講義した。		
薬物治療学Ⅲ、薬物治療学Ⅴ、他9件		2023年	臨床医としての経験に基づき、具体的な疾患や症例を提示しながら講義した。		
薬物治療学Ⅲ、薬物治療学Ⅴ、他10件		2024年	臨床医としての経験に基づき、具体的な疾患や症例を提示しながら講義した。		
薬物治療学Ⅲ、薬物治療学Ⅴ、他10件		2025年	臨床医としての経験に基づき、具体的な疾患や症例を提示しながら講義した。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
プリント、スライド、e-ラーニング用動画		2021年	最新の知見を含めた独自のプリント、スライド、動画		
プリント、スライド、e-ラーニング用動画		2022年	最新の知見を含めた独自のプリント、スライド、動画		
プリント、スライド、e-ラーニング用動画		2023年	最新の知見を含めた独自のプリント、スライド、動画		
プリント、スライド、e-ラーニング用動画		2024年	上記+オンデマンドでスマートフォンで参加できるゲーム型練習問題		
プリント、スライド、e-ラーニング用動画		2025年	上記+オンデマンドでスマートフォンで参加できるゲーム型練習問題		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)					

学生部長	2019年4月～2022年3月	委員長として生活支援に関する事項の運営の円滑化を図った。
学生支援センター長	2022年4月～現在	センター長として学生支援センターの運営の円滑化を図った。
FD研修会	2021年7月19日	遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）、WebClass使用事例の紹介
FD研修会	2022年3月11日	学修支援の現状と取り組み
FD研修会	2022年7月19日	授業設計と成績評価について
FD研修会	2023年3月16日	アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習
FD研修会	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
FD研修会	2023年10月16日	アクティブラーニングについて（その2）、チューター制度について
FD研修会	2024年3月14日	アクティブラーニングについて（その3）
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Ramadhiani R, Ikeda K, Miyagawa K, Ryanto GRT, Tamada N, Suzuki Y, Kirita Y, Matoba S, Hirata KI, Emoto N.	論文	Interleukin-6 Enhances Localized Immune Cell Infiltration and Deep Vein Thrombosis Resolution at the Distal Edge. Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2025 in press
Achyar AC., Adinata A., Suzuki Y., Nishimori M., Hirata KI., Otake H., Emoto N.	論文	Endothelial cell senescence exacerbates pulmonary hypertension by inducing juxtacrine Notch signaling in smooth muscle cells. iScience. 2023 Apr 11;26(5):106662. doi: 10.1016/j.isci.2023.106662.
Haryono A, Ikeda K, Nugroho DB, Ogata T, Tsuji Y, Matoba S, Moriwaki K, Kitagawa H, Igarashi M, Hirata KI, Emoto N.	論文	ChGn-2 Plays a Cardioprotective Role in Heart Failure Caused by Acute Pressure Overload. J Am Heart Assoc. 2022 Apr 5;11(7):e023401. doi: 10.1161/JAHA.121.023401.
Ryanto GRT, Ikeda K, Miyagawa K, Tu L, Guignabert C, Humbert M, Fujiyama T, Yanagisawa M, Hirata KI, Emoto N.	論文	An endothelial activin A-bone morphogenetic protein receptor type 2 link is overdriven in pulmonary hypertension. Nat Commun. (2021) 12:1720. doi: 10.1038/s41467-021-21961-3.

Adhikara IM, Yagi K, Mayasari DS, Suzuki Y, Ikeda K, Ryanto GRT, Sasaki N, Rikitake Y, Nadanaka S, Kitagawa H, Miyata O, Igarashi M, Hirata KI, Emoto N.	論文	Chondroitin Sulfate N-acetylgalactosaminyltransferase-2 Impacts Foam Cell Formation and Atherosclerosis by Altering Macrophage Glycosaminoglycan Chain. <i>oscler Thromb Vasc Biol.</i> (2021) 41:1076-1091. doi: 10.1161/ATVBAHA.120.315789.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
International Collaboration of PAH Associated with ASD between Japan and Indonesia	2025年・6月	第10回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会
Activin-A as a Novel Upstream Driver of Vascular Remodeling and Endothelin-1 Signaling in Pulmonary Arterial Hypertension	2025年・5月	ISHR (国際心臓研究学会) 2025
肺高血圧症の薬物治療	2023年・6月	第8回 日本心血管協会 (JCVA) 学術集会
血管内皮細胞の基礎研究から肺高血圧症の臨床研究まで：フィジシャンサイエンティストの愚直の一念	2022年・6月	第8回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会
肺高血圧症に対する創薬ターゲットの探索と臨床応用	2022年・6月	第22回日本抗加齢医学会総会
III 学会等および社会における主な活動		
1987年6月～現在	日本内科学会 (2002年9月～現在：日本内科学会認定内科医、2014年12月～現在：日本内科学会総合内科専門医)	
1987年4月～現在	日本循環器学会 (2004年3月～現在：日本循環器学会認定循環器専門医、2015年4月～2020年3月：日本循環器学会評議員)	
2000年10月～現在	日本高血圧学会 (2009年10月～現在：日本高血圧学会評議員、2010年10月～現在：日本高血圧学会専門医)	
2004年4月～現在	日本医学教育学会	

江本

2012年11月～現在	国際心臓研究学会日本部会 (2012年11月～現在：国際心臓研究学会 日本部会 評議員)
2013年9月～現在	International Conference on Endothelin International Advisory Board
2016年4月～現在	日本肺高血圧・肺循環学会 (2016年4月～現在：日本肺高血圧・肺循環学会理事)

## 専任教員の教育・研究業績

所属 数学研究室	職名 教授	氏名 内田 吉昭
I 教育活動		
教育実践上の主な業績		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	年月日	概 要
数学 I と数学IIにおいて，習熟度別クラスの導入	2008年4月～現在に至る	入学してきた学生の数学における学力(高等学校での数学IIIの履修の有無など)に差があるので，習熟度別の授業を行っている。
統計学 I とIIにおいて，サブノートの作成	2009年4月～2022年 3月	統計学をなるべく視覚を使って理解してもらうために，グラフ等を多く使用したサブノートを作成して，授業の補助として使っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
わかりやすい微分積分 内田吉昭/ 熊澤美裕紀共著 ムイスリ出版	2020年2月	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2024年11月23日	結び目の教育への活用(神戸親和大学) 薬学生と結び目理論と定数について発表
4 その他教育活動上特記すべき事項		
FD参加	2021年7月19日	前期遠隔授業に対する学生アンケートの集計結果 遠隔授業の効果的な実施方法について (webclassの利用について) WebClass使用事例の紹介
	2022年3月11日	学修支援の現状と取り組み
	2022年7月19日	授業設計と成績評価について
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて ロジカル思考演習
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
	2023年10月5日	AIを用いた入学試験並びに修学状況のIR分析結果の報告
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて (その2) チューター制度について
	2024年3月14日	アクティブラーニングについて (その3)
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて

内田

	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025
	2025年	他3件
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Tetsuo Shibuya, Tatsuya Tsukamoto, Tsuneo Ishikawa and Yoshiaki Uchida	論文	Characterizations of pretzel knots which are simple-ribbon (J. Math. Soc. Japan 75 No.4(2023) pp.1431-1447to appear)
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Delta unknotting number one knots without ribbon singularity are prime	2023・10	研究集会「東北結び目セミナー 2023」
III 学会等および社会における主な活動		
1988年4月～現在に至る	日本数学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	微生物化学研究室	職名	教授	氏名	小西 守周
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				
	微生物学Ⅱ	2010年～2022年	微生物学Ⅱで微生物各論を担当した。主に板書と教科書の併用で講義を進めた。生物系の他講義との関わりがある内容に関しては、復習を兼ねて質問を行い学生の集中力を維持できるようにした。限られた講義時間の中に多くの内容を含むように無駄の無い授業を心がけた。		
	微生物学Ⅰ	2010年～2021年	微生物学Ⅰとして、微生物の総論を担当した。板書と教科書の併用で講義を進めた。生物系の他講義との関わりがある内容に関しては、復習を兼ねて質問を行い学生の集中力を維持できるようにした。		
	微生物学	2023年～2025年	2年配当微生物学を担当した。前年度までの微生物学ⅠⅡを合わせた内容となり、学修すべき内容が多いため一部スライドを用いて講義を行なった。なお、2025年より、14回の講義の後半7回（微生物各論部分）を担当することとなった。また、履修した内容に関する問題を配布して学生の復習を促してきたが、2025年からはwebclass上に確認問題と解説を載せるようにした。		
	免疫学	2014年～2021年	2年配当免疫学を担当した。学修が難しい教科であることを学生に伝えつつ、できるだけ平易な言葉で説明するように心がけた。講義内容に関しては、薬剤師国家試験の出題範囲なども加味して、講義内容を取捨選択した。		
	薬物治療学Ⅵ	2025年	4年配当薬物治療学Ⅵの10コマ分を担当した。限られた時間内で内分泌、代謝関連の非常に多くの内容を講義することから、重要な内容をピックアップしスライドにて講義を行いつつ、さらにwebclass上に確認問題と解説を載せることにより学生の理解を深める取り組みを行なった		
	微生物学実習	2016年～2024年	2年配当微生物学実習を担当した。微生物の取り扱い、微生物の基本事項に関して学修することを目的とした。実習では、できるだけ学生に考えることを推奨しており、教員-学生間で行うディスカッションの時間を設けて、知識や技術の習得だけでなく実験結果をもとに行う考察に関する指導に比較的多く時間をかけた。		

	アクティブラボ	2015年～2024年	1～3年生を対象に研究指導を行なった。研究の進め方、研究の考え方、分子生物学の基本技術を説明した。
	卒業研究	2010年～2024年	4年から6年までの学生に、それぞれに免疫学、分子生物学的に関するテーマを与え、実験手技のみならず、研究背景の理解、実験原理の理解、結果の解釈、問題点の指摘などを指導することで、研究に必要な思考力の獲得を心がけた。また先行論文の報告、研究の進捗のプレゼンテーションなど、報告会を複数回設けプレゼンテーション力を育成した。
	薬学研究基盤形成教育(大学院)	2018年～2025年	博士課程1年の学生に対し、研究の進め方、研究論文の作成、研究倫理について3コマで説明した。
	生物系創薬学特論(大学院)	2012年～2024年	博士課程の学生に対し、隔年で開講。細胞外分泌因子の生理機能、医療への応用について最先端の研究内容取り入れつつ概説した。
	医薬品研究開発特論(大学院)	2018年～2024年	修士課程の学生に対し、隔年で開講。研究倫理について説明した。
	生命科学特論(大学院)	2012年～2024年	修士課程の学生に対し、隔年で開講。免疫学、炎症に関して基礎生命科学的な内容と医療との関わりについて概説した。
	微生物学(他の大学で非常勤講師として)	2023年～2024年	甲南女子大学において非常勤講師として1年担当の微生物学の微生物各論部分を講義した。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>FD研修への参加</p>	<p>2021年7月</p> <p>2022年3月 2022年7月 2023年3月 2023年5月</p> <p>2023年10月</p> <p>2024年3月 2024年10月 2025年3月</p> <p>2025年7月</p>	<p>遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について） WebClass使用実例の紹介 学修支援の現状と取り組み 授業設計と成績評価について アクティブラーニングについて ロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について アクティブラーニングについて（その3） OSCEの適正な実施に向けて 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～ 統括部門における教学IRの取り組みについて</p>
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>Nakayama Y, Masuda Y, Shimizu R, Konishi M.</p>	<p>論文</p>	<p>Life Sci. 2024;358:123185. doi:10.1016/j.lfs.2024.123185“Neudesin, a secretory protein, attenuates activation of lipopolysaccharide-stimulated macrophages by suppressing the Jak/Stat1/iNOS pathway”</p>
<p>Masuda Y, Kondo N, Nakayama Y, Shimizu R, Konishi M.</p>	<p>論文</p>	<p>Clin Immunol. 2024;268:110376. doi:10.1016/j.clim.2024.110376 “Neudesin regulates dendritic cell function and antitumor CD8+ T cell immunity.”</p>

Nakayama Y, Masuda Y, Mukae T, Mikami T, Shimizu R, Kondo N, Kitagawa H, Itoh N, Konishi M.	論文	Commun Biol. 2024;7(1):129. doi:10.1038/s42003-024-05802-9 "A secretory protein neudesin regulates splenic red pulp macrophages in erythrophagocytosis and iron recycling"
Masuda Y, Yamashita S, Nakayama Y, Shimizu R, Konishi M.	論文	Biol Pharm Bull. 2024;47(4):840-847. doi:10.1248/bpb.b23-00802 "Maitake Beta-Glucan Enhances the Therapeutic Effect of Trastuzumab via Antibody-Dependent Cellular Cytotoxicity and Complement-Dependent Cytotoxicity"
Masuda Y, Nakayama Y, Shimizu R, Naito K, Miyamoto E, Tanaka A, Konishi M.	論文	Life Sci. 2023;317:121453. doi:10.1016/j.lfs.2023.121453 "Maitake $\alpha$ -glucan promotes differentiation of monocytic myeloid-derived suppressor cells into M1 macrophages"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
分泌タンパク質neudesinはJak/Stat1シグナルの抑制を介してマクロファージ活性化を制御する	2025年3月	日本薬学会 第145年会
neudesinはがん免疫応答を抑制し、乳がんの発症と成長を促進する	2025年3月	日本薬学会 第145年会 *学生優秀発表賞 (ポスター発表の部)
分泌因子neudesinはミクログリアによるNO産生を制御することで脳梗塞拡大を抑制する	2024年3月	日本薬学会 第144年会
マクロファージ分極における分泌因子neudesinの役割の検討	2023年3月	日本薬学会 第143年会 *学生優秀発表賞 (ポスター発表の部)
食餌性肥満とニコチンによって誘発される筋萎縮におけるFgf21の生理的意義	2023年3月	日本薬学会 第143年会
III 学会等および社会における主な活動		
1999年～2024年	日本分子生物学会会員	
2006年～2024年	日本肥満学会会員	
2003年～2024年	日本薬学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	医療薬学研究室	職名	教授	氏名	力武 良行
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
薬物治療学Ⅰ、処方解析Ⅰ、他7件		2021年		医師の視点からの内容に最新の知見・薬物も交えて分かりやすく講義した。	
薬物治療学Ⅰ、処方解析Ⅰ、他8件		2022年		医師の視点からの内容に最新の知見・薬物も交えて分かりやすく講義した。	
薬物治療学Ⅰ、処方解析Ⅰ、他9件		2023年		医師の視点からの内容に最新の知見・薬物も交えて分かりやすく講義した。	
薬物治療学Ⅱ、処方解析Ⅰ、他10件		2024年		医師の視点からの内容に最新の知見・薬物も交えて分かりやすく講義した。	
薬物治療学Ⅱ、機能形態学Ⅰ、他11件		2025年		医師の視点からの内容に最新の知見・薬物も交えて分かりやすく講義した。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
パートナー機能形態学改訂第4版（岩崎克典/原英彰/三島健一/編集、南江堂）		2025年3月31日出版		「血液とリンパ」について執筆した。	
図解腫瘍薬学 改定2版（川西正祐/賀川義之/大井一弥編集、南山堂）		2025年3月1日出版		「消化器がん」について改訂執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)					
がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン 大学院主幹		2021年4月～2022年3月 2021年4月～2022年3月		実習コーディネーターとして、事業遂行に参画した。 大学院入試や単位取得について改正を進めるなどした。	
FD研修会		2021年7月19日		遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）、WebClass使用実例の紹介	
FD研修会		2022年3月11日		学修支援の現状と取り組み	

FD研修会	2022年7月19日	授業設計と成績評価について
FD研修会	2023年3月16日	アクティブラーニングについて，ロジカル思考演習
FD研修会	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
FD研修会	2023年10月16日	アクティブラーニングについて（その2），チューター制度について
FD研修会	2024年3月14日	アクティブラーニングについて（その3）
FD研修会	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて
FD研修会	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Horibe S, Emoto T, Mizoguchi T, Tanaka T, Kawauchi S, Sasaki N, Yamashita T, Ikeda K, Emoto N, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	<i>Glia</i> 2024, 72, 51-68. "Endothelial senescence alleviates cognitive impairment in a mouse model of Alzheimer's disease."
Tanaka T, Sasaki N, Krisnanda A, Shinohara M, Amin H. Z, Horibe S, Itoh K, Iwaya M, Fukunaga A, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	<i>J Am Heart Assoc.</i> 2024, 13(2), e031639. "A novel ultraviolet B phototherapy with a light-emitting diode device prevents atherosclerosis by augmenting regulatory T cell responses in mice."
Kawauchi S, Mizoguchi T, Horibe S, Tanaka T, Sasaki N, Ikeda K, Emoto N, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	<i>Glia</i> 2023, 71, 467-479. "Gliovascular interface abnormality in mice with endothelial cell senescence."

Shima Y, Sasagawa S, Ota N, Oyama R, Tanaka M, Kubota-Sakashita M, Kawakami H, Kobayashi M, Takubo N, Ozeki AN, Sun X, Kim YJ, Kamatani Y, Matsuda K, Maejima K, Fujita M, Noda K, Kamiyama H, Tanikawa R, Nagane M, Shibahara J, Tanaka T, Rikitake Y, Mataga N, Takahashi S, Kosaki K, Okano H, Furihata T, Nakaki R, Akimitsu N, Wada Y, Ohtsuka T, Kurihara H, Kamiguchi H, Okabe S, Nakafuku M, Kato T, Nakagawa H, Saito N, Nakatomi H.	論文	<i>Sci Transl Med</i> 2023, 15(700), eabq7721. "Increased PDGFRB and NF- $\kappa$ B signaling caused by highly prevalent somatic mutations in intracranial aneurysms."
Horibe S, Ishikawa K, Nakada K, Wake M, Takeda N, Tanaka T, Kawauchi S, Sasaki N, Rikitake Y.	論文	<i>Oncol Rep</i> 2022, 47(3), 32. "Mitochondrial DNA mutations are involved in the acquisition of cisplatin resistance in human lung cancer A549 cells."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Genetic deficiency of C-C chemokine receptor 4 protects against angiotensin II-induced abdominal aortic aneurysm formation by modulating adaptive immune responses	2025年・3月	第89回日本循環器学会学術集会
血管内皮細胞老化による若齢アルツハイマー病モデルマウスの糖代謝異常の軽減	2025年・3月	日本薬学会第145年会
アルツハイマー病の病態形成における血管老化の役割	2024年・11月	第47回日本分子生物学会年会
血管内皮細胞老化を介したミクログリアの機能変容はアルツハイマー病モデルマウスにおける認知機能低下を抑制する	2024年・3月	日本薬学会第144年会
血管内皮細胞老化によるアルツハイマー病モデルマウスの糖代謝異常の軽減	2024年・3月	日本薬学会第144年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1992年5月～	日本内科学会（総合内科専門医、認定内科医）	
1992年5月～	日本循環器学会（循環器専門医）	
2010年9月～	日本血管生物医学会（評議員）	

力武

2011年6月～	日本分子生物学会
2011年7月～	日本動脈硬化学会
2011年9月～	日本生化学会
2016年2月～	日本薬学会

## 専任教員の教育・研究業績

所属	衛生化学研究室	職名	教授	氏名	長谷川 潤
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
衛生薬学Ⅰ		2016年4月～		衛生関連3科目については、主教材として独自のプリントを作成し、配布した。穴埋め形式にすることで重要なポイントが明確になるように工夫した。また授業の中で国家試験の過去問にも触れることで、早いうちから国家試験を意識できるようにした。関連する最近の社会問題を取り入れることで、身近な問題として意識できるように工夫し、興味を持たせるようにした。 臨床栄養学及び研究リテラシーはオンデマンド講義であるが、小テストやレポート課題を工夫することで、授業のコンセプトを再想起・理解できるようにするとともに、思考力が育成できるように工夫している。 実習に関しては、講義との関連を意識させるとともに、国家試験を意識したポイントの教育を行っている。	
衛生薬学Ⅱ		2016年4月～			
衛生薬学Ⅲ		2020年9月～			
臨床栄養学		2025年4月～			
研究リテラシー		2020年4月～			
衛生薬学実習		2016年4月～			
2 作成した教科書、教材、参考書					
MY衛生薬学		2025年3月 改訂		エムスリーエデュケーション（改訂第2版）	
コンパス衛生薬学		2025年3月		南江堂（改訂第4版）	
授業用プリント		2016年4月～		上記授業の全てで用いる授業の補助プリントを自作した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
該当なし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
FD参加		2022年6月20日		高等学校の現状と今後の教育の方向性～兵庫県立明石北高校を例として～	
FD参加		2022年7月19日		授業改善と成績評価について（高等学校での取り組み）	
FD参加		2023年10月16日		アクティブラーニングについて（その2）、チューター制度について	

FD参加	2024年3月14日	アクティブラーニングについて（その3）
FD実施	2025年3月17日	化学物質の安全な取り扱いとリスクアセスメント
他14件		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Kondo M, Okazaki H, Nakayama K, Hohjoh H, Nakagawa K, Segi-Nishida E, Hasegawa H.	論文	Neurochem Res. 2022, 47, 2839-2855. "Characterization of astrocytes in the minocycline-administered mouse photothrombotic ischemic stroke model."
Hasegawa H, Tanaka T, Kondo M, Teramoto K, Nakayama K, Hwang G-W.	論文	Toxicol Res. 2022, 39, 169-177 "Blood vessel remodeling in the cerebral cortex induced by binge alcohol intake in mice."
Nakayama K, Kondo M, Okuno T, Razali N, Hasegawa H.	論文	Biol Pharm Bull. 2023, 46, 464-472. "Different Properties of Involuting Thymus upon Nutritional Deficiency in Young and Aged Mice."
Hasegawa H, Kondo M.	論文	Biol Pharm Bull. 2023, 46, 1194-1202. "Astrocytic Responses to Binge Alcohol Intake in the Mouse Hindbrain."
Hasegawa H, Daito M, Kondo M, Nakayama K.	論文	BPB Rep. 2023, 6, 209-216. "Astrocytic Responses to Binge Alcohol Intake in the Mouse Hindbrain."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
脳内アストロサイトのアルコール過剰摂取に対する反応の多様性	2023年11月	第96回 日本生化学会大会
過剰なエタノールの反復摂取による神経障害発症のメカニズム	2024年3月	日本薬学会 第144年会

授乳中の母体マウス乳頭におけるマクロファージの変化	2024年9月	フォーラム2025 衛生薬学・環境トキシコロジー
アルコールの不適切な摂取が及ぼす生体影響	2025年2月	第8回 Neuro-Vascular 研究会
Leakage of blood components in the early phase of ischemic stroke pathogenesis	2025年3月	日本薬学会 第145年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1995年10月～現在	日本薬学会会員 (学術誌編集委員, 2019年～2021年) (環境・衛生部会: 2017年～2018年 財務委員, 2017年～現在 研究戦略委員, 2018年～2021年 総務委員, 2022年～現在 常任世話人, 2022年～2025年 総務委員会委員長, 2022年～現在 試験法出版委員, 2025年～現在 財務委員会委員長) (生物系薬学部会: 2024年～ 常任世話人)	
1995年12月～現在	日本生化学会会員 (2024年～ 評議員)	
2002年2月～現在	日本神経科学学会会員	
2008年2月～2023年3月	日本細胞生物学会会員	
2008年3月～現在	日本脂質生化学会会員	
2017年1月～現在	老化促進モデルマウス (SAM) 学会会員	
2017年5月～現在	日本毒性学会会員 (2021年～ 評議員)	
2019年8月～現在	日本神経化学学会会員	
2021年4月～現在	BPB Reports誌編集委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	製剤学研究室	職名	教授	氏名	坂根 稔康
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1) 学部学生に対する教育		2017年～ 2020年～ 2017年～ 2017年～ 2023年～ 2024年～	教科書のポイントをまとめ、重要単語を記入できるように工夫したプリント、国家試験過去問題をまとめたプリントを作製して、学生に配布している。また、授業で説明する製剤の中で、入手可能なものに関しては購入し、製剤の実物を学生に見せている。 創薬物理薬剤学（3年生前期、兼担） 臨床薬剤学Ⅱ（6年生前期、兼担） 薬学総合講座（6年生前期・後期、兼担） 化粧品学（4年生前期、兼担） ロジカル思考演習Ⅱ（2年生，3年生前期） 物理薬剤学（3年生前期、兼担）		
(2) 大学院生への教育		2016年～2022年 2016年～	様々な研究テーマや成果に触れることで、知識・見識を深めてもらうために、可能な範囲で、外部の研究者を招聘し、講演を聴いてもらっている。 薬剤学特論（大学院修士課程） 臨床薬剤学特論（大学院博士課程）		
(3) 他大学での講義		2017年～2024年	薬物治療学特論（神戸大学大学院医学研究科） 修士課程の学生約20名を対象に、自分が得た研究結果を中心に解説している。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
「生物薬剤学（改訂第4版）」（南江堂）		2024年3月1日	第2章2「非経口剤からの吸収」(pp.50 - pp.66)を執筆した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
学会発表（第8回日本薬学教育学会大会）		2023年8月20日	「初年次教育における学習方略の改善を目指した授業の検討 ―誤概念のフィードバックとメタ認知的支援の観点から―」		
学会発表（日本薬学会第144年会）		2024年3月29日	神戸薬科大学における低学力学生の学習特性、性格特性に関する調査		

<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>教務部長</p> <p>総合教育研究センター センター長</p> <p>教務委員会委員</p> <p>総合教育研究センター・統括部門委員（兼任）</p> <p>FD研修会 参加</p>	<p>2019年4月～2022年3月</p> <p>2022年4月～2024年3月</p> <p>2024年4月1日～</p> <p>2024年4月1日～</p> <p>2022年3月11日</p> <p>2022年7月19日</p> <p>2023年3月16日</p> <p>2023年5月15日</p> <p>2023年10月16日</p> <p>2024年3月14日</p> <p>2024年10月28日</p>	<p>カリキュラムの大幅改訂を実施した。</p> <p>「入学前教育」を計画し、立ち上げた。</p> <p>「学修支援の現状と取り組み」</p> <p>「授業設計と成績評価について」</p> <p>「アクティブラーニングについて」 「ロジカル思考演習」</p> <p>「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」</p> <p>「アクティブラーニングについて（その2）」 「チューター制度について」</p> <p>「アクティブラーニングについて（その3）」</p> <p>「OSCEの適正な実施に向けて」</p>
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>Yusuke Hatakawa, Akiko Tanaka, Tomoyuki Furubayashi, Hidemasa Katsumi, Rina Nakamura, Motomi Konishi, Toshifumi Akizawa, Toshiyasu Sakane</p>	<p>論文</p>	<p><i>Eur. J. Pharm. Biopharm.</i>, 2025, 208, 114661. "Efficient nose-to-brain delivery of nine residues peptide (JAL-TA9) exhibiting hydrolytic activity against amyloid-β"</p>
<p>Ryosuke Tatsuta, Akiko Tanaka, Ken-ichi Ogawarae, Kazutaka Higaki, Tomoyuki Furubayashi, Toshiyasu Sakane</p>	<p>論文</p>	<p><i>Eur. J. Pharm. Biopharm.</i>, 2025, 208, 114612. "In vivo systemic evaluation of nasal drug absorption from powder formulations in rats"</p>
<p>Yuki Matsushima, Reo Kainuma, Hidemasa Katsumi, Akiko Tanaka, Tomoyuki Furubayashi, Toshiyasu Sakane</p>	<p>論文</p>	<p><i>AAPS PharmSciTech</i>, 2025, 26, 142. "Tablet Color Changes Due to Light Irradiation and Titanium Dioxide :Color Change Prevention Using Plasticizers"</p>

Naoki Tamura, Kotaro Itohara, Yo Ueda, Yumi Kitahiro, Kazuhiro Yamamoto, Tomohiro Omura, Toshiyasu Sakane, Jun Saegusa, Ikuko Yano	論文	<i>JMIR Res. Protoc.</i> , 2025, 14, e72549. "Optimization of Preemptive Therapy for Cytomegalovirus Infections With Valganciclovir Based on Therapeutic Drug Monitoring: Protocol for a Phase II, Single-Center, Single-Arm Trial"
Tomoko Kurimura, Tomohiro Omura, Kazuhiro Yamamoto, Hidekazu Tanaka, Takeshi Kimura, Kotaro Itohara, Yumi Kitahiro, Yasushi Habu, Toshiyasu Sakane, Ikuko Yano.	論文	<i>Kobe J. Med. Sci.</i> , 2024, 70, E125-E129. "Prolonged Prothrombin Time due to Drug–Drug Interaction of Warfarin After the Change from Bosentan to Macitentan: A Case of Pharmacist Intervention in the Outpatient Clinic"
Satoshi Seino, Hiroto Ikehata, Mizuki Tanabe, Tomohiro Umeda, Takami Tomiyama, Akiko Tanaka, Tomoyuki Furubayashi, Toshiyasu Sakane, Toshihiko Kiwa, Masaomi Washino, Kota Nomura, Shun Tonooka, Akihiro Izawa, Yuki Okumura, Takashi	論文	<i>J Control. Release</i> , 2024, 367, 515-521. "Investigating the efficacy of nasal administration for delivering magnetic nanoparticles into the brain for magnetic particle imaging"
Yasumasa Kakei, Takeshi Ioroi, Keiko Miyakoda, Takahiro Ito, Masahiko Kashin, Tatsuya Shirai, Takumi Hasegawa, Toshiyasu Sakane, Ikuko Yano, Masaya Akashi	論文	<i>Cureus</i> , 2024, 16, e57516. "Assessment of Patient Characteristics Influencing the Analgesic Effects of Ibuprofen Gargle After Mandibular Third Molar Extra"
Yuki Matsushima, Masaki Hattori, Akiko Tanaka, Tomoyuki Furubayashi, Toshiyasu Sakane	論文	<i>AAPS PharmSciTech</i> , 2024, 25, 26. "Changes in Tablet Color Due to Light Irradiation: Photodegradation of the Coating Polymer, Hypromellose, by Titanium Dioxide"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
鼻腔内投与によるOxytocinの脳内動態	2024年3月	日本薬学会第144年会
Oxytocin 鼻腔内投与後の脳内動態に対する Glymphatic systemの影響	2024年5月	日本薬剤学会第39年会
鼻腔内投与後の薬物の脳内移行性：Microdialysis法による評価	2024年5月	日本薬剤学会第39年会
Oxytocin 鼻腔内投与後の脳移行特性 – Glymphatic systemの影響 –	2024年7月	第39回日本DDS学会学術集会
鼻腔内投与によるoxytocinの脳への移行性 – Glymphatic Systemと脳移行性の関係 –	2024年10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会等および社会における主な活動		
1985年2月～	日本薬学会会員（現在に至る）	
1989年4月～	日本DDS学会会員（現在に至る）	
1992年4月～	日本薬剤学会会員（現在に至る）	

坂根

2016年4月 ～	日本薬学会近畿支部委員（現在に至る）
-----------	--------------------

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬化学研究室	職名	教授	氏名	奥田 健介
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
生薬化学 天然物化学・生物有機化学 有機化学IV 医薬品開発 有機化学実習 天然物化学・生薬学実習 ロジカル思考演習I・III 基礎薬学演習 総合薬学講座 卒業研究 総合医薬品化学特論 化学系創薬学特論		2017年4月－2022年9月 2024年4月－ 2017年9月－2022年3月 2020年4月－ 2016年4月－2022年9月 2023年4月－ 2022年9月－ 2017年1月－ 2016年9月－ 2016年4月－ 2017年4月－2023年9月 2016年4月－		生薬化学においては、生合成も有機化学反応で説明できることを強調して講義を行っている。こちらはパワーポイントファイルを提示しながら進めている。また、補助プリントを作成して活用している。 天然物化学・生物有機化学においては、関連する諸科目での講義内容にも踏み込みつつ、パワーポイントファイルを提示しながら進めている。また、補助プリントを作成して活用している。 有機化学IVにおいては、板書を中心として講義にめりほりをつけ、適宜学生の応答により理解度を確認している。 医薬品開発においては、創薬に携わる企業や規制官庁、さらにアカデミア創薬に携わる実務家を招いて、最新の知見の教授をも行っている。 有機化学実習、天然物化学・生薬学実習においては、こまめに実習室を巡回して実技指導を行っている。また、ディスカッションを行って学生の理解を深めている。 ロジカル思考演習I・IIIにおいては、科学記事や科学論文等に関する「検索・要約・発表」を受講生がトレーニングできるように演習を組み立てている。 総合薬学講座・基礎薬学演習（強化セミナー）においては、有機化学・生薬学系の内容を分担し、ポイントを踏まえた国家試験対策・CBT対策の講義を行っている。 卒業研究においては、学生個々の目的意識を涵養するべく、実験研究に対して責任を持って取り組めるように工夫している。また研究に関連する原著論文を選んで批判的に読解し、その内容を発表する機会を設けている。 総合医薬品化学特論・化学系創薬学特論においては最新の創薬化学・ケミカルバイオロジー研究を踏まえた内容を盛り込んで、必ずしも本分野を専門としない大学院学生にもこれら領域の最先端に触れられるように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書					
有機化学実習書 天然物化学・生薬学実習書		2017年4月－2022年9月 2023年4月－		2017年度より新しく生薬化学の内容を取り入れた「有機化学実習書」の作成を行い、2018年度以降毎年度改訂を行った。 カリキュラム改定に伴い、2023年度より有機化学を外したうえで生薬学の内容を取り入れた「天然物化学・生薬学実習書」を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
特になし					

<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>高等学校生徒への教育</p> <p>他大学学生への教育</p> <p>FDへの参加状況</p>	<p>2021年6月17日, 2022年7月16日, 2022年7月23日, 2022年12月16日, 2025年3月15日</p> <p>2021年7月20日, 2022年7月27日, 2023年1月11日, 2023年7月19日, 2024年1月10日, 2024年7月17日, 2025年1月8日</p> <p>2021年7月19日</p> <p>2022年3月11日</p> <p>2022年7月19日</p> <p>2023年3月16日</p> <p>2023年5月15日</p> <p>2023年10月16日</p> <p>2024年10月28日</p> <p>2025年3月11日</p>	<p>高等学校生徒に対して、くすりの開発に関する講義、薬学の紹介に関する講義、ならびにキャリア教育講演を行った。</p> <p>中京大学にて薬学関連領域に関する「法学」および「日本国憲法」の講義を行った。</p> <p>「遠隔授業の効果的な実施方法について (weclassの利用について)」</p> <p>「WebClass使用実例の紹介」</p> <p>「学修支援の現状と取り組み」</p> <p>「授業設計と成績評価について」</p> <p>「アクティブラーニングについて」「ロジカル思考演習」</p> <p>「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」</p> <p>「アクティブラーニングについて (その2)」「アクティブラーニングについて (その2)」</p> <p>「OSCEの適正な実施に向けて」</p> <p>「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」</p> <p>これらについて参加した。</p>
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>A. Takagi, K. Usuguchi, I. Takashima, K. Okuda</p>	<p>論文</p>	<p><i>Org. Lett.</i> <b>23</b>(11), 4083-4087 (2021). “Total Synthesis of Antiausterity Agent (±)-Uvaridacol L by Regioselective Axial Diacylation of a <i>myo</i>-Inositol Orthoester”</p>
<p>A. Takagi, K. Usuguchi, I. Takashima, K. Okuda</p>	<p>論文</p>	<p><i>Chem. Pharm. Bull.</i> <b>71</b>(8), 641-649 (2023). “Development of 1,3,6-Tribenzoylated Glucose as an Antiausterity Agent Targeting Tumor Microenvironment”</p>

A. Takagi, I. Takashima, K. Okuda	論文	<i>RSC Adv.</i> <b>15</b> (1), 428-434 (2025). “A turn-on fluorescent probe containing a $\beta$ -ketoester moiety for the selective detection of intracellular hydrazine”
K. Okuda, A. Takagi, R. Shimizu, K. Nishi, N. Hayano, I. Takashima, M. Konishi	論文	<i>ChemMedChem</i> <b>20</b> (7), e20240081 (2025). “Total Synthesis of Antiausterity Agent Callistrilone 0 Reveals Promising Antitumor Activity in a Melanoma Homograft Mouse Model”
K. Usuguchi, A. Takagi, I. Takashima, K. Okuda	論文	<i>RSC Adv.</i> in press (2025). “Elucidation of the Acid Reactivity of Polyhedral Orthoformates for the Synthesis of Carbasugar Derivatives”
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
亜鉛触媒反応を応用した細胞内亜鉛イオンの高感度検出プローブの開発	2021年9月	第22回日本亜鉛栄養治療研究会学術集会
アノマー位水酸基を配向基とするグルコースの選択的アシル化反応の開発	2023年11月	第49回反応と合成の進歩シンポジウム
グルコース誘導体の効率的合成に資する位置選択的アシル化反応の開発	2023年11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
Drug discovery and development of antiausterity agents inspired by (-)-uvaridacol L against cancer cells tolerant to nutrient starvation	2024年3月	ACS Spring 2024
がん細胞の獲得した栄養飢餓耐性解除能を有する5-アリーリデン・ロダニン誘導体の小胞体ストレス応答関連因子に着目した分子標的の探索	2025年3月	日本薬学会第145年会
3. その他		
演題名	発表年・月	行事名
高感度亜鉛および銅蛍光プローブの開発	2022年1月	令和3年度産学官交流ミーティング

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
1995年12月～現在	日本薬学会会員
2009年2月～現在	日本がん分子標的治療学会会員
2011年10月～現在	日本分子イメージング学会会員
2012年1月～現在	国際癌治療増感研究協会会員
2016年5月～現在	日本薬学会近畿支部（現：関西支部）委員
2017年4月～現在	薬学教育協議会 生薬学・天然物化学教科担当教員会議担当教員
2018年7月～現在	日本薬剤師会および兵庫県薬剤師会会員
2020年4月～2025年3月	薬学教育協議会 有機化学系教科担当教員会議担当教員
2020年4月～現在	日本私立薬科大学協会薬剤師国家試験問題検討委員会「物理・化学・生物」部会委員
2020年4月～現在	国際癌治療増感研究協会理事（2024年4月より常任理事）
2022年12月～現在	アメリカ化学会会員
2024年12月～現在	英国王立化学会会員

## 専任教員の教育・研究業績

所属 医薬細胞生物学研究室	職名 教授	氏名 士反伸和
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2017年～2021年	基礎生命科学（1年生前期）・・・イラストを豊富に用い生命を理解しやすい講義とした。2021年度ベストティーチャー賞を受賞。
	2017年～現在	薬用資源学（3年生後期、後半6回）・・・スライド、プリントとwebclassを活用して薬学の多様な学びを講義した。
	2017年～現在	細胞生物学実習（2年生前期）・・・顕微鏡観察などを中心に、マウスの臓器組織や細胞の観察、理解の促進などを実習と通して行った。
	2022年～現在	機能形態学I、II（1年生前期、後期）・・・イラストを豊富に用い生命や組織、臓器などを理解しやすい講義とした。機能形態学Iで2023年度ベストティーチャー賞を受賞。
	2022年～現在	ロジカル思考演習（1年生後期）・・・科学クイズなどを用いて多様な視点と思考力、一次情報を調べる力などを指導、演習した。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021. 07. 19	WebClass使用実例の紹介（神戸薬科大学 FD研修会）
	2023. 03. 16	アクティブラーニングについて（神戸薬科大学 FD研修会）

<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>	<p>2021年度 2023年度  FD参加  FD参加 2021/7/19  FD参加 2022/3/11 FD参加 2022/7/19  FD参加 2023/3/16  FD参加 2023/5/15  FD参加 2023/10/16  FD参加 2024/3/14  FD参加 2024/9/26  FD参加 2024/10/28  FD参加 2025/3/11</p>	<p>ベストティーチャー賞（基礎生命科学） ベストティーチャー賞（機能形態学I）   遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）（土生先生） WebClass使用事例の紹介（士反）  学修支援の現状と取り組み（児玉・竹仲・西村先生） 授業設計と成績評価について（安岡久先生）  アクティブラーニングについて（山野先生） ロジカル思考演習（士反）  新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み（坂根・山野・児玉先生）  アクティブラーニングについて（その2）（山野先生） チューター制度について（小山先生）  アクティブラーニングについて（その3）（山野先生）  生徒化する大学生（杉谷祐美子先生）神戸学院大学FDセミナー  OSCEの適正な実施に向けて（河内正二先生）  薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望</p>
<p>II 研究活動</p>		

1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Yamada Y., Urui M., Shitan N.	総説	Plant Biotechnol., 2024, 41: 195-202 "Integration of Co-culture and Transport Engineering for Enhanced Metabolite Production"
Yamada Y., Tamagaki E., Shitan N., Sato F.	論文	Plant Biotechnol., 2024, 41: 267-276 "Integrated metabolite profiling and transcriptome analysis reveal candidate genes involved in the biosynthesis of benzylisoquinoline alkaloids in <i>Corydalis solida</i> ."
Urui M., Yamada Y., Nakagawa A., Sato F., Minami H., Shitan N	論文	Biol Pharm Bull, 2023, 46(10):1494-1497 "Enhanced Co-culture System Using <i>Escherichia coli</i> and <i>Pichia pastoris</i> ( <i>Komagataella phaffii</i> ) for Improved Microbial Production of Valuable Plant Alkaloids"
Shitan N., Nishitani S., Inagaki A., Nakahara Y. Yamada Y., Koeduka T.	論文	Plant Gene 2023, 33:100391 "Gene expression analysis of the ATP-binding cassette transporter ABCD1 in petunia ( <i>Petunia hybrida</i> ) and tobacco ( <i>Nicotiana spp.</i> )"
Yamada Y., Nakagawa A., Sato F., Minami H., Shitan N.	論文	Biosci., Biotechnol., Biochem., 2022, 86:865-869, "Transport engineering using tobacco transporter NtJAT1 enhances alkaloid production in <i>Escherichia coli</i> "
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
リンドウの ABCC 輸送体および MATE 輸送体の発現解析	2024年3月	第65回日本植物生理学会年会(神戸)

Transport Engineering Improves the Production and Secretion of Valuable Alkaloids in Microorganisms	2023年3月	19th International Workshop on Plant Membrane Biology
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2014年4月～現在に至る	日本生薬学会 代議員、関西支部委員	
2016年7月～現在に至る	トランスポーター研究会顧問	
2017年4月～2023年3月	ファルマシア 編集委員	
2020年4月～2021年3月	日本生薬学会 関西支部支部長	
2020年9月～現在に至る	日本植物バイオテクノロジー学会代議員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬理学研究室	職名 教授	氏名 小山 豊
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2017年～ 2018年～ 2017年～ 2023年～ 2024年～	薬理学Ⅲ 薬理学Ⅳ 総合薬学講座 ロジカル演習Ⅱ ロジカル演習Ⅳ
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年 5月  2022年 11月	『Cellular, Molecular, Physiological, and Behavioral Aspects of Traumatic Brain Injury The Neuroscience of Traumatic Brain Injury』 Chapter 18, Angiopoietin-1/Tie-2 signaling in traumatic brain injury, pp219-230. Academic Press, Elsevier Edited by R. Rajendram et al.  『新しい疾患薬理学』改訂第2版 第4章 循環器内科領域の疾患に用いる薬物 p 271-328 南江堂 岩崎克典、徳山尚吾 編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年10月16日	「チューター制度について」 神戸薬科大学FD研修会
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会(神戸薬科大学開催分)への参加	2021年7月19日 2022年3月11日	「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」 「学修支援の現状と取り組み」

	2022年7月19日	「授業設計と成績評価について」
	2023年5月15日	「ロジカル思考演習」、「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2025年3月11日	「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Koyama Y.	論文	Endothelin ETB receptor-mediated astrocytic activation:Pathological roles in brain disorders. Int J Mol Sci. 2021 22:4333
Michinaga S, Koyama Y.	論文	Pathophysiological responses and roles of astrocytes in traumatic brain injury. Int J Mol Sci. 2021 22:6418
Michinaga S, Hishinuma S, Koyama Y.	論文	Roles of Astrocytic Endothelin ETB Receptor in Traumatic Brain Injury. Cells. 2023 12:719
Michinaga S, Hishinuma S, Koyama Y.	論文	Roles of astrocytic sonic hedgehog production and its signal for regulation of the blood-brain barrier permeability. Vitam Horm. 2024 126:97
Koyama Y, Hamada Y, Fukui Y, Hosogi N, Fujimoto R, Hishinuma S, Ogawa Y, Takahashi K, Izumi Y, Michinaga S.	論文	Endothelin-1 increases Na <sup>+</sup> -K <sup>+</sup> -2Cl <sup>-</sup> cotransporter-1 expression in cultured astrocytes and in traumatic brain injury model: An involvement of HIF1 $\alpha$ activation. Glia. 2024 72:2231
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
ミクログリアの炎症性活性化に関与する細胞内情報伝達経路に対する新規Nrf-2活性化薬TPNA10168の作用	2022年 10月8日	第72回 日本薬学会関西支部大会

BQ788, a selective ETB receptor antagonist alleviates inflammatory reactions after traumatic brain injury in mice	2022年 11月03日	第96回 日本薬理学会年会
抗酸化ストレス応答転写因子Nrf2の活性化物質探索と作用解析	2024年 3月29日	日本薬学会 第144年会
アレルギー性の反応はイミキモド誘導乾癬モデルを悪化させる	2024年 3月30日	日本薬学会 第144年会
Endothelin-1 stimulates expression of astrocytic Na <sup>+</sup> -K <sup>+</sup> -2Cl <sup>-</sup> cotransporter-1 (NKCC1) through activation of hypoxia inducible factor-1 $\alpha$	2025年 3月17日	第98回 日本薬理学会年会
III 学会等および社会における主な活動		
2011年 ～現在	Neurochemistry International誌 Editorial Advisory Board	
2012年 ～現在	The Journal of Pharmacological Sciences誌 Advisory Board	
2021年4月～2024年3月	Biological and Pharmaceutical Bulletin誌 Section Editor	
2021年4月～2024年3月	公益社団法人 日本薬学会 学術誌編集委員	
2022年4月～現在	公益社団法人 日本薬学会関西支部 幹事	
2023年5月～2025年4月	公益社団法人 日本薬学会 2023年度長井記念薬学研究奨励支援選考委員	
2023年5月～現在	Frontiers in Cellular Neuroscience誌 Associate Editor	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 英語第二研究室	職名 教授	氏名 玉巻 欣子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
早期体験学習（1年次必修科目）	2012年4月～2024年3月	病院・薬局訪問のサポート、施設訪問の付添、発表会のサポート、また実習先病院・薬局への挨拶など、円滑な授業運営を目指して。2023年度は全体授業「プロトコル作成」の講義も担当した。「救命救急インストラクター」として学生の救急救命講習の指導も行っている。
英語I・III（旧カリ1年次必修英語）	2014年4月～2022年3月	大学で学ぶ英語の基礎となる英文法を基礎から学習する授業を実施した。パワーポイントのスライド等も利用して、単調にならず分かりやすい文法授業を心がけた。
英語V・VI（旧カリ2年次必修英語）	2012年4月～2023年3月	薬学生が最低限知っておくべき医学英語語彙・表現の習得、医療系英文読解・速読力の向上を目指す授業を実施した。2013年度からは、英語eラーニングを取り入れた授業を開始し、教員による対面授業とeラーニングを融合したブレンディッド授業を展開した。
実用英語（旧カリ2年次選択科目）	2013年4月～2022年8月	英語eラーニング自己学習によるTOEIC対策に重点を置いた授業（単位認定科目）を担当した。
英語III(2年次必修科目)	2023年4月～現在	薬学生が最低限知っておくべき医学英語語彙・表現の習得、薬学系英文読解力向上を目指す授業を実施している。医学英語語彙学習には英語eラーニングを取り入れ、教員による対面授業とeラーニングを融合したブレンディッド授業を展開している。読解にはやや難易度の高いテキストを使用し、今後の英文論文読解に必要となる読解力と考える力の養成に努めている。
英語IV(2年次必修科目)	2023年9月～現在	薬学生が最低限知っておくべき医学英語語彙・表現の習得、薬学系英文読解力向上を目指す授業を実施する。医学英語語彙学習には英語eラーニングを取り入れ、教員による対面授業とeラーニングを融合したブレンディッド授業を展開する。読解にはやや難易度の高いテキストを使用し、今後の英文論文読解に必要となる読解力と考える力の養成に努める。
総合文化演習（旧カリ2年次必修科目）	2015年4月～2023年3月	「患者体験記・闘病記から医療を考える」というテーマでゼミを展開した。ナラティブ・メディスンの枠組みに基づいて闘病記を読み、テーマを設定し、SGD、プレゼンテーション、レポートを通して様々な角度から医療についての考察を深めさせた。

<p>ロジカル思考演習</p>	<p>2023年9月～現在</p>	<p>「患者体験記・闘病記から医療を考える」というテーマで展開する。ナラティブ・メディシンの枠組みに基づいて闘病記を読み、テーマを設定し、SGD、プレゼンテーション、レポートを通して様々な角度から医療についての考察を深めさせている。グループ毎に研究テーマを決め、発表内容を論理的に組み立てる力を養う。プレゼンテーションでは学生全員に質問、発表の改善点などを毎回書かせ、質疑応答の練習も行う。最終的に発表テーマに基づいたレポートも書かせることにより思考力、文章力の養成も目指す。</p>
<p>実用薬学英語（4年次専門選択科目）</p>	<p>2012年4月～現在</p>	<p>外国人患者に対する英語での服薬指導に必要な医学・薬学英語の語彙・表現を学ぶ授業を実施している。学生同士のロールプレイ、英文での家庭医学書読解、薬剤師会話のリスニングなど、多角的な方法で医療系英語力増強に努めている。2012年度および2017-2018年度学生評価によるベストティーチャー賞受賞。</p>
<p>海外薬学研修</p>	<p>2013年4月～現在</p>	<p>研修の国内における事前講義と米国ボストン現地での指導を担当している。コロナ禍以前は、マサチューセッツ薬科健康科学大学(MCPHS)での本学の学生による英語プレゼンテーションを企画・指導、またボストン市内の薬局でのフィールドワークを企画・指導していた。2021年度～2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大のためボストン研修が中止となり、その代替案として、本学教員、ボストンのMCPHS大学教授と協同して、オンライン講義を実施した。十分な事前学習をすることにより、国内でも英語でレクチャーを聞き、英語で質問する楽しみを学生に体験させることに努めた。2023年度はあらたにアリゾナ大学薬学部での研修が再開し、研修に向けた準備教育に従事した。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>	<p>2021年 共著 2021年 共著 2023年 日本医学英語教育学会編</p>	<p>『薬学生のための英語会話』II 研究活動欄参照 『第4版 これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現』II 研究活動欄参照 『第4版 日本医学英語検定試験基礎級（4級）・応用級（3級）問題選集・教本』（メジカルビュー社）査読委員 II 研究活動欄参照</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>	<p>2023年9月30日～10月29日</p>	<p>日本医学英語教育学会 2023年度第18回医学英語セミナー（オンデマンド配信） 玉巻欣子「Oral Case Presentation から医学英語を学ぶ」</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備事業申請および英語e-ラーニングシステムの管理・運用</p>	<p>2012年～2024年3月</p>	<p>「e-ラーニング教材利用による薬学生の総合的英語力向上」というプロジェクトにて文科省への申請を2012年度に行い採択された。以来、本学の英語e-ラーニングシステムの管理・運用を継続して担当し、学生の英語e-ラーニング推進を図った。</p>

ベストティーチャー賞	2012年度、2017-2018年度	実用薬学英语
委員会活動		
ハラスメント防止委員会	2015年9月～現在	
国際交流委員会委員	2017年4月～現在	本学が交流協定を締結している米国マサチューセッツ薬科健康科学大学(MCPHS)との連携強化をMCPHS側の教員と共に推進している。
図書館長	2019年4月～2024年3月	本学図書館長として学生の図書館利用の促進、効果的な研究支援ができる図書館を目指し、新図書館構築にも注力した。
入試委員会委員	2024年4月～現在	入試委員として優秀な学生受入れを目指す多様な入試の在り方を検討し、入試業務を遂行する。
一般社団法人 薬学教育協議会 「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（改訂版）英訳版作成ワーキンググループ委員	2023年9月25日～2025年3月31日	文科省委託事業「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（改訂版）英訳版作成に従事し、英訳版を完成させた。II 研究活動欄参照
FD研修会参加状況		
2021年7月19日	FD研修会「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」	「WebClass使用事例の紹介」
2022年3月11日	FD研修会「学修支援の現状と取り組み」	
2022年7月19日	FD研修会「授業設計と成績評価について」	
2023年3月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて」「ロジカル思考演習」	
2023年5月15日	FD研修会「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」	
2023年10月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて(その2)」「チューター制度について」	
2024年3月14日	アクティブラーニングについて(その3)、ルーブリック評価について	
2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて	
2025年3月28日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム2025	

II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
金子利雄、エリック・スカイヤー、板垣正、井原久美子、岩澤真紀子、河野享子、齋藤弘明、高橋和子、 <u>玉巻欣子</u> 、平井清子、堀内正子、吉澤小百合、渡辺朋子	著書（教科書）	『薬学生のための英語会話』 Dictation Unit 1～15、Reading comprehension & Listening Comprehension Unit 14. (2021) （東京化学同人）
<u>玉巻欣子</u> 、藤枝宏壽、Randolph Mann	著書（教科書）	『第4版 これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現』（2021）（メジカルビュー社）
<u>Kinko Tamamaki</u> and Yoshihiko Tauchi	研究ノート	“Japanese Pharmacy Students’ English Comprehension During the Pharmacy Study Abroad Program and Considerations for Effective Preparatory English Lectures” <i>Libra (Journal of Kobe Pharmaceutical University in Humanities and Mathematics)</i> . Vol. 22. pp.1-15. 2022.
五十嵐裕章、岩田淳、大下晴美、押見貴之、小島多香子、一杉正仁、松本珠希、森茂、安藤千春、 <u>玉巻欣子</u> 、Raoul Breugelmanns、Sean Chidlow 日本医学英語教育学会編	著書（教科書）	『第4版 日本医学英語検定試験基礎級（4級）・応用級（3級）問題選集・教本』（2023）（メジカルビュー社）査読委員
一般社団法人 薬学教育協議会 薬学教育モデル・コア・カリキュラム（改訂版）英訳版作成ワーキンググループ	英訳（共著）	Model Core Curriculum for Pharmacy Education -2022 Revision- ( <a href="https://www.mext.go.jp/content/20250206-mxt_igaku-100000058_01.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20250206-mxt_igaku-100000058_01.pdf</a> ) 査読有
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
<u>Kinko Tamamaki</u> , Shoji Kawauchi, Yoshimi Tomita, Yoshihiko Tauchi. ‘Remote Lecture by a Pharmaceutical Professional in the U.S. as an Alternative for “Study Abroad Pharmacy Program” J. of Medical English Education Vol.20 No.2（抄録集）p.37	2021年7月18日	第24回日本医学英語教育学会学術集会（金沢）新型コロナウイルス感染拡大によりオンライン開催。オンラインでの口頭発表（英語）
<u>玉巻欣子</u> 「米国薬学部における異文化対応力教育—大学公式ウェブサイトから見た実態報告」講演要旨集p.20	2022年10月1日	日本社会薬学会第38年会（東京）ポスター発表
「日本語による海外の医療・薬学事情等に関する講演がもたらす教育効果の検証」富田淑美、河内正二、八巻耕也、鎌尾まや、 <u>玉巻欣子</u>	2024年3月28日～3月31日	日本薬学会第144年会（横浜）ポスター発表
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2008年4月～現在	大学英語教育学会会員
1999年～現在	日本医学英語教育学会会員
2009年7月～2014年6月 2018年7月～現在	日本医学英語教育学会理事、医学英語検定試験制度委員
2015年～現在	日本社会薬学会会員
2016年～現在	日本薬学会会員
2016年～現在	日本薬学教育学会会員
2022年～現在	American Association of Colleges of Pharmacy 会員
2022年～現在	American Association for Applied Linguistics 会員
2020年4月～現在	神戸薬科大学生活協同組合 理事長

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬品化学研究室	職名	教授	氏名	上田 昌史
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
医薬品化学実習を担当		2021年度～現在	3年次配当(2013年度から2年次)の医薬品化学実習では、医薬品を実際に合成する実習を実施した。また、未知検体の構造決定を化学反応や確認試験を利用して行った。医薬品の性質を深く理解させるために、スモールグループディスカッションを通して使える有機化学について教育した。		
医薬品化学を担当		2021年度～2023年度	3年次配当の医薬品化学(旧有機化学VI)の講義では、医薬品構造と薬理作用の関連性について解説し、薬学における有機化学の重要性について説いた。また、高学年になっても忘れない覚える有機化学ではなく考える有機化学を徹底して説いた。		
有機化学IIIを担当		2021年度～2022年度	2年次配当の有機化学IIIの講義では、アルケンおよびアルキンの性質や反応について講義した。有機化学の基礎であるので、反応機構を丁寧に何度も繰り返し説明し、学生全体の理解度の向上を目指した。2021年度に授業評価によりベストティーチャー賞に選出された。		
合成化学IIを担当		2021年度～2024年度	4年次配当の夏期集中講義として、合成化学IIを担当した。これまで学修した有機化学関連分野の知識の定着と応用力の醸成のため、複雑な化合物の合成経路の立案をSGD形式で行った。また、学生同士の総合評価も組み入れた評価を行った。		
基礎有機化学を担当		2022年度～現在	1年次配当の基礎有機化学の講義を行った。内容は、高校で学んだ有機化学を大学レベルの視点から解説し、1年後期から始まる有機化学への橋渡し教育である。また、生化学への橋渡しとしてアミノ酸や糖についても概説した。		

ロジカル思考演習を担当	2022年度	1年次のロジカル思考演習を担当した。グループディスカッションなどを通して、論理的思考力、文章の読解力や表現力、コミュニケーション力などを習得することを目的に、ノーベル賞受賞研究および、全世界で開発が期待される薬についての調査、SGD,発表を行った。特に発表、質疑応答の回数をできるだけ多くして表現力、コミュニケーション力の醸成に注力した。
	2021年度～2023年度 2024年度～2025年度	入試部長 教務部長
2 作成した教科書、教材、参考書	2001年（毎年改訂） 2022年（毎年改訂） 2023年 2023年～2025年	医薬品化学実習実習書（毎年改訂） 基礎有機化学講義用プリント冊子 新スタンダード薬学シリーズ「第3巻 基礎薬学 IV. 有機化学」 薬学生のための有機化学演習
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)  <FDへの参加状況>	2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日	2021年度ベストティーチャー賞受賞 2023年度ベストティーチャー賞受賞  遠隔授業の効果的な実施方法について WebClass使用事例の紹介  学修支援の現状と取り組み  授業設計と成績評価について アクティブラーニングについてロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について

	2024年3月14日	アクティブラーニングについて (その3)
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Matsuzaki H., Takeda N., Yasui, M., Okazaki M., Suzuki S., Ueda M.	論文	Chem. Commun., 2021, 57(91), 12187-12190. "Synthesis of multi-substituted 1,2,4-triazoles utilising the ambiphilic reactivity of hydrazones"
Yasui M., Fujioka H., Takeda N., Ueda M.	論文	Org. Lett., 2022, 24(1), 43-47. "Anhydrous Hydrogen Iodide-Mediated Reductive Indolization of In Situ-Generated Cyclopropyl Hydrazones"
Ueda M., Ichimonji A., Nakayama M., Ito S., Takeda N., Yasui M.	論文	Chem. Pharm. Bull. 2023, 71(2), 83-92. "Copper-catalyzed Aerobic C(sp <sup>3</sup> )-H Oxidation of $\beta$ -(Alkoxy)imino Carbonyl Compounds"
Takeda N, Maeda R., Yasui M., Ueda M.	論文	Chem. Commun., 2024, 60(2), 172-175. "Synthesis of Oxime Ethers via A Formal Reductive O-H Bond Insertion Reaction of Oximes to $\alpha$ -Keto Esters"
Takeda N, Fujita S., Murakami K., Honda C., Tomoda H., Yasui M., Yamada T., Ueda M.	論文	Chem. Commun., 2025, 61(2), 7992-7998. "Zinc(II)-catalysed cyclocondensation of oxime ethers triggered by polarity inversion: construction of fused pyrroles"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
チオラクタムの求電子活性化を利用した[3.3]-シグマトロピー転位反応の開発	2024年・8月	有機合成若手セミナー
ヒドラゾンの分子内 [3+2] 付加環化反応による三環性ピラゾールの合成、他2件	2024年・10月	第74回日本薬学会関西支部大会
3-ヒドロキシピリジン構築を目指した0-ビニルオキシムの新規環化反応	2024年・10月	第53回複素環化学討論会

ジアゾ基を用いない還元的N-H 挿入反応の開発：ヒドラゾンの修飾、他1件	2024年・11月	第50回反応と合成の進歩シンポジウム
銅触媒を用いたヒドラゾンの分子内連続環化反応による三環性ヘテロ環の合成、他1件	2025年・3月	日本薬学会第145年会
3. その他		
連続ヘテロ原子の特異な性質を利用した複素環合成	2021年・6月	工学院大学講演会（依頼公演）
窒素-窒素結合が繰り出す多様性を活用した複素環合成	2022年・12月	有機合成化学協会関東支部 学生シンポジウム（依頼公演）
連続ヘテロ原子が拓くヘテロ環の新規合成法	2023年・9月	大阪公立大学講演会（依頼公演）
III 学会等および社会における主な活動		
1999年～現在に至る	日本薬学会会員	
2000年～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2011年～現在に至る	近畿化学協会会員	
2011年2月～2025年3月	有機合成化学協会関西支部幹事	
2017年8月～現在に至る	アメリカ化学会会員	
2019年4月～2022年3月	日本薬学会 学術誌編集委員	
2020年4月～2025年3月	日本薬学会 化学系薬学部会役員	
2022年～2023年	薬学研究奨励財団 選考委員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬剤学研究室	職名 教授	氏名 大河原 賢一
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1) 学部学生への教育  (2) 大学院生への教育  (3) 他大学での講義	2018年～ 2018年～  2018年～ 2018年～  2025年8月5日	毎回の講義内容に関連する演習問題を宿題として課し、翌週の講義の冒頭で解答・解説を行うことで、復習を促すと共に、遅刻の抑止力となることを期待している。自分で聞いても面白いと感じられる講義をしたいと常に心掛けている。 薬物動態学1（3年次前期）（2024年度より薬物動態学I） 臨床薬剤学I（4年次前期） 他4件  最新のトピックを取り入れると共に、自分自身の研究生生活で経験した様々な事柄（主に失敗談）を披露することで、受講生のモチベーション上昇に繋がればと期待している。 薬剤学特論（大学院修士課程） 臨床薬剤学特論（大学院博士課程） 神戸大学大学院医学研究科にて特論講義
2 作成した教科書、教材、参考書 新規モダリティ医薬品のための新しいDDS技術と製剤化（技術情報協会） 図解 腫瘍薬学改訂2版（川西正祐/賀川義之/大井一弥編集、南山堂）	2023年  2024年	「ニオソームを利用した抗がん剤の新規デリバリーシステムの設計と開発」を執筆（p. 291-296）  「マイクロRNAを用いた次世代がん診断」を分担執筆 他1件
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 神戸薬科大学ベストティーチャー賞受賞 FDへの参加状況	2023年5月15日  2021年7月19日	4年生担当科目：臨床薬剤学1 遠隔授業の効果的な実施方法について(webclassの利用について)（土生先生）

	2022年3月11日	WebClass使用実例の紹介（土反先生）
	2022年7月19日	学修支援の現状と取り組み（児玉・竹仲・西村先生）
	2022年7月19日	授業設計と成績評価について（安岡久先生）
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて（山野先生）
		ロジカル思考演習（土反先生）
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み（坂根・山野・児玉先生）
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて(その2)（山野先生）
		チューター制度について（小山先生）
	2024年3月14日	アクティブラーニングについて(その3)（山野先生）
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施にむけて（河内先生）
	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育（首藤先生、上田先生 他4名）
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
S. Tamer, Y. Kono, K. Higaki, T. Kimura, K. Ogawara	原著論文	J. Drug Deliv. Sci. Technol., 2023, 80, 104122 In vivo distribution characteristics and anti-tumor effects of doxorubicin encapsulated in PEG-modified niosomes in solid tumor-bearing mice
Y. Kono, R. Kamino, S. Hirabayashi, T. Kishimoto, H. Kanbara, S. Danjo, M. Hosokawa, K. Ogawara	原著論文	Biomedicines, 2023, 11, 558 Efficient liposome loading onto surface of mesenchymal stem cells via electrostatic interactions for tumor-targeted drug delivery
Y. Kono, T. Sugaya, H. Yasudome, H. Ogiso, K. Ogawara	原著論文	Biochemistry and Biophysics Reports, 2024, 38, 101713 Preparation of stable and monodisperse paclitaxel-loaded bovine serum albumin nanoparticles via intermolecular disulfide crosslinking
河野 裕允、大河原 賢一	総説	ファルマシア 最前線, 2025, 61(5), 433 細胞を利用したがん指向型DDSの開発
Y. Kono, K. Onishi, H. Kitamura, K. Ogawara	原著論文	J. Drug Deliv. Sci. Technol., 2025, 108, 106866 Development of liposome-loaded macrophages as tumor-targeted drug delivery carriers: Impact of macrophage phenotype on their liposome-loading capacity and tumor-homing potential.

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
乳酸菌由来細胞外小胞が腸管免疫系に与える影響の解明および経口投与を指向した製剤化に関する研究	2025年3月	日本薬学会 第145年会 (福岡)
がん微小環境で効率的に薬物を放出するpH応答性自己崩壊型リポソームの開発	2025年3月	日本薬学会 第145年会 (福岡)
免疫活性化剤としての利用を目指した酒粕由来細胞外小胞の特性評価	2025年5月	第40回日本薬剤学会 (東京)
血中滞留性と細胞結合性を兼ね備えた磁性リポソーム/トリメチルキトサン複合体の開発	2025年5月	第40回日本薬剤学会 (東京)
アシアチン酸による磁性リポソームの血中滞留性の向上に関する検討	2025年5月	第40回日本薬剤学会 (東京)
III 学会等および社会における主な活動		
2011年4月～2021年3月	日本薬剤学会 FG世話人 (2015年より副リーダー, 2019年よりリーダー)	
2011年4月～	日本薬剤学会 代議員	
2014年4月～	日本DDS学会 評議員	
2021年4月～	日本癌学会会員	
2017年4月～	日本薬物動態学会 評議員	
2018年4月～	日本薬学会 近畿支部委員	
2021年4月～	日本薬学会代議員 (関西支部)	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	生命有機化学研究室	職名	教授	氏名	波多野 学
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2020.4～現在	「有機化学II」を指導している。有機化合物の構造・性質・反応に関する基本的事項を習得させる。授業ではしばしば生体内の反応や生物活性物質との関連などに触れ、学生に興味を持たせるよう取り組んでいる。		
		2020.4～現在	「有機分析学実習」（旧カリ「機器分析学実習」）を指導している。有機化合物の分析を目的とする物質の定性・定量に関する基本的事項や機器の測定原理の基礎を習得させる。SGDによる積極的な議論を行い、理解を深める工夫をしている。		
		2020.4～現在	「アクティブ・ラボ」を指導している。薬学における有機化学研究領域を理解してもらうため、研究マインドの醸成と薬学に対するモチベーション向上を目的として指導している。触媒と選択性という観点から有機化学の基礎を体験させている。		
		2022.4～2023.3	「有機化学演習」を指導した。代表的な有機化合物の構造・性質・反応、立体構造、脂肪族および芳香族化合物の構造・性質・反応、官能基を持つ有機化合物の性質・反応に関することなど、基本的事項を全般的に修得させた。		
		2022.4～現在	「ロジカル思考演習I」および「ロジカル思考演習III」を指導している。薬学生としての意識やモチベーションを高める指導を行った。SGDでは充実したプレゼン資料作成を支援し、クラス内での議論を促し、全体発表会でも活発に質問させている。		
		2020.4～現在	「総合薬学講座」を指導している。化学部門有機合成化学分野を担当。国家試験に向けた実践的勉強に必要なポイントを重点的にわかりやすく解説している。		

	2020.4～現在	「化学系創薬学特論」(大学院博士課程)を指導している。医薬品創製化学分野の研究内容に関するより高度で専門的な最新的话题を紹介し、専門研究への橋渡し的な話題提供や授業を展開している。
	2020.4～2024.3	「総合医薬品化学特論」(大学院修士課程)を指導した。有機化学分野から医薬品を眺め、医薬品に対する理解を深める。医薬品合成を行うために必要な有機反応の基礎を習得し、それを応用できることを目的として指導している。
	2024.4～現在	大学院主幹として、大学院生の成績処理や、進学説明会などを開催した。
2 作成した教科書、教材、参考書	2021.11	有機合成のための新触媒反応101 [項目19、80を執筆]、有機合成化学協会 編、東京化学同人、ISBN: 9784807920051
	2020年～現在	有機分析学実習(旧カリ「機器分析学実習」)の実習書を毎年改訂して作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021.7.1	ハリマ化成グループ広報誌にて取材記事掲載。Harima Quarterly (HQ), No 147 (2021 SUMMER) 「One Hour Interview」100%を超える価値の創造を目指して 神戸薬科大学 教授 波多野 学
	2023.9.25	神戸県立御影高等学校で出張授業「薬を創るとは—薬学と化学の良い関係」
	2023.11.11 2023.11.18	薬学への誘い 明石北高校・小野高校・長田高校・市立西宮高校・姫路東高校 (研究紹介・カフェイン実習)
	2024.5.20	2023年度ベストティーチャー賞受賞
	FD研修会 2021.7.19	FD研修会参加 遠隔授業の効果的な実施方法について(webclassの利用について)、WebClass使用事例の紹介
	FD研修会 2022.3.11	FD研修会参加 学修支援の現状と取り組み
	FD研修会 2022.7.19	FD研修会参加 授業設計と成績評価について
	FD研修会 2023.3.16	FD研修会発表・参加 アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習
	FD研修会 2023.5.15	FD研修会参加 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み

FD研修会	2023. 10. 16	FD研修会参加 アクティブラーニングについて(その2)、チューター制度について
FD研修会	2024. 3. 14	FD研修会参加 アクティブラーニングについて(その3)、ルーブリック評価について
FD研修会	2024. 10. 28	FD研修会参加 OSCEの適正な実施に向けて
FD研修会	2025. 3. 11	FD研修会参加 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Kenji Yamashita, Yuji Tabata, Katsuya Yamakawa, Takuya Mochizuki, Kai Matsui, Manabu Hatano, Kazuaki Ishihara	論文	Chiral Macrocyclic Catalysts for the Enantioselective Addition of Lithium Acetylides to Ketones. J. Am. Chem. Soc. 2023, 145(48), 26238-26248.
Tatsuhiro Sakamoto, Kohei Toh, Kai Matsui, Manabu Hatano, Kazuaki Ishihara	論文	Effect of the U-Shaped Cavity of Conformationally Flexible Chiral Lewis-Acidic Boron-Based Catalysts in Multiselective Diels-Alder Reactions. Org. Lett. 2024, 26(17), 3607-3611.
Manabu Hatano, Kisara Kuwano, Riho Asukai, Ayako Nagayoshi, Haruka Hoshihara, Tsubasa Hirata, Miho Umezawa, Sahori Tsubaki, Takeshi Yoshikawa, Ken Sakata	論文	Zinc chloride-catalyzed Grignard addition reaction of aromatic nitriles. Chem. Sci. 2024, 15(22), 8569-8577.
Takeshi Yamada, Anri Kimura, Saya Takenouchi, Mizuki Sugahara, Mai Yoshioka, Yuhei Monta, Mike Matsuda, Manabu Hatano	論文	Concise Synthesis of Polyacyloxy Cyclic Ethers Using the p-Toluenesulfonic Acid-Catalyzed Cascade Esterification/Cyclization of Polyols. ChemCatChem 2025, 17(4), e202401723.
Kai Matsui, Kohei Toh, Tatsuhiro Sakamoto, Manabu Hatano, Kazuaki Ishihara	論文	The Latest Insights into Multiply Selective Diels-Alder Reactions Using a Chiral-Cavity-Structured Lewis-Acidic Boron Catalyst. Adv. Synth. Catal. 2025, 367(5), e202401560.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名

ホウ素Lewis酸-キラルリン酸複合触媒を用いるマルチ選択的Diels-Alder反応	2022年・9月	第36回若手化学者のための化学道場 師範講演（主催：有機合成化学協会中国四国支部）
高活性リン酸系触媒を用いる環境調和型エステル合成法の開発	2023年・6月	公益財団法人ひょうご科学技術協会 令和5年度学術研究助成贈呈式・研究発表会（依頼講演）
Chemoselective Triflation of Phenols Using N-Trifluoromethanesulfonylimidazole	2023年・11月	IKCOC-15 (The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry)
リチウムアセチリドのケトンへのエナンチオ選択的付加反応に有効なキラル大環状ジリチウム塩触媒の開発	2023年・11月	第16回有機触媒シンポジウム（主催：有機触媒研究会）
N-トリフルオロメタンスルホニルイミダゾールを用いるフェノールの高化学選択的トリフルル化反応	2024年・11月	第17回有機触媒シンポジウム（主催：有機触媒研究会）
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名
酸塩基協奏活性化を鍵とする高機能触媒の設計	2023年・7月	セントラル硝子株式会社 New-STEP研究所（招待講演）
脱PFASを指向した高化学選択的スルホニル化反応の開発	2025年・1月	名古屋大学 石原一彰研究室 新春セミナー（招待講演）
III 学会等および社会における主な活動		
1997年4月～現在に至る	日本化学会会員	
2000年4月～現在に至る	近畿化学協会会員	
2002年4月～現在に至る	日本薬学会会員	
2002年4月～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2003年4月～現在に至る	日本プロセス化学会会員	
2014年9月～現在に至る	アメリカ化学会会員	
2016年4月～2023年3月	産学研協力委員会「分子性触媒による高度分子変換技術」第194委員会委員	
2020年4月～2023年3月	名古屋大学大学院工学研究科客員教授	

波多野

2021年4月～現在に至る	日本薬学会関西支部委員
2023年4月～現在に至る	ヨウ素学会会員
2023年4月～現在に至る	有機触媒研究会会員

## 専任教員の教育・研究業績

所属	機能性分子化学研究室	職名	教授	氏名	田中将史
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2017年～現在	生物物理化学（3年次前期／後期、兼担）・・・プリント冊子の作成、動画コンテンツを利用した理解の促進を図った		
		2022年～現在	基礎物理化学（1年次前期、兼担）・・・プリント冊子の作成、Webclassを用いた演習、SAによる課題の添削を実施した		
		2023年～現在	基礎物理化学実習（2年次前期）・・・実習内容にとどまらず、他科目との関連性も踏まえた指導を行った		
		2021年・23年・25年	物理系創薬学特論（大学院博士）		
		2022年	物理系基礎創薬学特論（大学院修士）		
			2021年度ベストティーチャー賞		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項		2024年5月25日	薬剤師を目指す！薬学部進学セミナー in 高知での講演（入試委員として） 「薬剤師になるためには」		
		2024年7月1日	薬学共用試験センター CBT実施委員		

(FDへの参加状況)	2021年7月19日	遠隔授業の効果的な実施方法について (webclassの利用について) (土生先生) WebClass使用事例の紹介 (土反先生)
	2022年3月11日	学修支援の現状と取り組み (児玉・竹仲・西村先生)
	2022年7月19日	授業設計と成績評価について (安岡久先生)
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて (山野先生) ロジカル思考演習 (土反先生)
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み (坂根・山野・児玉先生)
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて (その2) (山野先生) チューター制度について (小山先生)
	2024年3月14日	アクティブラーニングについて (その3) (山野先生)
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて (河内先生)
	2025年3月11日	薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望 (首藤先生 ほか)
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Tanaka M.	総説	Chem. Pharm. Bull. 2022, 70 (8): 507-513. "Applications of Synthetic Polymer Discoidal Lipid Nanoparticles to Biomedical Research"
Tanaka M., Takarada T., Nadanaka S., Kojima R., Hosoi K., Machiba Y., Kitagawa H., Yamada T.	論文	Arch. Biochem. Biophys. 2023, 742: 109615. "Influences of Amino-Terminal Modifications on Amyloid Fibril Formation of Human Serum Amyloid A"

Hosokawa M., Inaba M., Tanaka M., Ogawara K.	論文	J. Pharm. Sci. 2024, 113 (4): 1047-1053. "Uptake Pathway of Styrene Maleic Acid Copolymer-coated Lipid Emulsions under Acidic Tumor Microenvironment"
Fukuda M., Takahashi K., Takarada T., Saito S., Tanaka M.	論文	J. Pharm. Sci. 2024, 113 (12): 3543-3553. "Synergistic Effect of Cyclodextrins and Electrolytes at High Concentrations on Protein Aggregation Inhibition"
Takarada T., Fujinaka R., Shimada M., Fukuda M., Yamada T., Tanaka M.	論文	Biochim. Biophys. Acta 2025, 1870 (2): 159588. "Effect of N-glycosylation on Secretion, Degradation and Lipoprotein Distribution of Human Serum Amyloid A4"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
NAFLDモデル細胞を用いた急性期および構成型血清アミロイドAの発現変動解析	2023年10月	第96回日本生化学会大会
抗体(IgG)の凝集制御に向けたアルギニンの対イオンの影響評価	2024年3月	日本薬学会第144年会
スチレンマレイン酸共重合体(SMA)エマルションのがん細胞への集積量評価と蛍光プローブの検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
急性期アポリポタンパク質SAAの構造特性とアミロイド原性	2024年9月	第64回日本臨床化学会年次学術集会
界面活性剤ポロキサマー407を用いたリン脂質-高分子複合ナノディスク粒子の調製とその構造評価	2025年3月	日本薬学会第145年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1999年3月～現在	日本薬学会正会員	
2005年8月～現在	日本生化学会正会員	
2007年2月～現在	日本膜学会正会員	
2007年8月～現在	日本ペプチド学会正会員	
2022年7月～現在	物性物理化学研究会委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター (実践薬学研究室)	職名 教授	氏名 白木 孝
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年4月～2021年7月	姫路獨協大学薬学部医療薬学科1年次学生 (2013年度はカリキュラム変更のため2012年度入学2年次学生も同時開講) に対して、医療倫理の講義を行った。1年次学生が医療倫理について考える必要性を理解できるよう、臨床現場で自らが経験してきた具体的な事例を多く紹介し、実際に医療現場で起きていることを、できるだけ臨場感を持って考えてみることに講義を行った。(姫路獨協大学薬学部で他2件)
	2022年4月～現在	1年次学生に対して、薬学入門の第2回から第4回の講義を行った。1年次学生が現在の薬剤師を取り巻く環境について、少しでも興味を持って理解できるよう、臨床現場で自らが経験してきた具体的な事例を含めて紹介し、実際に医療現場で起きていることを、できるだけ臨場感を持って考えてみることに講義を行った。
	2022年4月～現在	4年次学生に対して、OTCヘルスケア論の第1回から第6回の講義を行った。OTC薬について考える上でも、他の科目で学習してきた知識や考え方は非常に重要であるため、その都度復習としての説明も行い、有機的な知識の連携ができるように努めた。学生から資料をさらに分かりやすくしてほしいという意見があったため、重要な内容を分かりやすく、細かな情報があふれ過ぎないように変更も行った。
	2022年4月～現在	4年次学生に対して、薬事関係法規・薬事制度の第2回から第8回の講義を行った。細かい内容が多い科目であるが、具体的な事例を含めることで、興味を持ち理解を助けることができるよう努めた。学生から資料が細かすぎるとい意見があったため、重要な内容を簡潔に分かりやすく示すことができるように変更を行った。
	2024年4月～現在	2年次学生に対して、医療倫理学の講義を行った。教科書を用いながら臨床現場で自らが経験してきた具体的な事例も紹介し、実際に医療現場で起きていることを、できるだけ臨場感を持って考えてみることに講義を行った。(他講義、実習、演習4件)

2 作成した教科書、教材、参考書	2023年1月15日 2024年1月15日 2025年1月15日	薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト2023年版（じほう）分担執筆 薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト2024年版（じほう）分担執筆 薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト2025年版（じほう）分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日	FD研修会出席（学修支援の現状と取り組み） FD研修会出席（授業設計と成績評価について） FD研修会出席（アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習） FD研修会出席（新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み） FD研修会出席（アクティブラーニングについて（その2）、チューター制度について）
	2024年3月14日	FD研修会出席（アクティブラーニングについて（その3））
	2024年10月28日	FD研修会出席（OSCEの適正な実施に向けて）
	2025年3月11日	FD研修会出席（数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～）
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
L-カルニチンの欠乏を惹起する可能性のある医薬品とその代謝生成物に関する調査研究	2025年3月	日本薬学会第145年会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2013年4月～現在	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員
2013年4月～現在	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 テキスト小委員会委員
2014年4月～現在	兵庫県薬剤師会薬学教育部委員
2017年6月～現在	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構運営委員
2017年6月～2022年3月	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 事務局長補佐
2018年6月～現在	兵庫県薬剤師会薬学教育部副委員長
2018年8月～2022年3月	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 WEBシステム検討作業部会委員
2022年4月～現在	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 事務局長
2022年4月～2023年3月	一般社団法人 薬学教育協議会 WEBシステム検討委員会 ワーキンググループ委員
2022年4月～2024年3月	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 ICT作業部会座長
2024年4月～現在	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 ICT小委員会委員長
2024年5月～現在	一般社団法人 薬学教育協議会 WEBシステム検討委員会委員
2024年10月～現在	日本薬剤師レジデント制度研究会幹事
2024年10月～現在	日本薬剤師レジデント制度研究会薬学医療連携推進委員

専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 教授	氏名 山野 由美子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	～2023年	「有機化学演習」電子の動きにより化学反応が説明できることを理解させるために、電子の動きを中心に冊子にまとめて教材とし、講義と演習を行なった。
	～2023年	「合成化学Ⅰ」講義で使用したスライド資料に練習問題の答えと解説を入れて、毎週webclassにアップロードした。
	2022年～	「基礎実習」基礎的な実験手技や基本概念を全員が修得でき、高次学年の実習に繋がられるような内容を構築して実施した。
	2023年	「有機化学Ⅲ」有機Ⅱ、Ⅲで学んだ内容も復習しながら講義した。講義内で、理解度を確かめられるよう、練習問題を解く時間を多く取った。
	2023年～ 2024年～	「基礎薬学演習演習」化学分野 CBTや国家試験を意識して、基本的な概念や反応を理解できるよう有機化学全般を冊子にまとめ、講義内で演習も行なった。 「ロジカル思考演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」有機化学分野を担当 有機化学の基礎を固められるよう、講義と演習、SGDを行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書	2022年～	「基礎実習」の教材（冊子）作成
	2023年～	「基礎薬学演習（化学）」の教材（冊子）作成
	2023年	「有機化学Ⅲ」の教材（冊子）作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年7月19日	教授会での報告「新カリキュラムについて(2022年度施行)」

	2022年4月18日	教授会での報告「新カリキュラム 1年次後期の基礎実習について」
	2023年5月15日	FD研修会発表「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2023年10月16日	FD研修会発表「アクティブラーニングについて（その2）」
	2024年3月14日	FD研修会発表「アクティブラーニングについて（その3）」
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年3月11日	FD研修会参加「学修支援の現状と取り組み」
	2022年7月19日	FD研修会参加「授業設計と成績評価について」
	2023年10月16日	FD研修会参加「チューター制度について」
	2024年8月22日	SD研修会参加「障害のある合理的配慮と修学支援研修」
	2024年10月28日	FD研修会参加「OSCEの適正な実施に向けて」
	2024年3月11日	FD研修会参加「薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Takatani N., Miyafusa H., Yamano Y., Beppu F, Hosokawa T.	論文	Arch. Biochem. Biophys. 2024, 300. 107175.
Mizuno M., Sato K., Yamashita T., Sakai K., Imamoto Y., Yamano Y., Wada A., Ohuchi H., Shichida Y., Mizutani Y.	論文	Food Chem. 2023, 410, 135318. "Identification and tissue distribution of fucoxanthinol and amarouciaxanthin A fatty acid esters in fucoxanthin-fed mice"
Mizuno M., Sato K., Yamashita T., Sakai K., Imamoto Y., Yamano Y., Wada A., Ohuchi H., Shichida Y., Mizutani Y.	論文	J. Pys. Chem. B 2023, 127, 2169-2176. "Chromophore Structure in an Inactive State of a Novel Photosensor Protein Opn5L1: Resonance Raman Evidence for the Formation of a Deprotonated Adduct at the 11th Carbon Atom"
Yamano Y., Tanabe, M., Shimada, A., Wada, A.	論文	Mar. Drugs 2022, 20(11), 658. "Total Synthesis of Loroxanthin"
Seki, S., Yamano, Y., Oka, N., Kamei, Y., Fujii, R.	論文	FEBS Lett. 2022, 596(12), 1544-1555. "Discovery of a novel siphonaxanthin biosynthetic precursor in Codium fragile that accumulates only by exposure to blue-green light"

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Blue-to-green light regulates siphonaxanthin biosynthesis: Discovery of deoxysiphonaxanthin in an edible macrogreen alga, <i>Codium fragile</i>	2023年7月	19th International Symposium on Carotenoids
Blue-green light inhibits the biosynthesis of a unique photosynthetic carotenoid in the marine macrogreen alga <i>Codium fragile</i>	2023年7月	EMBO   COM Workshop 'Trans-Scale Biology' using exotic non-model organisms
シフォナキサンチンの蛍光特性：ICT状態の溶媒依存性の有無	2023年11月	第35回カロテノイド研究談話会
海洋性フラボバクテリア <i>Nonlabens spongiae</i> 由来遺伝子クラスターを利用した大腸菌での Myxol 生産	2023年11月	第35回カロテノイド研究談話会
アスタキサンチン由来アポカロテノイドの調製と生理活性評価	2023年11月	第35回カロテノイド研究談話会
3. その他		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1983年1月～現在に至る	日本薬学会会員	
1995年1月～現在に至る	日本カロテノイド研究会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	生命分析化学研究室	職名	教授	氏名	神谷由紀子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1)薬学部学生に対する教育		2023年～現在	総合薬学講座I（6年次前期） 授業内容に合わせたプリントの作成、演習問題の実施により理解を促した。		
		2023年～現在	分析化学系実習（2年次前期） 化学物質の化学的分析法・物理的分析法について理論と実験法の習得を促した。		
		2023年～現在	分析化学I（1年次後期） 医薬品の化学分析において基礎となる化学平衡：溶液中の酸塩基反応、沈殿生成反応、錯体生成反応、酸化還元反応等について、また、医薬品の定性試験・確認試験・純度試験について解説し、演習問題によって理解を促した。		
		2023年～現在	分析化学III（2年次後期） 化学物質の分離分析法：クロマトグラフィー・電気泳動、前処理、酵素や抗体を用いる分析法、ドライケミストリー等について解説し、演習問題によって理解を促した。		
		2023年～現在	ロジカル思考演習（1年次後期・2年次後期） 社会と科学をテーマに、身近なところから科学に関して興味を引く題材を見つけ、グループディスカッション・発表・質疑応答などを通して、情報収集力・論理的思考力、文章の読解力や表現力、コミュニケーション力などを醸成を促した。		
(2)大学院博士課程学生に対する教育		2023年～現在	物理系創薬学特論（大学院博士） 核酸化学に基づく創薬について基礎ならびに最新の知見を織り交ぜた内容を解説した。		
2 作成した教科書、教材、参考書					

3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2023年6月28日 2023年7月19日 2024年10月17日 FD研修会 2024年10月28日 FD研修会 2025年3月11日	甲南大学先端生命工学研究所 FIBER未来大学 なでしこScientistトークにおける公開講演 日経STEAM 女性研究者座談会に登壇 名古屋市立大学大学院講義「センサーデバイス開発学」講義 OSCEの適正な実施に向けて FD研修会参加 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
	Noda, Y.; Kato, N.; Sato, F.; Suzuki, Y.; Tsubota, S.; Kitai, H.; Komatsu, S.; Sato, Y.; Maeda, K.; Ishimoto, T.; Kosugi, T.; Kamiya, Y.; Kadomatsu, K.; Asanuma, H.; Maruyama, S.*	論文	<i>Kidney360</i> , 2025, 6, 900-913. "Ameliorative effect of an anti-microRNA-21 oligonucleotide on animal and human models of cystic kidney disease"
	Ariyoshi, J.; Asanuma, H.; Kamiya, Y.*	論文	<i>Current Protocols</i> , 2025, 5, e70103, "Protocol for controlling the strand selectivity of siRNA using acyclic artificial nucleic acids"
	Tsuboi, T.; Hattori, K.; Ishimoto, T.; Imai, K.; Doke, T.; Hagita, J.; Ariyoshi, J.; Furuhashi, K.; Kato, N.; Ito, Y.; Kamiya, Y.; Asanuma, H.; Maruyama, S.*	論文	<i>Mol. Ther. Nucleic Acids</i> , 2025, 36, 102387, "In Vivo Efficacy and Safety of Systemically Administered Serinol Nucleic Acid-Modified Antisense Oligonucleotides in Mouse Kidney"
	Kamiya, Y.*; Lao, S.; Ariyoshi, J.; Sato, F.; Asanuma, H.*	論文	<i>Chem. Commun.</i> , 2024, 60, 1257-1260. "Unexpectedly stable homopurine parallel triplex of SNA:RNA*SNA and L- <i>a</i> TNA:RNA*L- <i>a</i> TNA"

Zhu, H.; Kamiya, Y.*; Asanuma, H.*	論文	<i>ACS Chem. Biol.</i> , 2023, 18, 2281-2289. "Illuminating miRNA inhibition: Visualizing the interaction between anti-miRNA oligonucleotide and target miRNA using FRET"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
非環状型人工核酸を用いたanti-miR21核酸のデザイン	2025年3月	日本薬学会第145年会
Escape from recognition by nucleic acid-binding proteins to improve the performance of nucleic acid	2024年12月	第53回日本免疫学会学術集会
非環状型人工核酸と人工塩基からなる抗miR-21核酸の開発	2024年9月	第18回バイオ関連化学シンポジウム
Development of anti-miR-21 oligonucleotide composed of SNA and artificial nucleobases	2024年4月	ISBC2024
非環状型人工核酸からなる抗miR-21核酸の開発	2024年3月	日本化学会第104春季年会
III 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在	日本糖質学会会員	
2004年～現在	日本生化学会会員	
2006年～現在	日本蛋白質科学会会員	
2008年～現在	日本薬学会会員	
2012年～現在	日本化学会会員	
2012年～現在	日本高分子学会会員	
2015年～現在	日本核酸医薬学会会員 (2023年5月～ 評議員)	
2022年～現在	日本生物物理学会会員	
2023年～現在	日本薬学会関西支部委員	
2023年度～2024年度	分子科学研究所 客員教授	
2023年度～現在	名古屋大学大学院工学研究科 客員教授	

専任教員の教育・研究業績

所属 医療データサイエンス研究室	職名 教授	氏名 首藤 信通
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 本学薬学部学生への教育		
演習課題の答案の添削および解説	2023年9月～現在に至る	本学で開講している数学Ⅱ・統計学・医療統計学Ⅰ・医療統計学Ⅱの講義において、毎回の授業における演習課題の解説を行っている。特に、数学Ⅱは少人数クラスであったことから、演習課題の答案を添削し、個々の学生に対して返却することにより、丁寧なフィードバックを行った。
授業に関する配付資料の作成	2023年9月～2024年12月	本学で開講している情報リテラシー・薬学入門・医療統計学Ⅰ・医療統計学Ⅱ・総合薬学講座Ⅱの講義において、講義内容を説明するための授業配付資料を毎回作成・配付している。
研究指導	2024年10月～ 現在に至る	本学薬部部の学生に対して研究指導を行っている。
(2) 他大学学部学生への教育		
研究指導	2019年4月～2022年3月	神戸大学海事科学部海洋安全システム科学科の学生、近畿大学理工学部理学科数学コースの学生に対して研究指導を行った。
オンデマンド授業用動画の作成	2020年4月～2023年7月	数学およびデータサイエンスの講義動画を作成・編集し、COVID-19流行時においても学生が自宅学習を行えるような授業コンテンツを提供した。
(3) 他大学大学院生への教育		
研究指導	2019年4月～現在に至る	神戸大学大学院海事科学研究科海事科学専攻に所属する博士課程前期課程の大学院生、神戸大学大学院理学研究科数学専攻に所属する博士課程前期課程および博士課程後期課程の大学院生に対して研究指導を行っている。

<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>教科書（「薬学のための医療統計入門Ⅰ」）の執筆</p> <p>教科書（「薬学研究のための数理統計・研究デザインの基礎」）の執筆</p>	<p>2023年4月</p> <p>2024年4月, 2025年4月</p>	<p>本学の統計学の講義における記述統計と確率分布の学習内容をまとめた教科書を執筆し、学術図書出版社より出版した。</p> <p>本学の統計学の講義における記述統計・確率分布・研究デザイン・推測統計の学習内容をまとめた教科書を執筆し、学術図書出版社より初版を出版した。また、2025年4月に第2版を出版した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>理数系教員統計・データサイエンス授業力向上研修集会（兵庫）における講演</p>	<p>2022年10月</p>	<p>中学生・高校生向けに開催したデータサイエンスコンテストの実施方法やその教育効果について講演を行い、中等教育・高等教育におけるデータサイエンス教育の方法論について国内の教員と議論した。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の公募に対するリカレント教育事業の提案およびリカレント教育事業における授業実施</p> <p>全学における数理・データサイエンス・AI教育の運営等</p> <p>文部科学省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」で採択されたリカレント教育事業における授業実施</p> <p>FD研修会参加</p>	<p>2022年4月～2023年3月</p> <p>2022年4月～2023年9月</p> <p>2023年10月</p> <p>2023年10月16日 2025年7月22日</p>	<p>文部科学省に対して神戸大学数理・データサイエンスセンターが主体となって事業提案を行った「Society 5.0と地方創生を加速させる次世代DXリーダ育成プログラム」について提案書作成に携わった。また、事業計画が採択された後は本事業の提供するプログラムにおいて数理・データサイエンス・AIの社会における変容や役割、応用事例等について講義を行った。</p> <p>神戸大学において数理・データサイエンス・AIの研究・全学教育を担う数理・データサイエンスセンターの副センター長（全学教育部門長）として、主に学部生・大学院生・社会人を対象とする数理・データサイエンス教育の企画・運営・調整を行った。</p> <p>神戸大学数理・データサイエンスセンターが主体となって企画し、文部科学省から採択されたリカレント教育事業「企業と大学による価値共創を志向するDXエキスパート育成プログラム」において、統計学の基礎およびデータ解析手法に関する講義を担当した。</p> <p>(2023年10月実施) アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について (2025年7月実施) 統括部門における教学IRの取り組みについて</p>

FD研修会実施	2025年3月11日	薬学部における数理・データサイエンス・AI 教育の現状と展望
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Yuki Okada, Naoki Matsuchi, Masashi Hyodo, Nobumichi Shutoh	論文	"Redundancy test for some variables in linear discriminant analysis with two-step monotone incomplete data", SUT Journal of Mathematics, 60(2), 39-64, 2024.
Satoshi Asaoka, Toru Endo, Yasuhiro Ushihara, Akira Umehara, Chihiro Yogi, Toshiaki Ohta, Shinjiro Hayakawa, Nobumichi Shutoh, Tetsuji Okuda	論文	"Spatial and temporal distribution of hydrogen sulfide and sulfur species in coastal marine sediments collected from Osaka Bay, Japan", Marine Chemistry, 251(104233), 2023.
Satoshi Asaoka, Fuyuhiko Sumikawa, Yoshifumi Watanabe, Waqar Azeem Jadoon, Masaki Ohno, Nobumichi Shutoh, Yuki Wakamatsu, Lawrence M. Liao, Akane Kanazawa, Yuka Sato, Natsumi Fujiwara	論文	"Throughfall and stemflow chemical dynamics of Satoyama, a traditional secondary forest system under threat in Japan", Journal of Forestry Research, 33(3), 813-826, 2022.
Nobumichi Shutoh	論文	"Effect of nonnormality on tests for a mean vector with missing data under an elliptically contoured pattern-mixture model", Communications in Statistics - Theory and Methods, 50(19), 4448-4469, 2021.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
欠測データに基づく検定統計量のBartlett修正について（特別講演）	2024年5月	応用統計学会2024年年会
楢岡母集団から得られた単調欠測データに基づく平均ベクトルの同等性仮説に対する修正尤度比検定（企画セッション・オーガナイザー）	2024年9月	2024年度統計関連学会連合大会

2-step単調欠測データに基づく判別分析における一部の変量に対する冗長性仮説検定	2024年9月	2024年度統計関連学会連合大会
3-step単調欠測データに基づくMCARの成立に関する尤度比検定について	2025年5月	日本計算機統計学会 第39回大会
2-step単調欠測データに基づく多変量正規性検定の検出力の比較	2025年5月	日本計算機統計学会 第39回大会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2021年7月～2025年6月	日本数学会 '数学' 非常任編集委員	
2022年4月～2024年3月	応用統計学会 企画委員	
2022年5月	日本計算機統計学会第36回大会 実行委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	疾病予防学研究室	職名	教授	氏名	田中 佐智子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
（1）薬学部生への教育					
衛生薬学Ⅱ		2024年4月～	ヘルスケア現場において議論されている問題を多く事例に出し興味を促すよう意識している。また、授業に合わせたプリント作成と生徒との議論を行うことにより理解を促した		
臨床生化学実習		2024年4月～	健康診断や医療現場で用いられる検査値の正確な測定とその重要性を伝えることを意識した教育を行っている。		
他、5件					
（2）医学部大学院生への教育					
医薬品の開発と評価		2024年4月～	京都大学大学院医学研究科における医薬品の開発と評価を担当した。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
疫学の辞典（朝倉書店・日本疫学会監修）		2022年出版	治験・薬剤疫学の箇所を担当した		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
該当なし					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
FD参加		2025年3月11日	教理・データサイエンス・AI 教育 FD シンポジウム 2025		
FD参加		2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて		
他、5件					
II 研究活動					

1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Tanaka-Mizuno S, Nakatsu F, Eguchi S, Iekushi K, Nakagami H	論文	Modifiable factors to achieve target blood pressure in hypertensive participants. Hypertens Res. 2025. doi: 10.1038/s41440-025-02134-x.
Satoh A*, Arima H, Tanaka-Mizuno S, Fujiyoshi A, Kadota A, Miura K, Ueshima H, Okamura T, Murakami Y, EPOCH JAPAN Research Group.	論文	Serum Total Cholesterol and Fatal Subarachnoid Hemorrhage in 120,000 Japanese: A Pooled Analysis of Data from 12 Cohorts. J Atheroscler Thromb. 2025 doi: https://doi.org/10.5551/jat.65650
Tanaka-Mizuno S *, Fujimoto K, Mishima K, Sakata Y, Fukasawa T, Mizuno K, Yoshida S, Ishii M, Taninaga T, Kubota N, Moline M, Kawakami K.	論文	Evaluation of prescribing patterns of switching to and add-on lemborexant in patients treated with hypnotic medication: a nationwide claims database study in Japan. Expert Opin Pharmacother 2024;25(12):1707-1716.
Okura T, Tanaka-Mizuno S, Fukasawa T, Yoshida S, Kawakami K.	論文	Assessing the Risk of Gastrointestinal Perforation Associated with COVID-19: A Self-Controlled Case Series Study. Am J Epidemiol. 2024:kwa448.
Inayama Y, Yamaguchi K, Mizuno K, Tanaka-Mizuno S, Koike A, Higashiyama N, Taki M, Yamanoi K, Murakami R, Hamanishi J, Yoshida S, Mandai M, Kawakami K	論文	Changes in Physical Activity Across Cancer Diagnosis and Treatment Based on Smartphone Step Count Data Linked to a Japanese Claims Database: Retrospective Cohort Study. JMIR Cancer. 2025; 20;11:e58093.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
レンボレキサントへの切り替えの実態：診療報酬請求データベースを用いた記述疫学研究	2023年9月	日本睡眠学会第45回定期学術集会. 横浜.
特定健診において高血圧の有所見を指摘されたと 推察される対象者の、その後の血圧目標値達成率と目標値達成に与える要因評価	2023年7月	第45回日本高血圧学会総会. 大阪.
The effects of low dose estrogen progestin and obesity on the thrombotic events in the Japanese women	2022年10月	14th Asian Conference on Pharmacoepidemiology. Taiwan.
青中年期における脳卒中発症患者の発症率と予後 滋賀脳卒中・循環器病登録研究	2022年6月	第58回日本循環器病予防学会学術集会. オンライン.
青中年期における脳卒中発症患者の発症率と予後 滋賀脳卒中・循環器病登録研究	2021年10月	13th Asian Conference on Pharmacoepidemiology. Korea.
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2003年4月～現在	国際計量生物学会・日本計量生物学会 会員 (試験統計家)	

田中佐智子

2006年4月～現在	日本疫学会 会員 (上級疫学専門家)
2014年4月～現在	日本薬剤疫学会 会員
2018年1月～現在	日本臨床疫学会 会員 (上級専門家)
2023年4月～現在	日本睡眠学会 会員
2023年9月～現在	日本高血圧学会 会員
2023年4月～現在	日本循環器予防学会会員

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター臨床部門（薬効解析学）	職名 教授	氏名 畑中由香子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 社会薬学、調剤学、他16件 がん薬物療法論、総合薬学講座Ⅱ、他8件	2025年 2024年	薬剤師の経験を活かし具体的な事例を交えた講義を行った。 薬剤師の経験を活かし具体的な事例を交えた講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 スライド プリント、実習テキスト 動画	2024年～現在	新たな知見を取り入れた資料を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 実務実習事前教育委員会委員長 模擬患者（simulated patient；SP）養成講習会運営ファシリテーター 薬学教育者のためのワークショップタスクフォース	2024年4月～現在 2024年5月～現在 2024年4月～現在	実務実習事前教育委員会委員長 模擬患者（simulated patient；SP）養成講習会運営ファシリテーター 薬学教育者のためのワークショップタスクフォース
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
畑中由香子、玉田智子、福田朋子、松本英丸、島田健、土生康司	論文	散薬調剤ロボットシステム導入による薬剤師業務の変化，日本病院薬剤師会雑誌 61(2).129-135. 2025
畑中由香子、島田健、大里勇二、北宅良祐、江本文代、藤原悠紀、飛田春那、望月直矢、山崎知子、浅野豪、久保西四郎、平松靖史	論文	再発難治性多発性骨髄腫に対するイキサゾミブ、レナリドミド、デキサメサゾン併用療法における、体重評価に基づいたイキサゾミブ至適開始用量の後方視的検討，姫路赤十字病院誌 47, 78-84. 2023

畑中由香子, 八瀬和佳恵, 大石博一, 明神翔太, 岡田怜, 長久剛, 邑上達也, 福山正人, 松本英丸, 黒川大輔, 山中龍太郎, 久保西四郎, 遠藤芳克, 水谷尚雄, 最所裕司, 久呉真章, 中村進一郎	論文	姫路赤十字病院における抗菌薬適正使用支援チームの5年間の歩み, 姫路赤十字病院誌 47, 85-91. 2023
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
肝予備能が良好なレンパチニブ投与例における新規 inflammation and liver function-based scoreの有用性	2024年2月	第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会
イキサゾミブに特化した服薬支援アプリの有用性	2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
ASTとクリニカルパス委員会が連携したクリニカルパス 周術期抗菌薬への取り組み	2023年11月	第59回日本赤十字社医学会総会
予後栄養指数からみた肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+パシズマブ併用療法例のアウトカム	2023年5月	第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会
経口抗菌薬適正使用の活動成果における持続性の検討	2023年4月	第97回日本感染症学会総会・学術講演会 第71回日本化学療法学会学術集会 合同学会
III 学会等および社会における主な活動		
1992年4月～現在	日本病院薬剤師会 (2013年10月～感染制御認定薬剤師)	
2003年4月～現在	日本医療薬学会 (2003年1月～日本医療薬学会専門薬剤師, 2003年1月～日本医療薬学会指導薬剤師)	
2008年4月～現在	日本薬学会 (2024年4月～日本薬学会関西支部委員)	
2008年5月～現在	日本糖尿病療養指導士	
2010年6月～現在	日本臨床栄養代謝学会 (2012年2月～栄養サポートチーム専門療法士)	
2012年1月～現在	ICD制度協議会 (2013年1月～インфекションコントロールドクター認定薬剤師)	
2012年1月～現在	日本化学療法学会 (2013年3月～抗菌化学療法認定薬剤師)	
2023年2月～現在	日本薬学教育学会	
2024年5月～現在	日本アカデミックディテリング研究会(2025年4月～日本アカデミックディテリング研究会理事)	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 中山 尋量
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 薬学部学生への教育	2006年4月～2022年3月	神戸薬科大学の6年制への学生には、基礎化学、無機錯体化学、物理化学 I、総合薬学講座の講義、基礎化学実習の指導を行っていた。
	2022年4月～	また、5年次生からは卒業研究の指導を行っていた。
(2) 薬学研究科院生への教育	2009年～2022年3月	研究リテラシー、ロジカル思考演習を担当している。 神戸薬科大学薬学研究科院生に薬学演習、課題研究の指導を行っていた。
2 作成した教科書、教材、参考書		
薬学演習 II. 基礎科学	2021年10月	執筆 東京化学同人
基礎薬学 I. 物理化学	2024年3月	編集、執筆 東京化学同人
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
学生支援センター長	2018年4月～2022年3月	
FDへの参加状況	2019年9月～2023年10月	全9回開催のFDに全て出席
教務課長（兼職）	2024年1月～	
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Hayashi A., Tsushima M., Yano M., Nakayama H..	論文	Clay Sci., 2021, 25, 47-53. "Glycyrrhizic Acid Dipotassium Salt Composite with layered Double Hydrox-ide as Moisturizer"

Hayashi A., Otsu S., Kamiiji H., Yoshioka A., Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull, 2022, 38, 53-59. “Uptake and releae of sodium diphosphate by a chloride-type layered double hydroxide”
Hayashi A., Nakayama H.	論文	Applied Clay Sci., 2024, 251, 107322. “Unique Reaction of Layered Double Hydroxides with 4-Chlorobutyric Acid”
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
3. 講演等		
演題名	発表年・月	場所等
III 学会等および社会における主な活動		
2005年4月～2022年	日本薬学会近畿支部委員	
2016年8月～2021年3月	医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験出題基準改定部会委員	
2020年9月～2022年9月	日本無機リン化学会会長	
2024年9月～現在	日本無機リン化学会顧問	
2023年4月～2024年3月	大学基準協会評価委員会委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 安岡 久志
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2022年9月～現在	「ロジカル思考演習Ⅰ」を担当し、1年次生の基礎力及びプレゼンテーション能力等の向上に資する指導を行っている。
	2023年1月～現在	次年度入学生を対象に主に化学・数学の基礎学力向上を目的として入学前教育を実施している。
	2023年4月～現在	1年次に開講する「基礎有機化学」「基礎物理化学」の授業において、授業内容の精選及び教授法を工夫することによって、専門教育に繋ぐための基礎学力の定着・向上に努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年6月20日	神戸薬科大学SD研修会「高等学校の現状と今後の教育の方向性」～兵庫県立明石北高校を例として～
	2022年7月19日	神戸薬科大学FD研修会「授業改善と成績評価について」～兵庫県立明石北高校を例として～
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年4月～現在	兵庫県立長田高校 課題研究アドバイザー
	2022年4月～2023年3月	兵庫県立西宮高校 課題研究アドバイザー
	2022年4月～2023年3月	兵庫県立加古川南高校 課題研究アドバイザー
	2023年4月～2024年3月	兵庫県立西宮高校 課題研究アドバイザー（特別非常勤講師）
	2023年4月～現在	兵庫県立加古川南高校 課題研究アドバイザー（特別非常勤講師）
	2023年12月17日	近畿地区高等学校 自然科学部合同発表会 論文審査委員
	2024年2月12日	第3回GIRL's EXPO with SCIENCE ETHICS 自然科学助言者（主催兵庫県立姫路東高校）

<FD研修会参加状況>	2024年4月～現在	兵庫県立長田高等学校 学校評議員
	2024年4月～現在	私立親和女子高校 SSH運営指導委員
	2025年6月11日～現在	公益財団法人長谷川松籟財団評議員・奨学生選考委員
	2022年7月19日	授業設計と成績評価（講師として）
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて，ロジカル思考演習
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて（その2），チューター制度について
	2023年12月18日	教育・研究のためのICT環境整備と活用支援
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動		
1986年4月～現在	兵庫県高等学校教育研究会科学部会会員・副会長（2020～2021年度）・顧問（2022年度）	
2013年4月～現在	日本スクール・コンプライアンス学会会員	
2023年4月～現在	日本物理教育学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬学部	職名 教授	氏名 國正 淳一
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2018年4月～現在に至る	4年次生の地域医療・プライマリケア論の講義を担当している。毎回配布するプリント並びにパワーポイントを利用している。
	2017年7月～現在に至る	5年次の卒業研究Ⅰ並びに6年次の卒業研究Ⅱを担当している。現場の病院あるいは薬局において臨床研究を実施している。臨床研究施設での実際の課題を研究することにより、問題発見能力及びその解決能力の醸成を図っている。加えて、社会人としてのコミュニケーション能力の養成も併せて育成できる。
	2017年9月～現在に至る	4年次生の処方解析学、処方解析演習を担当している。処方解析学では配布するプリント並びにパワーポイントを利用している。処方解析演習では演習問題を配布し、その解説はパワーポイントを利用している。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2017年7月～現在に至る	神戸薬科大学 生涯研修企画・運営委員会委員
	2019年9月1日	FD研修会「インターネットを活用した講義改善の取り組み」参加
	2019年9月1日	FD研修会「事故事例から考える大学の安全衛生管理」参加
	2020年10月5日	FD研修会「AIを用いた入学試験並びに修学状況のIR分析結果の報告」「前期遠隔授業に対する学生アンケートの集計結果」参加
	2021年7月19日	FD研修会「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」「WebClass使用事例の紹介」参加
	2022年3月11日	FD研修会「学修支援の現状と取り組み」発表

	2022年7月19日	FD研修会「授業設計と成績評価について」参加
	2023年3月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて」「ロジカル思考演習」参加
	2023年5月15日	FD研修会「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」発表
	2023年10月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて(その2)」「チューター制度について」参加
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
古江 由衣、山本 和宏、木村 丈司、大村 友博、坂根 稔康、 <u>國正 淳一</u> 、矢野 育子	論文	潜在的不適切処方の中止維持における退院時薬剤情報提供の効果、医療薬学、2024、50、75-83
Hiroki Nishiguchi, Tomohiro Omura, Ayaka Sato, Yumi Kitahiro, Kazuhiro Yamamoto, <u>Junichi Kunimasa</u> , Ikuko Yano	論文	Luteolin Protects Against 6-Hydroxydopamine-Induced Cell Death via an Upregulation of HRD1 and SEL1L. Neurochemical research. 2024, 49, 117-128
竹下 治範, 千原 優里, <u>國正 淳一</u> , 濱口 常男	論文	高齢者の使用性に配慮したPTP包装からの錠剤の押し出し力に及ぼすフィルム素材および厚みの影響, 医療薬学, 2022, 48, 331-339
Tomohiro Omura, Luna Nomura, Ran Watanabe, Kazuhiro Yamamoto, Shunsaku Nakagawa, Takayuki Nakagawa, <u>Junichi Kunimasa</u> , Ikuko Yano, Kazuo Matsubara	論文	MicroRNA-101 Regulates 6-Hydroxydopamine-Induced Cell Death by Targeting Suppressor/Enhancer Lin-12-Like in SH-SY5Y Cells. Frontiers in molecular neuroscience, 2021, 14, 748026-748036
Kimihiko Urano, Miki Ishibashi, Kohoshi Ohishi, Muraki Yuichi, Takuya Iwamoto, <u>Junichi Kunimasa</u> , Masahiro Okuda	論文	Impact of physician-pharmacist collaborative protocol-based pharmacotherapy management for HIV outpatients: a retrospective cohort study, Journal of Pharmaceutical Health Care. 2021. 6. 1-6
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動		
2003年4月～現在	日本医療薬学会認定指導薬剤師	
2005年4月～現在	日本医療薬学会評議員	
2014年6月～現在	日本中毒学会評議員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	職名 特任教授	氏名 中林千景
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		<p>2021年度 甲南女子高等学校 高校3年生化学</p> <p>2022～23年度 甲南女子高等学校高校2年～3年生化学          コロナ禍に伴うオンライン授業の必要性から、これまで以上に生徒が物理・化学に興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を身につけられるよう教材を工夫。双方向性の強い授業を模索。</p> <p>2024年度 ロジカル思考演習 I 担当          エントレマティマティコ 授業補助          入学前教育「化学」担当          入学前教育「物理」担当</p> <p>2025年度 数学演習 I 授業補助</p>
		<p>有機化学・物理化学の基礎の理解が追いつかない学生に、1年前期の復習と後期の講義の理解を深めることを目的とした講義を行った。</p> <p>数学の演習の補助に入り、机間巡視などをしながら適宜個別指導に当たった。</p> <p>推薦入学にて入学予定の生徒を対象に、高校化学の復習や入学直後に学ぶ内容の先取り授業を行うとともに、生徒が自学できるよう復習用課題を作成した。</p> <p>推薦入学にて入学予定の生徒のうち物理を履修していない生徒を対象に、運動量や波動分野を中心に入学後に必要となる物理の基礎を講義するとともに、生徒が自学できるよう復習用課題を作成した。</p> <p>講義の補助に入り、学生が提出してくる課題の採点をしながら、適宜個別指導に当たった。</p>

		基礎物理化学補習の実施	基礎物理化学の学習に困難を抱えている学生を念頭に置いて、毎講義時に講義テーマに沿った課題を作成・配付し、講義の翌週に毎回講義内容の詳細な再説明や問題演習を行った。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		本学主催のFDにはすべて参加
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		

## 専任教員の教育・研究業績

所属	総合教育研究センター	職名	教授	氏名	山本 克己
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2017年4月～現在 2017年4月～現在 2018年4月～現在 2021年4月～現在 2025年4月～現在 2025年4月～現在		4年次の実務実習事前教育を担当 6年次の総合薬学講座Ⅱを担当 卒業研究を担当 初期体験臨床実習を担当 早期体験学習を担当 薬学的症例解析演習を担当	
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2023年6月25日 2024年6月30日		「無菌調製の基礎」 「レベルアップ無菌調製（基礎からアドバンスまで）」	
4 その他教育活動上特記すべき事項		2017年4月～現在 2021年4月～現在 2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年5月15日		神戸薬科大学 生涯研修企画・運営委員会 委員 神戸薬科大学 健康食品領域認定試験委員会 委員長 FD研修会参加「遠隔授業の効果的な実施方法について」 FD研修会参加「学修支援の現状と取り組み」 FD研修会参加「授業設計と成績評価について」 FD研修会参加「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」	

	2023年10月31日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その2）」
	2024年3月14日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その3）」
	2025年3月11日	FD研修会参加「数理・データサイエンス・AI教育」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
医薬品情報創出に向けた臨床研究の審査体制—倫理審査委員会	2021年6月	第23回日本医薬品情報学会総会・学術大会
拡張不全を合併する2型糖尿病患者におけるGLP-1受容体作動薬の心機能への影響	2022年9月	第10回日本くすりと糖尿病学会学術集会
3. その他		
講演名	発表年・月	会の名称
新型コロナワクチンの取扱いについて	2021年4月	港区、此花区薬剤師会合同新型コロナワクチン集団接種訓練の研修会
新型コロナワクチンの取扱いについて	2021年4月	八尾市薬剤師会新型コロナワクチン集団接種にかかる講習会
倫理審査における審査委員の観点について～倫理審査申請時の注意点～	2022年2月	大阪府薬剤師会 令和3年度学術研究倫理に関する研修会
無菌調製の基礎知識	2024年6月	令和6年度 大阪府薬剤師会 無菌調剤室利用者研修会
素人でもできる統計の選び方	2025年2月	八尾市薬剤師会スキル向上研修会
III 学会等および社会における主な活動		

2008年4月～現在	一般社団法人 大阪府薬剤師会 理事（2010年4月～2016年6月 副会長、2025年6月～現在 常務理事）
2011年7月～現在	大阪府献血推進協議会 専門委員（2016年まで；適正使用対策部会 委員）
2017年3月～現在	一般社団法人 大阪府薬剤師会 学術研究倫理審査委員会 委員長
2017年6月～現在	大阪府社会保険診療報酬請求書審査委員会 審査委員
2021年10月～現在	公益社団法人 大阪労働基準連合会 法定技能講習講師（特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習）
2022年9月～現在	大阪府薬事審議会 委員（医薬品適正販売対策部会 部会長）
2024年9月～現在	大阪府難病医療推進会議 委員
2024年7月～現在	公益社団法人 日本薬剤師会 臨床・疫学研究審査委員会 委員
2008年4月～2024年6月	一般社団法人 大阪府病院薬剤師会 役員（副会長、理事、監事、顧問）
2008年4月～2016年3月、 2022年4月～2024年3月	公益社団法人 日本薬剤師会 代議員
2016年9月～2024年6月	公益社団法人 日本薬剤師会 臨床・疫学研究推進委員会 委員
2017年6月～2022年3月	公益社団法人 臨床心臓病学教育研究会(JECCS) 理事
2021年4月～2021年8月	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員

専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 教授	氏名 國東 ゆかり
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2021年4月～現在 2021年4月～現在 2021年4月～2025年3月 2021年4月～現在 2021年4月～現在 2022年4月～2025年3月 2025年4月～現在 2023年4月～現在 2024年4月～2025年3月 2024年4月～2025年3月 2024年4月～現在 2025年4月～現在	1年次の初期体験臨床実習 4年次の実務実習事前学習 4年次の処方解析1 5年次の学外実務実習 6年次の総合薬学講座 4年次の社会保障制度と薬剤経済 4年次の社会保障と医療経済 5年次の在宅医療演習 2年次のロジカル思考演習Ⅱ 3年次のロジカル思考演習Ⅳ 6年次の卒業研究 4年次の薬学的症例解析演習
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年10月30日 2024年3月17日 2024年6月23日	第15回 神戸薬科大学エクステンションセンターシンポジウム（薬剤師×発信力）講演 同窓会山口支部「人間の行動モデルから考えるヒューマンエラー対策」2講演 ①理論編 ②実践編 京都ききょう会「人間の行動モデルから考えるヒューマンエラー対策 ～理論から実践へ～」講演

4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月19日	FD研修会参加「遠隔授業の効果的な実施方法について webclass仕様事例の紹介」	
	2022年3月11日	FD研修会参加「学修支援の現状と取り組み」	
	2022年7月19日	FD研修会参加「授業設計と成績評価について」	
	2023年3月16日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて ロジカル思考演習」	
	2023年5月15日	FD研修会参加「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」	
	2023年10月16日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について」	
	2024年3月14日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その3） チューター制度について」	
	2024年10月28日	FD研修会参加「OSCEの適正な実施に向けて」	
	2025年3月11日	FD研修会参加「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」	
II 研究活動			
1. 著書・論文等			
	氏名	種別	内容
2. 学会発表			
	演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動			
1983年4月～現在に至る	日本病院薬剤師会会員		
1983年4月～現在に至る	日本薬剤師会会員		
2008年8月～現在に至る	日本臨床腫瘍学会会員		
2008年8月～現在に至る	日本癌治療学会会員		

國東

2008年8月～現在に至る	日本医療薬学会会員
2011年2月～現在に至る	日本臨床腫瘍薬学会会員
2017年4月～2021年3月	兵庫県病院薬剤師会理事
2021年5月～現在に至る	日本乳癌学会会員
2022年3月～現在に至る	日本薬学会会員
2023年4月～現在に至る	兵庫県立こども病院 治験審査委員会外部委員

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 教授	氏名 小椋 千絵
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2023年4月～現在	1年次の初期体験臨床実習
	2025年4月～現在	1年次の早期体験学習
	2024年4月～現在	2年次のロジカル思考演習Ⅱ
	2024年4月～現在	3年次のロジカル思考演習Ⅳ
	2022年4月～2025年3月	4年次の処方解析Ⅱ
	2023年4月～2025年3月	4年次の社会保障制度と薬剤経済
	2025年4月～現在	4年次の社会保障と医療経済
	2025年4月～現在	4年次の薬学的症例解析演習
	2022年4月～現在	4年次の実務実習事前教育
	2022年4月～現在	5年次の学外実務実習
	2023年4月～2025年3月	5年次のIPW演習
	2024年4月～現在	5年次の在宅医療演習
	2022年8月～現在	4年・5年・6年次の卒業研究
2022年4月～現在	6年次の総合薬学講座Ⅱ	
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

4 その他教育活動上特記すべき事項		
FD研修会参加	2022年7月19日	授業設計と成績評価について
FD研修会参加	2023年3月16日	アクティブラーニングについて、 ロジカル思考演習
FD研修会参加	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
FD研修会参加	2023年10月16日	アクティブラーニングについて（その2）、チューター制度について
FD研修会参加	2024年3月14日	アクティブラーニングについて（その3）
FD研修会参加	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて
FD研修会参加	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
ポリファーマシー回診チームの活動報告 ～現状調査と今後の展望～	2023年2月	近畿薬剤師合同学会大会2023（第25回近畿薬剤師学会大会・ 第44回日本病院薬剤師会近畿学会大会）
妊娠後期の向精神薬服用による新生児不適応症候群発症 への影響の調査・解析	2025年1月	第46回 日本病院薬剤師会 近畿学会大会
III 学会等および社会における主な活動		
1986年4月～現在に至る	日本病院薬剤師会会員	
2009年5月～2024年5月	公益財団法人日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	
2009年7月～現在に至る	認定実務実習指導薬剤師	

小椋

2016年4月～現在に至る	日本薬剤師会会員
2016年7月～現在に至る	日本医療薬学会会員
2018年5月～2022年5月	兵庫県病院薬剤師会理事
2018年7月～現在に至る	日病薬病院薬学認定薬剤師
2022年4月～現在に至る	日本薬学会会員
2025年2月～現在に至る	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師

濱名

専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 教授	氏名 濱名 則子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2023年4月～2025年3月 2023年4月～現在 2023年4月～現在 2023年4月～現在 2023年4月～現在 2024年4月～現在 2024年4月～現在 2024年4月～2025年3月 2024年4月～2025年3月 2025年4月～現在 2025年4月～現在 2025年4月～現在	1年次の早期体験学習 1年次の初期体験臨床実習 4年次の実務実習事前学習 5年次の学外実務実習 6年次の総合薬学講座Ⅱ（法規） 2年次3年次のロジカル思考演習 5年次の在宅医療演習 4年次の安全管理医療 4年次の処方解析Ⅱ 6年次のがん薬物療法論 5年次のIPW演習 4年次の薬学的症例解析演習
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 専門家によるアドバイスが得られるがん患者・ピア・サポート NPO法人P. I. E. GROUP. SANDA主催 神戸薬科大学同窓会 山口支部 研修会	2022年10月30日 2024年6月23日	講演「薬剤師とお話してみませんか？」 講演「糖尿病、がん患者への療養指導 薬剤師が取り組む医療安全について」

演名

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2023年5月15日	FD研修会参加「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2023年10月16日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その2）」 「チューター制度について」
	2024年3月14日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その3）」
	2024年10月28日	FD研修会参加「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025年3月11日	FD研修会参加「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
新型コロナワクチンの医療従事者接種における副反応アンケート（神戸海星病院所属時）	2022年1月	第43回 日本病院薬剤師会近畿学術大会
中小病院における周術期薬剤管理への取り組み（神戸海星病院所属時）	2022年7月	医療薬学フォーラム2022
神戸海星病院における調剤過誤防止への新たな取り組み（神戸海星病院所属時）	2023年2月	第44回 日本病院薬剤師会近畿学術大会
III 学会等および社会における主な活動		
1992年6月～現在に至る	日本病院薬剤師会会員	
1992年6月～現在に至る	兵庫県病院薬剤師会会員	
1996年1月～現在に至る	日本医療薬学会会員	
2002年5月～現在に至る	日本糖尿病学会会員	
2023年5月～現在に至る	日本薬学会会員	
2023年11月～現在に至る	兵庫県薬剤師会会員	

濱名

2023年11月～現在に至る	日本薬剤師会会員
2009年1月～現在に至る	日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
2010年4月～現在に至る	認定実務実習指導薬剤師
2001年5月～現在に至る	日本糖尿病療養指導士
2008年5月～2023年3月	兵庫県病院薬剤師会 東神戸支部幹事
2019年5月～2023年3月	兵庫県病院薬剤師会 評議員

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 教授	氏名 野村 剛久
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2024年10月～現在	4年次の実務実習事前教育
	2024年10月～現在	6年次の総合薬学講座Ⅱ（実務）
	2025年2月～現在	5年次の学外実務実習
	2025年4月～現在	4年次の卒業研究
	2025年4月～現在	2年次のロジカル思考演習Ⅱ
	2025年4月～現在	3年次のロジカル思考演習Ⅳ
	2025年4月～現在	1年次の初期体験臨床実習
	2025年4月～現在	5年次のIPW演習
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2024年10月29日	研究倫理eラーニングコース（日本学術振興会）修了
	2025年3月18日	SD研修会「障害のある学生への合理的配慮と修学支援研修」参加
	2025年5月23日	4年次対象講演会「薬剤師の軌跡と未来－病院薬剤師の魅力と求められる職能－」（講師：一般社団法人日本病院薬剤師会会長 武田泰生 先生）の企画ならびに開催
	2025年7月22日	FD研修会「統括部門における教学IRの取り組みについて」参加

II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Nanako Koyama, Chikako Matsumura, Yoshihiro Shitashimizu, Morito Sako, Hideo Kurosawa, Takehisa Nomura, Yuki Eguchi, Kazuki Ohba and Yoshitaka Yano	論文	The role of EORTC QLQ-C15-PAL scores and inflammatory biomarkers in predicting survival in terminally ill patients with cancer. BMC Cancer, 21(1), Dec, 2021
Nanako Koyama, Chikako Matsumura, Yuuna Tahara, Morito Sako, Hideo Kurosawa, Takehisa Nomura, Yuki Eguchi, Kazuki Ohba, Yoshitaka Yano	論文	Symptom clusters and their influence on prognosis using EORTC QLQ-C15-PAL scores in terminally ill patients with cancer. Supportive Care in Cancer, 30(1) 135-143, Jul 9, 2021
大西美香, 堀田智之, 面谷幸子, 初田泰敏, 野村剛久, 名徳倫明	論文	各種治療薬が静注用脂肪乳剤の脂肪粒子径に与える影響 日本注射薬臨床情報学会誌, No.10, 17-26 (2022)
Chikako Matsumura, Nanako Koyama, Kaho Okuno, Nobuhiko Nakamura, Morito Sako, Hideo Kurosawa, Takehisa Nomura, Yuki Eguchi, Kazuki Ohba, Yoshitaka Yano	論文	Survival Prediction of Patients Who Were Terminally Ill Using the EORTC QLQ-C15-PAL Scores and Laboratory Test Values. Palliative medicine reports, 4(1) 202-207, 2023
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
薬学的視点に基づいた医師との協働により重篤な副作用の発見に至った2症例～薬剤性高K血症, 薬剤性SIADH～	2021年5月	第7回日本医薬品安全性学会学術大会
カルテオロール塩酸塩持続性点眼液の自己中断後の投与再開2日目に高度洞性徐脈により一時的ペースングの施行に至った1例	2021年10月	第30回日本医療薬学会年会
緩和ケア病棟における患者の減薬希望を基にしたポリファーマシー対策の有用性	2021年10月	第30回日本医療薬学会年会

終末期がん患者における患者自己評価スコアおよび炎症マーカーを用いた予後予測の検討	2022年3月	日本薬学会第142年会
リバスタグミンパッチの長期使用中にコリン作動性クリーゼを発症した1例	2022年9月	第8回日本医薬品安全性学会学術大会
薬学的視点に基づく評価が心不全の確定診断に寄与した1例	2022年9月	第32回日本医療薬学会年会
薬剤師の処方介入後に発生した患者不利益に関する後方視的調査	2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
イプラグリフロジンの開始2日で正常血糖糖尿病性ケトアシドーシスを発症した1例	2023年11月	第33回日本医療薬学会年会
AST担当薬剤師による眼科往診提案がカンジダ性眼病変の早期発見および治療に寄与した1例	2024年1月	第45回日本病院薬剤師会近畿学術大会
3. その他		
病診薬剤師の研修と認定制度	2021年10月 2022年10月 2023年 9月	一般社団法人大阪府病院薬剤師会 新入局薬剤師研修会（依頼講演）
人が辞めない環境づくり	2022年12月	一般社団法人日本病院薬剤師会 実務研修会（依頼講演）
人が辞めない環境づくり～内的報酬からのアプローチ～	2023年7月	第6回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum（依頼講演）
人が辞めない薬局づくり	2023年12月	一般社団法人日本病院経営支援機構 薬局長育成塾（依頼講演）
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2018年7月～2024年6月	一般社団法人大阪府病院薬剤師会 常任理事（研修教育部長）	
2019年7月～2024年6月	一般社団法人日本病院薬剤師会 代議員	

野村

2012年7月～2022年6月 2024年7月～現在	一般社団法人日本病院薬剤師会 生涯研修委員会 委員
2020年7月～2021年6月	一般社団法人日本病院薬剤師会 生涯研修委員会 研修小委員会 委員長
2022年7月～2024年6月	一般社団法人日本病院薬剤師会 生涯研修委員会 認定小委員会 委員
2022年7月～2024年6月	一般社団法人日本病院薬剤師会 認定制度システム検討特別委員会 委員
2024年7月～現在	一般社団法人日本病院薬剤師会 生涯研修委員会 認定小委員会 委員長
2012年7月～2024年6月	一般社団法人日本病院薬剤師会 近畿ブロック生涯研修委員会 委員長
2018年7月～現在	一般社団法人日本医薬品安全性学会 評議員
2019年11月～現在	一般社団法人日本医薬品安全性学会 医薬品安全性専門薬剤師

福井

専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 教授	氏名 福井 由美子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2025年4月～現在	1年次生の早期体験実習
	2025年4月～現在	4年次生の実務実習事前教育
	2025年4月～現在	4年次生の卒業研究
	2025年4月～現在	5年次生のI P W演習
	2025年4月～現在	5年次生の学外実務実習
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1987年4月～現在	日本病院薬剤師会 会員	
2006年4月～現在	日本医療薬学会 会員	
2008年5月～現在	日本癌治療学会 会員	
2008年11月～現在	日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	
2007年4月～現在	認定実務実習指導薬剤師	
2012年4月～現在	日本病院薬剤師会 日病薬認定指導薬剤師	
2015年2月～現在	日本栄養治療学会 NST専門療法士	
2015年7月～現在	日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師	
2024年6月～現在	兵庫県薬剤師会 禁煙指導薬剤師	
2020年4月～2025年3月	兵庫県病院薬剤師会理事	
2020年4月～2025年3月	兵庫県病院薬剤師会東播支部幹事	
2020年4月～2025年3月	兵庫県薬剤師会代議員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 学生支援課	職名 教授	氏名 倉部 綾子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） キャリア	2025年9月～	1年次生を対象とした講義「未来を拓く力」において、自己のキャリアに関して考え、その実現に向けて具体的なイメージが描けるサポートを行う。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2023年4月	国家資格キャリアコンサルタント取得
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容

倉部

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動		
2023年4月～現在	厚生労働大臣登録試験機関 特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会 所属	

専任教員の教育・研究業績

所属 研究推進室	職名 教授	氏名 柘原 岳人
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）  研究リテラシー	2024年9月～現在	3年次生を対象とした講義「研究リテラシー」のうち「研究倫理」及び「知的財産」を担当し、研究に係る倫理・不正・ルール、知的財産権等について解説する。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2020年12月～現在	リサーチ・アドミニストレーション協議会会員	
2025年7月～2026年3月	令和7年度「ひょうご産学官連携コーディネーター協議会」運営委員及び令和7年度「TLOひょうご運営協議会」委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 英語第一研究室	職名 准教授	氏名 赤井 朋子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 英語	1992年4月～現在に至る	<p>学部の1年生、2年生に英語の授業を行っている。</p> <p>1) 自然科学的な内容（医療や健康、環境問題等）のテキストを、着任間もない頃から積極的に使用している。評論文を丁寧に読み進めることにより、自然科学に特有の英文スタイルに慣れさせるように工夫している。語彙力を強化するために、重要な語句をプリントにまとめ、小テストを行っている。医療に関連のある基本的な英会話を、ペアワークしやすいようにプリントにまとめて練習をさせている。</p> <p>2) パラグラフ・リーディングやパラグラフ・ライティングの教材も、着任間もない頃から使用している。要点をつかみながら速読するコツを教えた上で、授業中に時間を測りながら黙読させ、読んだ内容についてグループで話し合う機会を設けている。そうすることにより、自ら考えながら能動的に英文を読めるように工夫している。</p> <p>3) 視聴覚教材を用いて、リスニングの授業を行っている。学生の集中力ができるだけ持続するように、変化に富んだ楽しい雰囲気の教材を選ぶように心がけている。授業においては、視聴の前に聞き取りのヒントやクイズを与え、視聴後には聞き取った内容をグループで話し合わせるなど、学生が段階的に聞きとっていけるように工夫をしている。授業前にはそのための綿密な準備を、時間を測りながら行っている。音声の聞き取りに関するテストも行なっている。</p> <p>4) 習熟度別の授業では、成績が中程度～下位の学生を教えている。特に文法や語法の復習を丁寧に行うことを心がけている。授業の準備をする際には、英語の苦手な学生にはどのように説明をすればよいか、また、どのような練習をさせればよいかを考えメモにとっている。その一方で、授業中には、学生の理解度を確認しながら、双方向的で臨機応変な授業を行うようにし、基本事項の定着に努めている。</p> <p>5) 英語の語感を高めることの大切さを教えるようにしている。英英辞典の定義を確認させることにより、日本語訳で語義を覚えるだけでは不十分な英語の本来の意味に気づかせている。また、語と語の結びつき（コロケーション）が日本語とは異なることを教え、コロケーションを自分で調べて自然な英語表現ができるように指導している。</p>

総合文化演習	1995年4月～2023年3月	<p>6) 2020年度～2021年度においては、COVID19対策として、オンデマンド講義動画を作成したり、対面+zoom配信のハイブリッド形式の授業を行ったりした。</p> <p>7) 授業評価アンケートの結果は、特に「授業は理解できましたか」と「全体としてこの授業に満足していますか」の項目において、概ね全学平均値を上回っている。また、選択必修科目の場合、受講希望者が比較的多いクラスである。</p> <p>1) 前期では、私の方から題材やトピックを提供し、テーマの設定の仕方や、文献検索の方法、アウトラインの組み立て方や、発表原稿の作成の仕方など、与えられた題材を使って学べるように工夫した。</p> <p>2) 早くから（2002年度から）スモール・グループ・ディスカッション（SGD）を取り入れた演習を行った。私自身が英国での在外研究中（2001年度）にオブザーバーとして参加した授業で、SGDを用いた授業方法を学んだので、本学でも自分のゼミに取り入れ、学生の考えを引き出せるような授業を心がけた。また、互いの意見を尊重しながら話し合うことも英国の授業から教わったので、その点も考慮し、協力的に問題解決につなげていくコミュニケーションの取り方をゼミ生が習得できるように心がけた。</p> <p>3) 他の授業にはない私のゼミならではの特色を持たせるように心がけた。例えば、演劇や映画を通して人間や文化に対する理解を深め、グローバル社会に欠かせない、文化の多様性に対する寛容性を養うことを視野に入れて授業を行った。</p> <p>4) 後期は、受講生の発表とそのフィードバックに費やした。映画演劇論のゼミでは、学生が発表で取り上げる作品を私自身が事前に鑑賞しておき、学生の発表に対して多くのフィードバックができるように心がけた。また、質疑応答の時間を充実したものにするため、質問する側の注意点、考え方なども伝えるように心がけた。授業評価アンケートでは、「先生や他の受講生から多くのコメントをもらったことが励みになった」といった感想を多く受けている。また、私のゼミは常に受講を希望する学生が多かった。</p> <p>5) COVID19対策として、2020～2022年度は、三密を避けるためにも、全員1人で発表させた（それ以前はグループ発表だった。）テーマの設定から口頭発表、レポートの執筆に至るまで、全て1で行ったことについて、受講生からは「大変よい経験になった」「自信につながった」という感想が届いている。</p>
ロジカル思考演習	2023年10月～現在に至る	<p>1) 全14回の授業のうち前半は、私の方から題材やトピックを提供し、テーマの設定の仕方や、文献検索の方法、アウトラインの組み立て方や、発表原稿の作成の仕方など、与えられた題材を使って学べるように工夫している。その上でグループに分かれ、ゼミ発表の準備に取り組んでもらっている。自由にテーマを選べるようにし、できるだけ質問や相談に個別に応じるように心がけている。</p>

<p>早期体験学習</p>	<p>2005年4月～2025年3月</p>	<p>2) 全14回の授業のうち後半は、受講生の発表と質疑応答、担当教員からのフィードバックを中心に演習を行なっている。映画に関する演習なので、学生が発表で取り上げる作品を私自身が事前に鑑賞しておき、学生の発表に対して多くのフィードバックができるように心がけている。また、質疑応答の時間を充実したものにするため、質問する側の注意点、考え方なども伝えるようにしている。</p> <p>3) 上記以外に、何度か課題を設けて文章を書く機会を与えたり、毎回ルーブリック表に記入させることで自覚的に演習に取り組めるようにするなど、さまざまな工夫を試みている。</p> <p>新入生の早期体験学習が円滑に行われるように様々な形で学生のサポートを行った。特に、2005年度（早期体験学習トライアル）、2009年度、2013年度、2017年度、2021年度には新入生の担任としてクラス授業を行い、体験学習後のプレゼンテーションの指導や、報告書原稿の添削等を行った。また、学生の学習先である病院や薬局を訪問したり、学生の引率を行ったりした。救急救命インストラクターの資格を取得し、実技指導も行った。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 授業のプリントを作成</p>	<p>2013年4月～現在に至る</p>	<p>一部の授業において、学生が予習しやすいように、各章毎に予習プリントを作成し配布している。薬学に特化した市販の教科書が比較的少ないため、既存の教科書を本学の学生向けにカスタマイズして使用している。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 入学予定者のための英語教育 クラス担任 習熟度別英語科目のとりまとめ役</p>	<p>2003年度～2021年度 2005年4月～2025年3月 2013年4月～2022年3月</p>	<p>推薦入試による入学予定者に、あらかじめ問題集を送付し、返送されてきた学生の解答に目を通した上で、2月にそれに関する解説の授業を行った。</p> <p>クラス担任として、種々の関係業務に従事した。保護者面談や成績不振者との面談なども行なった。</p> <p>習熟度別英語科目である「英語II」「英語IV」（旧カリキュラム）において、担当の先生方（非常勤講師）と、毎年、テキスト選定や授業の運営等についてミーティングを重ねた。本学の場合、学生間で英語の学力に大きな差が見られるので、教員同士の連携やコミュニケーションをはかることにより、多様な学生への効果的な対応に取り組んだ。</p>

FDへの参加状況		2021年7月 遠隔授業の効果的な実施方法について／Webclass使用事例の紹介 2022年3月 学修支援の現状と取り組み 2022年7月 授業設計と成績評価について 2023年3月 アクティブラーニングについて／ロジカル思考演習 2023年5月 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み 2023年10月 アクティブラーニングについて（その2）／チューター制度について 2023年12月 教育・研究のためのICT環境整備と活用支援 2024年8月 障害のある学生への合理的配慮と就学支援研修 2024年10月 OSCEの適正な実施に向けて 2024年3月 数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望 2025年3月 職場における化学物質管理とリスクアセスメント 身近な化学物質も 2025年3月 障害のある学生への合理的配慮と就学支援
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
赤井 朋子	論文	「一九一〇年代のロンドンと坪内士行の観劇体験—音楽劇を中心に」英米文化学会（編）『比較文学で読む十一の出会い 交差する東西のまなざし』（勉誠出版、2023年）125-47.

赤井 朋子	論文	「シンガポール最初の英語演劇とカルチュラル・センター」英米文化学会（編）『アジア・パシフィックの劇場文化』（朝日出版社、2024年）67-89.
赤井 朋子	コラム	「映画館を兼ねた劇場—香港の太平戲院」英米文化学会（編）『アジア・パシフィックの劇場文化』（朝日出版社、2024年）39.
赤井 朋子	コラム	「関西のモダニズム文化と大阪朝日会館」英米文化学会（編）『アジア・パシフィックの劇場文化』（朝日出版社、2024年）205.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
「シンガポールで最初の英語演劇とアマチュア演劇クラブ」 （口頭発表）	2023年3月	近現代演劇研究会共催 永田靖教授退職記念行事「演劇研究の未来」（大阪大学）
"The First English Play in Singapore and Its Relation to the Cultural Centre"（口頭発表）	2023年7月	Taiwan Association for Theatre & Performance Industry Studies (TATPIS) 2023 International Conference: Zhuangchang (Taipei Performing Arts Center, Taiwan)
"Censorship of a Non-Scandalous Play: Noël Coward's Banned Comedy"（口頭発表）	2024年7月	International Federation for Theatre Research (IFTR) 2024 (University of the Philippines Diliman, the Philippines)
"Japanese-Western Hybridity in Shiko Tsubouchi's Musical Theatre in 1920s Takarazuka"（口頭発表）	2025年3月	Asian Theatre Research Colloquim 2025, Theatre Research Exchange: Japan and Vietnam (National Hanoi Academy of Theatre and Cinema, Vietnam)
3. その他		
「共振するアジア・パシフィック演劇—劇場空間から読みとく複数性—」	2021年9月	第39回英米文化学会大会 ワークショップ（オンライン）

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
1992年4月～現在	日本英文学会 会員
1992年4月～現在	日本シェイクスピア協会 会員
2000年4月～現在	日本演劇学会 会員
2004年4月～現在	日本比較文化学会 会員
2006年8月～現在	International Federation for Theatre Research 会員
2011年8月～現在	英米文化学会 会員
2019年4月～現在	日本演劇学会『近現代演劇研究』 査読委員
2019年4月～2024年10月	英米文化学会「アジア・パシフィックの劇場文化」分科会 設立発起人

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター支援部門	職名 准教授	氏名 竹仲 由希子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
基礎実習の講義と実験指導	2022年9月～現在に至る	基礎的な実験操作を写真や動画を用い事前の講義で詳しく説明し、イメージしやすくしている。
サイエンティフィックリテラシーの講義	2022年4月～現在に至る	高校までに習っている化学の範囲を題材に、それらの単語や公式を本質的に理解することで、薬剤師（国家試験）としても応用し活用できることを気づかせ、「丸暗記」から「理解」へ勉強法を改善させることを目指している。
ロジカル思考演習の講義	2022年9月～現在に至る	化学に関しては、中学、高校でも学んでいるため、「勝手に思い込んでいること」＝「誤概念」が多くあるため、講義では基礎的な説明から始め、「正しい考え方」で問題を解くことができるように練習問題を多く取り入れ、段階ごとに理解できているかを確認しながら進めている。
生薬学の講義	2022年9月～現在に至る	漢方薬や、西洋薬のリード化合物を含有している植物として用いられている重要な生薬について、身近なものとして興味を持ってもらえるよう工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		

(SD・FDへの参加)	2021年7月19日	遠隔授業の効果的な実施方法について (webclassの利用について)
	2022年3月11日	学修支援の現状と取り組み
	2022年7月19日	授業設計と成績評価について
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて ―ロジカル思考演習―
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
	2024年8月22日	障害のある学生への合理的配慮と学修支援研修
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて
		他5件
6年生に対する国家試験勉強の指導	2017年4月～現在に至る	
低学力学生に対する学習支援	2021年4月～現在に至る	
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
講義に体験を取り入れた学習効果 ―生薬学で屠蘇散を作る体験―	2024年8月	第9回日本薬学教育学会

竹仲

テキストマイニングを用いた初年次基礎実習後における学生の意識調査：基礎実習（分析系）に取り組む態度の観点から□	2024年8月	第9回日本薬学教育学会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		

## 専任教員の教育・研究業績

所属 医療薬学研究室	職名 准教授	氏名 佐々木 直人
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2018年9月～2024年3月	3年次生の薬物治療学Ⅲを担当した。臨床医としての経験を生かした講義を行った。
	2024年9月～現在	3年次生の薬物治療学Ⅳを担当している。臨床医としての経験を生かした講義を行っている。
	2024年9月～現在	3年次生の組織病理学実習を担当している。病態・薬物治療を学ぶ際に役に立つ知識を身に付けさせるように指導している。
	2018年4月～2024年3月	4年次生の処方解析Ⅰ・処方解析Ⅱを担当した。病態・薬物治療に関して、最新の知見・薬物も交えて講義した。
	2016年10月～2024年3月	4年次生の実務実習事前教育を担当した。臨床医としての経験を生かした教育を行った。
	2017年11月～現在	6年次生の総合薬学講座を担当している。国家試験対策のポイントを示しながら、分かりやすく講義している。
	2016年10月～現在	学部学生および大学院生に実験操作、実験ノート作成、研究発表などの指導を行っている。また、学生自身が目的意識をもって研究を進められるように指導している。
	2018年4月～現在	大学院博士課程において疾患解析治療学特論の講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会参加	2021年7月 遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について） 2022年3月 学修支援の現状と取り組み 2022年7月 授業設計と成績評価について 2023年3月 アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習 2023年5月 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み 2023年10月 アクティブラーニングについて（その2）、チューター制度について 2024年3月 アクティブラーニングについて（その3）、ルーブリック評価について 2024年10月 OSCEの適正な実施に向けて 2025年3月 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025	
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Emoto T, Yamamoto H, Yamashita T, Takaya T, Sawada T, Takeda S, Taniguchi M, Sasaki N, Yoshida N, Saito Y, Sivasubramaniyam T, Otake H, Furuyashiki T, Robbins CS, Kawai H, Hirata KI.	論文	Circulation. 145(18):1434-1436, 2022. "Single-Cell RNA Sequencing Reveals a Distinct Immune Landscape of Myeloid Cells in Coronary Culprit Plaques Causing Acute Coronary Syndrome."
Tanaka T, Sasaki N, Krisnanda A, Shinohara M, Amin HZ, Horibe S, Ito K, Iwaya M, Fukunaga A, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	J Am Heart Assoc. 13(2):e031639, 2024. "A novel ultraviolet B phototherapy with a light-emitting diode device prevents atherosclerosis by augmenting regulatory T cell responses in mice."
Takeda S, Emoto T, Yamashita T, Yamamoto H, Takaya T, Sawada T, Yoshida T, Inoue M, Suzuki Y, Hamana T, Inoue T, Taniguchi M, Sasaki N, Otake H, Ohkawa T, Furuyashiki T, Kawai H, Hirata KI.	論文	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 44(5):1135-1143, 2024. "Single-Cell RNA Sequencing Reveals an Immune Landscape of CD4+ T Cells in Coronary Culprit Plaques With Acute Coronary Syndrome in Humans."
Krisnanda A, Sasaki N, Ito K, Tanaka T, Shinohara M, Amin HZ, Horibe S, Iwaya M, Hirata KI, Fukunaga A, Rikitake Y.	論文	Kobe J Med Sci. 70(4):E130-E142, 2025. "312 nm UVB phototherapy limits atherosclerosis by regulating immunoinflammatory responses in mice."

Tanaka T, Sasaki N, Krisnanda A, Amin HZ, Ito K, Horibe S, Matsuo K, Hirata KI, Nakayama T, Rikitake Y.	論文	eLife. In press. "C-C chemokine receptor 4 deficiency exacerbates early atherosclerosis in mice."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
特定波長の紫外線B波照射療法は動脈硬化モデルマウスにおいて抗炎症性免疫応答の増強により病変形成を抑制する	2024年3月	日本薬学会第144年会
284 nm UVB照射によるLDL受容体欠損マウスにおける動脈硬化性プラークの安定化	2025年3月	日本薬学会第145年会
ケモカイン受容体CCR4欠損により早期の動脈硬化は増悪する	2025年3月	日本薬学会第145年会
ケモカイン受容体CCR4欠損は獲得免疫応答の調節によりアンジオテンシンII誘発腹部大動脈瘤形成を抑制する	2025年3月	日本薬学会第145年会
Genetic deficiency of C-C chemokine receptor 4 protects against angiotensin II-induced abdominal aortic aneurysm formation by modulating adaptive immune responses.	2025年3月	第89回日本循環器学会学術集会
III 学会等および社会における主な活動		
2000年5月～現在	日本内科学会会員（2005年9月～現在：日本内科学会認定内科医、2015年12月～現在：日本内科学会総合内科専門医）	
2000年5月～現在	日本循環器学会会員（2008年4月～現在：日本循環器学会認定循環器専門医）	
2008年6月～現在	日本動脈硬化学会会員（2019年7月～現在：評議員）	
2008年12月～現在	日本免疫学会会員	
2012年5月～現在	American Heart Association会員	
2015年5月～現在	日本臨床免疫学会会員	
2016年11月～現在	日本薬学会会員	
2017年6月～現在	日本光医学・光生物学会	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 薬理学研究室	職名 准教授	氏名 八巻 耕也
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2002.4.1 - 2016.4.1 - 2023.3.31 2018.4.1 - 2007.4.1 - 2007.4.1 - 2009.4.1 - 2013.4.1 - 2021.3.31 2014.4.1 - 2025.3.31 2018.4.1 - 2025.3.31 2018.4.1 - 2020.4.1 - 2021.3.31 2024.4.1 - 2024.4.1 -	薬理学実習（兼担） アクティブラボ（兼担） 病態解析治療学特論（兼担） 薬理学 I 薬学総合講座（兼担） 基礎薬学（C B T）演習（兼担） 薬学入門（兼担） 医薬品毒性学（兼担） 高齢者医療（兼担） 海外薬学研修（兼担） 医薬品構造学（兼担） 臨床・薬理・有機推論（兼担） 早期体験学習（兼担） 講義においては自作のプリントやプレゼンテーションを作成し、学生の理解が深まるように努力した。また、講義中も適宜、学生に反応を確認したり、問いかけを行うことにより、学生が講義を理解しているかを把握するように努めた。 2008 年度の薬理学Ⅱ、2012 年度の薬理学Ⅰの講義では、授業評価を基にした「ベストティーチャー賞(学内賞)」を受賞した。
2 作成した教科書、教材、参考書		講義を行うにあたり、自作のプリントやプレゼンテーションを作成し利用した。

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2005.4.1 -	高校での出張講義  本学で開催されるFDにはすべて参加している。  高校、大学（正規の講義以外）、卒後の薬剤師のための教育にも可能なかぎり参画している。
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
K Yamaki, A Matsuda, Y Koyama.	論文	Int. Arch. Allergy Immunol., 2024, 185, 1139-1153. "Importance of IgE-Induced Unique Plasma Leakage in the Skin for Urticaria-Like Symptoms in an Anaphylaxis-Dependent Spotted Distribution of Immune Complex in Skin (ASDIS) Mouse Model."
K Yamaki, N Kamiki, N Nakatsuka, H Yonezawa, A Suzuki, S Kubo, K Ito, H Fujisawa, Y Koyama, K Ohta, M Ohta	論文	Int. J. Pept. Res. Ther., 2024, 30, 26. "Naturally Occurring Imidazole Peptides, Carnosine and Anserine Inhibit the Degranulation of Mast Cells and Basophils by Modulating Intracellular Signaling."
K Yamaki, T Egi, K Segawa, A Tomonaka, Y Nakai, Y Koyama.	論文	Biol. Pharm. Bull., 2023, 46, 1484-1489. "Co-induced Allergic Response to an Unrelated Allergen Exacerbates Imiquimod-Induced Psoriasis in Mice."
K Yamaki, Y Tamura, T Suzuki, Y Uesaki, A Dougan, Y Koyama.	論文	Pharmazie, 2023, 78, 128-133. "PI3K/mTOR Inhibitor Dactolisib Attenuates Allergic Response Through Inhibitions of the Sensitization and Mast Cell Activation"
M Terashi, K Yamaki, Y Koyama.	論文	Immunol. Invest., 2023, 52, 83-103. "Development of a Novel IgG1 Anaphylaxis Mouse Model with Uniquely Characteristic Skin Manifestations Induced Through the Fc $\gamma$ R1111-Histamine Pathway."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
マウス脾臓 B 細胞の B cell receptor 刺激による活性化に対する IgA の抑制効果	2022 年 3 月	日本薬学会 第 142 年会

Emu IgY に特異的なモノクローナル二次抗体の作製とそれを用いた emu IgY の精製	2023 年 3 月	日本薬学会 第 143 年会
アレルギー性の反応はイミキモト誘導乾癬モデルを悪化させる	2024 年 3 月	日本薬学会 第 144 年会
抗酸化ストレス応答転写因子Nrf2の活性化物質探索と作用解析	2024 年 3 月	日本薬学会 第 144 年会
天然イミダゾールペプチドであるカルノシンおよびアンセリンの好塩基球活性化抑制作用	2025 年 3 月	日本薬学会 第 145 年会
III 学会等および社会における主な活動		
2002 年 ～ 現在	日本薬学会 会員	
2002 年 ～ 現在	日本薬理学会 会員	
2016 年 ～ 現在	日本薬学教育学会 会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 准教授	氏名 児玉 典子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2008年～2023年	（薬学英语入門Ⅰ・Ⅱ） 英語を学習手段として、専門的な内容を学ぶ内容言語統合型学習法を導入するとともに、何を学ぶのか？どのように学ぶのか？何ができるようになるのか？を考える授業を試みた。
	2020年～現在に至る	（感染制御学Ⅱ） 院内感染事例などを挙げ、医療現場で役立つ薬剤耐性菌の耐性獲得機構の理解を促し、医療現場での知識と経験の重要性を認識させる授業を行っている。
	2022年～現在に至る	（サイエンティフィックリテラシー） 学習の課題価値や学習方略についての理解を促すために、「何のために勉強するのか？」といった課題価値や「計画を立てて勉強する」といった学習方略を意識づける授業を行っている。
	2022年～現在に至る	（薬物治療学Ⅰ） 新しく学ぶ重要単語の意味理解と既修知識の関連性を見出すように、教科書を読んで理解させる授業を行っている。
	2022年～現在に至る	（基礎実習） 実験の目的や操作の原理を理解させるだけでなく、実験の結果がうまくいかない時に、なぜそうなるのか？どこに原因があるのか？といった考察を重要視した授業を行っている。
	2024年～現在に至る	（ロジカル思考演習Ⅱ・Ⅳ） ストレスに関する正しい知識と、学習における様々なストレス及びストレス対処法に関する調査、さらに自身にとって適切なストレス対処法を考えてグループ発表・討論を行っている。
2025年～現在に至る	（ロジカル思考演習Ⅰ・Ⅲ） 思考力育成法として知られている内容言語統合型学習理論に基づき、ペアワークやグループ活動を通して、医療と科学・異文化・多様性・環境・経済の観点から英語と日本語で書かれたトピックの理解を深めてもらうことで論理的思考力の育成を試みている。	

2 作成した教科書、教材、参考書	2023年9月	感染制御学 病原微生物との共存と戦い 第2版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2022年3月	FD研修会「学習支援の現状と取り組み」発表
	2023年5月	FD研修会「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」発表
	2025年3月	FD研修会「学習の動機づけ理論を応用した薬学教育」発表 広島国際大学
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDへの参加状況を含む)	2021年7月19日	FD研修会「遠隔授業の効果的な実施方法について（weblclassの利用について）」「WebClass使用事例の紹介」参加
	2022年7月19日	FD研修会「授業設計と成績評価について」参加
	2023年3月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて」「ロジカル思考演習」参加
	2023年10月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて(その2)」「チューター制度について」参加
	2024年3月14日	FD研修会「アクティブラーニングについて(その3)」参加
	2024年10月28日	FD研修会「OSCEの適正な実施に向けて」参加
	2025年3月11日	FD研修会「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」参加
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
児玉典子、藤波綾、湯立	論文	薬学教育, 6, 235-241(2022). Control-Value Theory を応用した薬学英語教育の試みー自己効力感, 達成関連感情, 学習方略の関連ー
ホーグ(児玉)典子、湯立	論文	日本教育心理学会 第64回総会発表論文集 64, 235(2022). 薬系大学における学習に対する苦手意識尺度の作成
児玉典子	論文	Libra, 23, 1-12(2023). リメディアル教育における自己調整学習を促す学習支援の試みー情意的要因とメタ認知の観点からー
児玉典子、三上雅久、北川裕之	論文	Libra, 24, 1-10 (2024). 初年次学生のメタ認知的支援の試みー生命科学の学習における誤概念への気づきー

児玉典子、湯立、児玉安史、山口雅史	論文	日本教育工学会論文誌, 48, Suppl号, 21-24(2024). 専攻分野の学習時に生じる苦手意識尺度の作成
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
初年次教育における認知された課題価値の教授と学習者の課題価値、学習行動に関する調査	2023年3月	日本薬学会 (第143年会)
初年次教育における学習方略の改善を目指した授業の検討—誤概念のフィードバックとメタ認知的支援の観点から—	2023年8月	日本薬学教育学会 (第8回)
薬学生における学習に対する苦手意識と達成目標、学業成績の関連	2024年3月	日本薬学会 (第144年会)
薬学英語の授業における動機づけ調整方略、エンゲージメントと興味に関連—交差遅延効果モデルによる検討—	2024年8月	日本薬学教育学会 (第9回大会)
英語を活用した論理的思考力、コミュニケーション力を育成する授業の試み	2025年3月	日本薬学会 (第145年会大会)
3. その他		
心理学の軌跡：薬学教育における実践的アプローチ —学習の動機づけとそれに関連する諸要因の観点から—	2024年8月	日本薬学教育学会 (第9回大会) シンポジウム (オーガナイザー・シンポジスト)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		

専任教員の教育・研究業績

所属	生化学研究室	職名	准教授	氏名	灘中 里美
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） （1）本学薬学部学生への教育		2020-2022年度	専門教育必修科目の講義： ・分子生物学II（2016カリキュラム3年次後期、2023年度で終了） ・生命科学II（2022カリキュラム2年次前期、2024年度より科目名と配当期が変更になる） ・生命科学III（2022カリキュラム2年次後期） 復習を促す工夫：1～2単元ごとに復習用プリントを作成し配信している（合計5～6回） 復習用プリントには、講義内容に関連する国家試験の過去問題やCBT用の練習問題も含めている 各問題には、教科書の該当ページを示し、教科書を見直しながら自習できるような作りになっている 解答は敢えて示していないが、勉強してわからないところは随時質問を受け付けている		
		2022-2025年度	専門教育必修科目の講義： 薬学入門（2022カリキュラム1年次前期） オムニバス形式の0.5コマ 新入生への導入講義として、自己紹介、担当する講義の概要、研究内容などを話し、親しみを感じてもらおうとともに、今後の学習や卒業研究に向けての研究マインドを醸成してもらおう		
		2020-2025年度	専門教育必修科目の講義：総合薬学講座（6年次前期） 生物系の2コマを担当 国家試験で扱われる生物の内容についての復習と演習、試験の出題□□		
		2020-2025年度	専門教育選択科目講義（演習型）：アクティブラボ 生化学研究室で行われている糖鎖分析学、生化学、分子生物学を用いた手法により簡単な実験を行いながら、研究室の研究内容と雰囲気に触れてもらい、研究に興味をもってもらう□		

	2020-2025年度	学部実習： 生化学実習（2016カリキュラム 3年次前期） 生命科学実習（2022カリキュラム 2年次後期）□
	2020-2025年度	卒業研究 1) 受け身の講義と違い、参加型の実習であるので、学生自身が問題解決していきけるようなトレーニングを行えるよう心掛けている。具体的には、学生のレベルに合った課題を与え、実験目的や方法を説明した後は、各自で日常の実験計画を立ててもらい、学生自身の力で課題を解決していくようなスタイルをとっている。学生だけでは目標到達が難しい場合はサポートするが、目標をクリアできない場合においても、答えのない課題に対してアプローチしていくプロセスを経験してもらうように心掛けている。 2) 定期的に実験結果を学生にまとめてもらい、グループディスカッションを行うことで、個々の実験目的、チームの研究目的の理解を促し、モチベーションを高め、主体的に実験に取り組んでもらえるよう心掛けている。 3) 卒業研究で行った研究活動の成果をまとめる卒業論文の作成、および研究成果を発表する際のプレゼンテーションの指導を行っている。
(2) 本学大学院生への教育	2020-2025年度	大学院特論（生化学特論）
2 作成した教科書、教材、参考書	2020-2025年度	生物学系II実習（生化学実習）テキスト 生化学実習（2016カリキュラム 3年次前期） 生命科学実習（2022カリキュラム 2年次後期）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2024年度後期 ベストティーチャー（生命科学III）
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		2024年8月22日（木） 「障害のある学生への合理的配慮と修学支援研修」 茂野 仁美氏（大阪教育大学総合教育系特別支援教育部門 特任講師）

	FD研修会参加状況	<p>2024年10月28日（月） OSCEの適正な実施に向けて 河内 正二 准教授</p> <p>2025年3月18日（火） 障害のある学生への合理的配慮と修学支援 茂野 仁美氏（大阪教育大学総合教育系特別支援教育部門 特任講師）</p> <p>2025年3月11日（火） 教理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における教理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～</p> <p>2025年3月17日（月） 職場における化学物質管理とリスクアセスメント ～身近な化学物質も～ 長谷川 潤 教授</p>
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Kitazawa, K., Nadanaka, S., Kadomatsu, K., and Kitagawa, H.	論文	Commun. Biol. (2021) 4, 114 doi.org/10.1038/s42003-020-01618-5 Chondroitin 6-sulfate represses keratinocyte proliferation in mouse skin, which is associated with psoriasis
Nadanaka, S., Tamura, J., and Kitagawa, H.	論文	Front. Oncol. (2022) 12 https://doi.org/10.3389/fonc.2022.914838 Chondroitin Sulfates Control Invasiveness of the Basal-Like Breast Cancer Cell Line MDA-MB-231 Through ROR1
Maeda, S., Yamada, J., Naganaka, S., Kitagawa, H., and Jinno, S.	論文	Br. J. Pharmacol. (2022) 179, 4755-4896 https://doi.org/10.1111/bph.15920 Chondroitin sulfate proteoglycan is a potential target of memantine to improve cognitive function via the promotion of adult neurogenesis

Harada, A., Kunii, M., Kurokawa, K., Sumi, T., Kanda, S., Zhang, Y., Nadanaka, S., Hirokawa, K. M., Tokunaga, K., Tojima, T., Taniguchi, M., Moriwaki, K., Yoshimura, S., Hino, M., Goto, S., Katagiri, T., Kume, S., Hayashi-Nishino M., Nakano, M., Miyoshi, E., Suzuki, K. G. N., Kitagawa, H., and Nakano, A.	論文	Nat. Commun. (2024) 15, 4514. <a href="https://doi.org/10.1038/s41467-024-48901-1">https://doi.org/10.1038/s41467-024-48901-1</a> Dynamic movement of the Golgi unit and its glycosylation enzyme zones.
Shinoda, C., Kitakaze, K., Sasai, Y., Nishioka, S., Kobayashi, I., Sumitani, M., Tatematsu, K., Iizuka, T., Harazono, A., Mitani, A., Kaneko, A., Imamura, M., Miyabe-Nishiwaki, T., Go, Y., Hirata, A., Takeuchi, Y., Mizuno, T., Kiriya, K., Tsukimoto, J., Nadanaka, S., Ishii-Watabe, A., Kinoshita, T., Kitagawa, H., Suzuki, Y., Oishi, T., Sezutsu, and H., Itoh, K.	論文	Commun. Med. (2025) 5, 128. <a href="https://www.nature.com/articles/s43856-025-00841-7">https://www.nature.com/articles/s43856-025-00841-7</a> N-glycan-modified $\alpha$ -L-iduronidase produced by transgenic silkworms ameliorates clinical signs in a Japanese macaque with mucopolysaccharidosis I.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
コンドロイチン硫酸による乳がん細胞の浸潤能促進機構の解析	2022. 9. 29 ~ 10. 1	第41回日本糖質学会年会
プロテオグリカンの機能を制御するグリコサミノグリカンの修飾を制御する仕組み	2023. 11. 1	第69回日本生化学会大会（福岡）
Chondroitin Sulfate Controls the Invasive Property of the Triple-Negative Breast Cancer Cell Lines, BT-549 and MDA-MB-231 Cells	2023. 8. 27 ~ 9. 1	GLYC026 (Taipei)
コンドロイチン硫酸の構造変化はタウタンパク質の凝集を促進させる	2024. 5. 18	第70回生化学回近畿支部例会（国立循環器病研究センター）
タウ凝集核の神経細胞への取り込みに関わるコンドロイチン硫酸	2024. 5. 18	第70回生化学回近畿支部例会（国立循環器病研究センター）
III 学会等および社会における主な活動		
1994年～現在	日本生化学会会員	
1995年～現在	糖質学会会員	
2001年～現在	日本分子生物学会会員	
2001年～現在	細胞生物学会会員	

灘中

2024年～現在	日本薬学会会員
2021～2022年度	日本生化学会近畿支部会計幹事
2022. 8. 2～2026. 12. 31	日本生化学会企画委員
2023. 11. 1～2025. 11定例総会終結ま	日本生化学会代議員

## 専任教員の教育・研究業績

所属 放射線管理室	職名 准教授	氏名 安岡 由美
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	1990年～現在に至る 1991年～現在に至る 1991年～現在に至る 2010年～2024年 2013年～現在に至る 2013年～現在に至る 2019年～現在に至る 2024年	物理化学系実習(放射線実習)：放射性物質の安全取扱い ゼミ生の教育：環境放射能・公衆衛生 放射線業務従事者教育訓練：法令を順守と放射性物質の取り扱い法 実務実習事前教育：放射性医薬品の取り扱いについて 放射化学：放射線に関する基礎知識 衛生薬学I（環境衛生）：放射線生物学の基礎 アイソトープ演習：放射線取扱主任者第1種の合格を目指す講座 調剤学：放射性医薬品の取り扱いについて
2 作成した教科書、教材、参考書	2007年～現在に至る	物理化学系実習(放射線実習) テキスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2025年3月17日 2025年3月18日	学修支援の現状と取り組み 授業設計と成績評価について アクティブラーニングについてロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み 職場における化学物質管理とリスクアセスメント ～身近な化学物質も～ 障害のある学生への合理的配慮と修学支援

II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Muto, J., Yasuoka, Y., Miura, N., Iwata, D., Nagahama, H., Hirano, M., Ohmomo, Y., Mukai T.	論文	Scientific reports 2021, 11, 7451. "Preseismic atmospheric radon anomaly associated with 2018 Northern Osaka earthquake."
Matsumoto, M., Yasuoka, Y., Takakaze, Y., Tokonami S., Iwaoka K., Mukai T.	論文	Journal of Radioanalytical and Nuclear 2023, 332, 167-172. "Evaluation of radon concentration measurements in water using the radon degassing method."
Tsuchiya, M., Nagahama, H., Muto, J., M. Hirano & Y. Yasuoka	論文	Scientific Reports 2024, 14, 11626. "Detection of atmospheric radon concentration anomalies and their potential for earthquake prediction using Random Forest analysis."
Yasuoka, Y., Takemoto, J., Omori, Y., Kawamoto, N., Goda, N., Nagahama, H., Muto, J., Tokonami, S., Hosoda, M., ; Iimoto, T., ; Mukai, T.,	論文	Radiation Protection Dosimetry 2024, 200, 1701-1705. "Practical cut-off value for radon concentration in indoor air using an activated-charcoal radon collector."
Anderson D, Oda Y, Taira Y, Omori Y, Tazoe H, Akata N, Kranrod C, Yamada R, Kuwata H, Tamakuma Y, Kudo H, Osanai M, Nishimura N, Yasuoka Y, Sanada T, Hosoda M, Tokonami S.	論文	Environmental Science & Technology 2025, 59, 4906-4914. "Fukushima' s tap and groundwater a decade after the nuclear accident with radiocesium, tritium, and radon."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Determination of screening values for radon concentration in indoor air using an activated-charcoal radon collector	2023年9月	第3回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会
鹿児島における大気中ラドン濃度変動	2023年7月	第60回アイソトープ・放射線研究発表会

活性炭捕集器による屋内ラドン濃度の測定	2023年7月	第60回アイソトープ・放射線研究発表会
ランダムフォレスト解析を用いた大気中ラドン濃度変動による地震の先行現象の検出	2023年5月	日本地球惑星科学連合2023
気象データを用いた地震前のラドン 異常の検出	2023年3月	第24回「環境放射能」研究会 オンライン
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1990年～現在に至る	日本薬学会会員	
1990年～現在に至る	日本アイソトープ協会	
1990年～現在に至る	日本保健物理学会会員（2021/7～2023/6 理事）	
2001年～現在に至る	日本放射線安全管理学会会員	
2002年11月～現在に至る	放射線医学総合研究所 客員協力研究員	
2014年7月～2024年6月	岡山県 環境放射線等測定技術委員会委員	
2016年10月～現在に至る	ISO/TC147(水質) /SC3 (放射線測定) 国内審議委員会委員	

専任教員の教育・研究業績

所属	微生物化学研究室	職名	准教授	氏名	中山 喜明
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				
	薬学入門	2015年より現在	「薬学入門」（1年次前期）を分担した。生物系薬学に関する基礎的講義を実施した。SGDやピア評価により能動的学習の導入を実践した。		
	アクティブラボ	2015年より現在	「アクティブラボ」（1-3年次通年）を分担した。低学年次の研究室未配属学生に対して微生物化学研究室で行っている研究について、体験学習を行った。		
	微生物学実習	2016年より現在	「微生物化学実習」（2年次後期）を分担した。微生物の取扱い、検出、同定についての基本的技能などを指導した。		
	免疫学	2017年より現在	「免疫学」（2年次後期）を担当した。Web確認試験やWeb掲示板を取り入れることで、学生の習熟度把握に取り組んだ。2023, 2025年ベストティーチャー。		
	卒業研究	2014年より現在	研究室に配属された学部学生に対して、研究指導を実施した。□		
	総合薬学講座	2017年より現在	「総合薬学講座」（6年次通年）を担当した。機能形態学や免疫学分野の復習講義を行なった。		
2	作成した教科書、教材、参考書		該当なし。		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし。		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		2022年度ベストティーチャー賞		

<FDへの参加状況>	2021年7月19日	遠隔授業の効果的な実施方法について WebClass使用実例の紹介
	2022年3月11日	学修支援の現状と取り組み
	2022年7月19日	授業設計と成績評価について
	2023年3月16日	アクティブラーニングについてロジカル思考演習
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について
	2024年3月14日	アクティブラーニングについて（その3）
	2024年10月28日	OSCEの適切な実施について
	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Nakayama Y, Masuda Y, Shimizu R, Konishi M.	論文	"Neudesin, a secretory protein, attenuates activation of lipopolysaccharide-stimulated macrophages by suppressing the Jak/Stat1/iNOS pathway" Life Sciences. 358:123185. (2024)
Masuda Y, Kondo N, Nakayama Y, Shimizu R, Konishi M.	論文	"Neudesin regulates dendritic cell function and antitumor CD8+ T cell immunity" Clinical Immunology. 268:110376 (2024)
Nishizawa H, Matsumoto M, Yamanaka M, Irikura R, Nakajima K, Tada K, Nakayama Y, Konishi M, Itoh N, Funayama R, Nakayama K, Igarashi K.	論文	"BACH1 inhibits senescence, obesity, and short lifespan by ferroptotic FGF21 secretion" Cell Reports. 43(7):114403. (2024)
Nakayama Y, Masuda Y, Mukae T, Mikami T, Shimizu R, Kondo N, Kitagawa H, Itoh N, Konishi M.	論文	"A secretory protein neudesin regulates splenic red pulp macrophages in erythrophagocytosis and iron recycling" Communications Biology. 25:7(1):129. (2024)

Kondo K, Masuda Y, Nakayama Y, Shimizu R, Tanigaki T, Yasui Y, Itoh N, Konishi M.	論文	"Neudesin, A Secretory Protein, Suppresses Cytokine Production in Bone Marrow-Derived Dendritic Cells Stimulated by Lipopolysaccharide" BPB Reports. 6(5):155-162 (2023)
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
分泌タンパク質neudesinはJak/Stat1シグナルの抑制を介してマクロファージ活性化を制御する	2025年3月	日本薬学会第145年会 (博多)
neudesinはがん免疫応答を抑制し、乳がんの発症と成長を促進する	2025年3月	日本薬学会第145年会 (博多)
分泌タンパク質neudesinの体液性免疫におけるB細胞成熟および抗体産生への機能的関与	2025年3月	日本薬学会第145年会 (博多)
III 学会等および社会における主な活動		
2004年8月～現在に至る	日本分子生物学会会員	
2012年8月～現在に至る	日本糖質学会会員	
2017年11月～現在に至る	日本薬学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 臨床心理学研究室	職名 准教授	氏名 中島 園美
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2021年度	<p>「人の行動と心理」（2016～2021）                  全人的医療を遂行できる医療人を養成するために、患者と家族の心理社会的側面を理解したり、医療現場でのコミュニケーション力の基盤を形成することを目指し、1年次に「人の行動と心理」、2年次の前期で「医療コミュニケーション」、後期で「医療コミュニケーション演習」と体系的・段階的なカリキュラムとなっている。                  まず、1年次での「人の行動と心理」では、人の行動と心理のメカニズムやプロセスを学び、患者や家族の心理的な問題をアセスメントし、適切に援助するための基盤を形成する内容とした。                  コミュニケーション・トレーニングである「アサーション」ワークも導入している。内容は、学生の身近な問題をケースとして取り上げ、自分の考えや気持ちを、相手の立場や気持ちも考慮しながら、適切な言葉で伝え、相互尊重の関係を築くことのできるコミュニケーション・スキルの獲得を目的とした構成にしている。そして、次回の授業のスライドにおいて、学生のレポートの中のいくつかを取り上げフィードバックを行い、同級生の適切な表現をモデリングできるよう意図した。</p>
		<p>「医療コミュニケーション」（2016年～）                  患者と家族介護者へ医療者としての態度形成を目指した医療プロフェッショナリズム教育とコミュニケーション教育に重点をおいている。まず医療プロフェッショナリズムについて概説し、求められる医療者像の知識を得られるようにし、次に各疾患毎の患者の心理的特徴を中心に概説し、望ましいコミュニケーションのあり方を提示している。さらに、チーム医療の一員として多職種の中で適切なコミュニケーションが発揮できるように連携の留意点も解説している。                  授業の後半には、医療者に必須な自他尊重の表現法であるコミュニケーション・トレーニング「アサーション」ワークを導入している。                  ゲストスピーカーとして、ホスピスに従事しているチャプレンに終末期ケアの経験を話して頂くことを取り入れている。臨床現場の話聞くことによる医療者としての態度形成を意図している。</p> <p>他5件</p>
	2022年度	<p>「医療コミュニケーション」（2016年～）                  同上</p>
		<p>「医療コミュニケーション演習」（2016年～）                  「医療コミュニケーション」で学んだことを基盤とした患者や家族への支援や医療チームのメンバーへの対応する実践力を獲得するために、臨床事例を提示し、問題点をSGDで掘り下げ、それを踏まえて患者役と薬剤師役でのロールプレイを行う体験学習を導入している。小グループでの活動を通して、チームでの問題発見・解決能力を養うことも意図している。</p> <p>他4件</p>

	2023年度	<p>「高齢者医療」において、『高齢者の心理と接し方』担当。(2018年～) 現代の超高齢社会、医療者として高齢者と円滑にコミュニケーションを取るための基盤となる高齢者の心理的側面と問題点を概説した。講義型だけでなく、主体的に授業に取り組めるようにワークも組み込んでいる。薬剤師の在宅医療への積極的な参画が求められることから、高齢者在宅医療の事例を提示し、高齢患者の立場では、どのように感じるか、どんな医療を求めているかなどワークシートを用いて考えを深めることを目指した。患者の体験を知り、患者の立場で考えられ医療人の態度育成を意図している。</p>
		<p>「在宅医療演習」(2019年～) チーム医療で多職種と協働して患者、家族介護者を支える多職種連携能力育成を目指している。まず、神戸薬科大学の学生のみで、多職種の役割理解などを目的としたワークを行い、次に甲南女子大学との合同演習で在宅ケアの事例をもとにロールプレイを行う体験学習を導入している。</p>
		他3件
	2024年度	<p>「医療コミュニケーション」 同上</p>
		<p>「医療コミュニケーション演習」 同上</p>
		他6件
	2025年度	<p>「医療コミュニケーション」 同上</p>
		<p>「医療コミュニケーション演習」 同上</p>
		他5件
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年4月	「医療コミュニケーション」「医療コミュニケーション演習」「人の行動と心理」「社会心理学」「総合文化演習」「高齢者医療」「在宅医療演習」テキスト作成
	2022年4月	「医療コミュニケーション」「医療コミュニケーション演習」「社会心理学」「総合文化演習」「高齢者医療」「在宅医療演習」テキスト作成
	2023年4月	「社会心理学」「ロジカル思考演習Ⅱ・Ⅳ」「ロジカル思考演習Ⅰ・Ⅲ」「高齢者医療」「在宅医療演習」「薬学入門」テキスト作成
	2024年4月	「医療コミュニケーション」「医療コミュニケーション演習」「社会心理学」「ロジカル思考演習Ⅱ・Ⅳ」「ロジカル思考演習Ⅰ・Ⅲ」「高齢者医療」「在宅医療演習」「薬学入門」テキスト作成
	2025年4月	「医療コミュニケーション」「医療コミュニケーション演習」「社会心理学」「ロジカル思考演習Ⅱ・Ⅳ」「ロジカル思考演習Ⅰ・Ⅲ」「在宅医療演習」「薬学入門」テキスト作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2023年8月	「薬学生による地域貢献－『ぬいぐるみ薬局』活動報告－」第8回日本薬学教育学会大会 一般演題ポスター発表 講演要旨集133.
4 その他教育活動上特記すべき事項	2015年4月～現在	図書選定委員会委員

2016年4月～現在	ハラスメント防止委員会委員
2017年4月～現在	地域連携サテライトセンター運営委員会委員
2019年4月～現在	ハラスメント相談員
2020年4月～現在	組換えDNA実験安全委員会委員
2017年12月～2022年8月	認知症カフェ 全16回開催 場所：地域連携サテライトセンター
2022年	2021年度ベストティーチャー賞受賞
2022年10月	神戸薬科大学第62回薬剤師実践塾(オンライン研修会)講演 コミュニケーショントレーニング「アサーション」 場所:エクステンションセンター
2022年1月～2023年9月	キッズカフェ「『ぬいぐるみ薬局』で薬剤師になってみよう！」 東灘区役所の後援で実施 場所:地域連携サテライトセンター
2023年10月～現在	パーキンソンカレッジ NPO法人てんびんと共催 実施場所:地域連携サテライトセンター
2023年10月	京都ききょう会第66回生涯研修会 講師 コミュニケーショントレーニング「アサーション」 於:京都市 キャンパスプラザ京都
2024年3月	パーキンソンカレッジの活動報告「難病啓発チャリティ」 主催:NPO法人てんびん 於:神戸芸術センター
2024年3月	認知症におけるメモリーブックの作り方や活用方法 (単著), 『ケアスル介護』コラムwebページ(URL : <a href="https://caresul-kaigo.jp/column/articles/34372/">https://caresul-kaigo.jp/column/articles/34372/</a> )
2024年5月	2023年度ベストティーチャー賞受賞
(FD参加状況)	
2021年 7. 19	「遠隔授業の効果的な実施方法について (webclassの利用について)」 「Webclass使用実例の紹介」
2022年 3. 11	「学修支援の現状と取り組み」
2022年 7. 19	「授業設計と成績評価について」
2023年 5. 15	「アクティブラーニングについて」 「ロジカル思考演習」
2023年 5. 15	「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
2023年 10. 16	「アクティブラーニングについて(その2)」 「チューター制度について」

	2024年 3.14	「アクティブラーニングについて(その3)」
	2024年 10.28	「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025年 3.11	「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」
	2025年 7.22	「統括部門における教学IRの取り組みについて」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
総監修：市川 編集委員：亀井、有田、岸本、木下、益山 執筆：中島ら	著書	新スタンダード薬学シリーズ 第2巻「社会と薬学」東京化学同人 2.3節 患者の行動変容 p 51-57. 執筆担当 (2024)
編集代表：北河 編集：岩川、高尾、長嶺 執筆：中島ら	著書	「薬剤師、在宅へ行く」南山堂 1章 Bad Newsを受容できない患者への対応 p 11-15. 8章 看取りに備えるーエンド・オブ・ライフケア p 103-109. 執筆担当 (2022)
中島園美	解説	自分も相手も大切にしたい自己表現「アサーション」ーこれからの医療者に必要なコミュニケーションの考え方とスキルー ききょう京都 第48号2-3. 執筆担当 (2024)
中島園美、松井左知子	論文	新型コロナウイルス感染症による活動自粛が認知症の家族介護者に与える精神的影響に関する質的研究 日本在宅医療連合学会誌第3巻別冊 40-44. 2022. (査読有)
中島園美	論文	大学生への発達支援教育プログラムとしてのコラージュ療法の応用ーソリューション・フォーカスト・アプローチに基づくワークシートを用いてー コラージュ療法学研究 12(1), 3-14. 2021. (査読有)
2. 学会発表 (2021. 1. 1～2025. 12. 31に行った学会発表)		
演題名	発表年・月	学会名
小児への服薬支援を考えるー服薬支援における保護者の行動と認識に差異が生じる要因の検討、および声掛けサポートブックへの反応の集計についてー	2025年6月	第8回フレッシュャーズ・カンファランス
医療系大学生へのマインドフルネス瞑想を用いたストレスマネジメント教育プログラムの実践と効果検討	2024年10月	日本マインドフルネス学会第11回大会
医師が薬剤師に求める疑義紹介のあり方	2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会
大麻に対するメディア情報が薬学生に与える影響	2023年8月	第8回日本薬学教育学会大会
母親と薬学生が考える小児医療で求められる薬剤師像のズレ	2022年10月	第72回日本薬学学会関西支部総会大会
III 学会等および社会における主な活動		
2024年9月6日・9月12日・9月27日	神戸市公立学校連携授業「自他尊重のこころを育てるアサーション」於：横尾中学校（2024年9月6日）・本山第一小学校（2024年9月12日）・本庄小学校（2024年9月27日）	
2025年2月16日	神戸市立東灘図書館区民対象講演会『自分も相手も大切にしたい自己表現「アサーション」』	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	製剤学研究室	職名	准教授	氏名	古林 呂之
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1) 学部学生に対する教育					
製剤学(2023年までは薬剤設計学)		2018年～	3年次科目。SBOsに基づき、薬剤師国家試験で取り扱われる内容をできる限り盛り込んだ資料を作成し、配布している。学生それぞれの興味に様々な角度からアプローチするためにより多くの情報を提供している。		
臨床薬剤学 I		2019年～2024年	4年次科目（全12コマのうち3コマ担当）。SBOsに基づき、薬剤師国家試験で取り扱われる内容をできる限り盛り込んだ資料を作成し、配布している。学生それぞれの興味に様々な角度からアプローチするためにより多くの情報を提供している。2023年ベストティーチャー賞表彰科目		
臨床薬剤学 II		2020年～	6年次科目（全12コマのうち1コマ担当）。浸透圧の計算について、演習形式で授業を行い、詳細な解説により根本からの理解に繋がるよう工夫している。		
総合薬学講座		2018年～	6年次科目(4コマ担当)。製剤学について国家試験で重要となる内容に絞り、網羅的に復習できる資料を作成し配布している。		
アクティブラボ		2019年～	3年次生を対象に薬物動態関連の研究を行い、薬剤学分野の研究の面白さと研究室の雰囲気を感じてもらおうように工夫している。		
製剤学・薬剤学実習		2019年～	3年次生後期の製剤学・製剤学実習において、製剤化と粉体物性測定についての指導を行っている。		
卒業研究		2018年～	製剤学研究室に配属された4、5、6年次生に対し、卒業研究の指導を行っている。卒業研究を通して、問題解決能力やプレゼンテーション能力等を養えるよう、学年や学生個々の能力に合わせて指導するよう努めている。		
早期体験学習		2022年	1年生クラス担任として、薬局見学にかかる準備と報告に関する指導を行った。その他、これから先の大学生活における勉強方法や生活面について指導を行い、スムーズに大学生活に馴染んでもらえるように働きかけた。また、その間にクラス学生の性格等をできるだけ把握するように努めた。		
(2) 大学院生への教育					

薬剤学特論(大学院・修士課程)	2018年～2022年	薬物の経鼻吸収動態と評価法及び経粘膜薬物吸収における製剤機能の評価と製剤化の実際について、他の専門分野の学生にも理解できるように可能な限りかみ砕いて講義している。
臨床薬剤学特論(大学院・博士課程)	2018年～	薬物の経鼻吸収動態と評価法及び経粘膜薬物吸収における製剤機能の評価と製剤化の実際について、他の専門分野の学生にも理解できるように可能な限りかみ砕いて講義している。
大学院研究指導 (3) 他大学での講義	2021年～	研究の目的の理解と必要な実験及び計画と実施について、また、得られたデータの解析についての指導を行っている。
摂南大学非常勤講師・大学院 薬物動態学特論、製剤学特論	2022年～2024年	博士課程の学生を対象に、自身の研究結果における薬物動態及び製剤特性評価に関する内容を中心に講義を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会 参加	2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日 2024年3月14日 2024年10月28日	「遠隔授業の効果的な実施方法について (webclassの利用について)」 「WebClass使用事例の紹介」 「学修支援の現状と取り組み」 「授業設計と成績評価について」 「アクティブラーニングについて」 「ロジカル思考演習」 「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」 「アクティブラーニングについて (その2)」 「チューター制度について」 「アクティブラーニングについて (その3)」 「OSCEの適正な実施に向けて」

	2025年3月11日	「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Furubayashi T.*, Inoue D., Kimura S., Tanaka A., Sakane T.*	論文	<i>Pharmaceutics</i> , 2021, <b>13</b> , 1363. "Evaluation of Pharmacokinetics of Intranasal Drug Delivery for Targeting Cervical Lymph Nodes in Rats."
Seino S.*, Ikehata H., Tanabe M., Umeda T., Tomiyama T., Tanaka A., Furubayashi T., Sakane T., Kiwa T., Washino M., Nomura K., Tonooka S., Izawa A., Okumura Y., Nakagawa T.	論文	<i>J. Control Release.</i> , 2024, <b>367</b> , 515-521 "Investigating the efficacy of nasal administration for delivering magnetic nanoparticles into the brain for magnetic particle imaging."
Tanaka A.*, Kiriyama A., Sano A., Cho C., Katsumi H., Yamamoto A., Furubayashi T.	論文	<i>J. Pharm. Sci.</i> , 2024, <b>113</b> , 2633-2640, "Left-Right Difference in Brain Pharmacokinetics Following Nasal Administration Via One-Site Nostrils"
Tatsuta R., Tanaka A., Ogawara KI., Higaki K., Furubayashi T.*, Sakane T.	論文	<i>Eur. J. Pharm. Biopharm.</i> , 2025, <b>207</b> , 114612, "In vivo systemic evaluation of nasal drug absorption from powder formulations in rats"
Furubayashi T.*, Kobayashi M., Hamada N., Kawashiri S., Tanaka A.	論文	<i>J. Drug Target.</i> , 2025, In press, "Efficacy of intranasal delivery of VEGFR inhibitors to cervical lymph nodes for inhibiting tongue cancer metastasis in mice"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
ラマン分光法を利用した粉末状薬物の経鼻吸収性推定法の構築V ～添加剤による難水溶性薬物の溶解改善～	2024年3月	日本薬学会第144年会
脂肪乳剤による薬物の鼻粘膜吸収促進作用に関する考察II	2024年5月	日本薬剤学会第39年会
鼻腔内投与による視神経への薬物送達II	2024年5月	日本薬剤学会第39年会
VEGFR阻害剤の頸部リンパ節送達における経鼻投与の有用性	2025年3月	日本薬学会第145年会

舌癌由来頸部リンパ節転移抑制におけるチロシンキナーゼ阻害薬 経鼻投与の有用性	2025年6月	第41回日本DDS学会学術大会
3. その他		
講演演題名	発表年・月	会名
薬物の経鼻吸収動態評価と制御 ～経鼻投与は経口投与に代わ れるのか？～	2022年5月	日本薬剤学会第37年会 学術シンポジウム
薬剤師が知っておくべき点鼻製剤の特徴	2024年11月	第34回日本医療薬学会年会 シンポジウム15
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1995年9月～現在に至る	日本薬物動態学会委員	
1996年1月～現在に至る	日本薬学会会員	
1997年1月～現在に至る	日本薬剤学会会員 ※2022年4月1日～ 代議員、第37年会（2022年5月26-28日開催）実行委員、2024年4月1日～ 投稿論文審査委員	
2001年7月～現在に至る	日本DDS学会会員	
2013年9月～現在に至る	創剤フォーラム会員 ※2016年11月26日 若手研究会世話人	
2019年5月～現在に至る	日本がん免疫学会会員	
2023年4月～現在に至る	日本医療薬学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 薬品物理化学研究室	職名 准教授	氏名 佐野 紘平
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</p> <p>(1) 本学薬学部学生への教育（講義、実習）</p> <p>(2) 本学薬学部学生への教育（講義、実習）</p> <p>(3) 本学薬学研究科大学院生への教育</p> <p>(4) 他大学での講義</p>	<p>2023年～現在</p> <p>2016年～現在</p> <p>2017年～現在</p> <p>2016年～現在</p> <p>2016年～現在</p> <p>2021年、2023年</p> <p>2022年</p> <p>2023年5月</p>	<p>物理化学Ⅱ（2年次前期）（分担、7コマ） 化学平衡の原理、相平衡、溶液の性質、電気化学に関する講義を担当 学生の理解を深めるために、WebClassで問題演習を実施</p> <p>物理化学系実習（2年次後期） GM計数管によるβ線の測定、計数の統計的変動の理解に関する実習等を担当</p> <p>アイソトープ演習（3、4年次）（分担、6-7コマ） 放射線取扱主任者試験（国家試験）の資格取得を目指し、問題演習を実施。 2018、2020、2023年度、受講生から第1種放射線取扱主任者試験に1名ずつ合格 他5件（薬学入門、早期体験学習、物理化学Ⅲ、総合薬学講座、総合薬学講座I）</p> <p>研究室に配属された学部学生に対して研究指導を実施。 担当学生計6名が学会優秀発表賞を受賞（計8件）。</p> <p>大学院生に対して、講義および研究指導を実施。 担当学生2名が学会優秀発表賞を受賞（計3件）。</p> <p>物理系創薬学特論（大学院博士） 物理系基礎創薬学特論（大学院修士） 京都大学大学院薬学研究科 基礎物理化学特論I</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし

<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>FD・SDへの参加状況（2021年度以降）</p>	<p>2021年7月19日</p> <p>2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日</p> <p>2023年5月15日 2023年10月16日</p> <p>2024年3月14日 2024年8月22日 2024年10月28日 2025年3月11日</p> <p>2025年3月17日</p>	<p>遠隔授業の効果的な実施方法について WebClass使用事例の紹介 学修支援の現状と取り組み 授業設計と成績評価について アクティブラーニングについて ロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について アクティブラーニングについて（その3） 障害のある学生への合理的配慮と修学支援研究 OSCEの適正な実施に向けて 教理・データサイエンス・AI教育FDシンポジウム2025 ～薬学部における教理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～ 職場における化学物質管理とリスクアセスメント ～身近な化学物質も～</p>
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Kohei Sano, Yumi Ishida, Toshie Tanaka, Tatsuya Mizukami, Tomono Nagayama, Yoshie Haratake, Masayuki Munekane, Toshihide Yamasaki, Takahiro Mukai	論文	<i>Cancers</i> , <b>13</b> :5005 (2021) Enhanced delivery of thermoresponsive polymer-based medicine into tumors by using heat produced from gold nanorods irradiated with near-infrared light.
Kohei Sano, Koki Umemoto, Haruka Miura, Satoshi Ohno, kyohei Iwata, Rin Kawakami, Masayuki Munekane, Toshihide Yamasaki, Daniel Citterio, Yuki Hiruta, Takahiro Mukai	論文	<i>ACS Applied Polymer Materials</i> , <b>4</b> :4734-4740 (2022) Feasibility of using poly[oligo(ethylene glycol) methyl ether methacrylate] as tumor-targeted carriers of diagnostic drugs.
Yoshie Haratake, Kohei Sano, Chika Fujioka, Satsuki Oshima, Masayuki Munekane, Toshihide Yamasaki, Takahiro Mukai	論文	<i>Bioorganic &amp; Medicinal Chemistry</i> , <b>92</b> :117426 (2023) Chemical design of radioiodinated probes with a metabolizable linkage for target-selective imaging of systemic amyloidosis.
Toshie Tanaka, Kohei Sano, Rin Kawakami, Shiho Tanaka, Masayuki Munekane, Toshihide Yamasaki, Takahiro Mukai	論文	<i>Nanomedicine</i> , <b>62</b> :102781 (2024) Electrostatically self-assembled gold nanorods with sulfated hyaluronic acid for targeted photothermal therapy for CD44-positive tumors.

Kohei Sano, Tatsuya Mizukami, Toshie Tanaka, Tomono Nagayama, Momoka Nakata, Mizuho Yamasaki, Tomoya Fukada, Yoshie Haratake, Masayuki Munekane, Toshihide Yamasaki, Takahiro Mukai	論文	<i>International Journal of Pharmaceutics</i> , <b>669</b> :125103 (2025) Intravenous administration of <sup>90</sup> Y-labeled polyoxazoline combined with tumor heating potently inhibits tumor growth in mice.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
CD44高発現がんの光温熱治療を目的とする硫酸化ヒアルロン酸被覆金ナノロッドの開発	2023年・7月	第39回日本DDS学会学術集会
不安定プラークの検出を目的としたヘパラーゼ標的放射性ヨウ素標識薬剤の開発	2023年・10月	第73回日本薬学会関西支部大会
脂質-スチレンマレイン酸共重合体ナノディスクのがん集積に対する脂質電荷の影響評価	2024年・3月	日本薬学会第144年会
がんの核医学診断・治療に資する放射性金属で標識した熱応答凝集性ポリマー修飾リポソーム製剤の開発	2024年・6月	第33回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
ポリマーの熱応答凝集特性を利用したがん細胞傷害効果に関する検討	2025年・3月	日本薬学会第145年会
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名
熱応答凝集性ポリマーを基盤とするがん標的セラノスティクス薬剤の創製	2024年・5月	日本薬剤学会第39年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在	日本薬学会会員	
2006年～現在	日本分子イメージング学会会員	

佐野

2008年～現在	日本核医学会会員
2016年～現在	日本DDS学会会員
2019年～現在	日本癌学会会員

## 専任教員の教育・研究業績

所属	臨床薬学研究室	職名	准教授	氏名	原 哲也
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概 要	
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2020年7月1日－		<p>学部学生に薬物治療学Ⅳ、薬物治療学Ⅴ、処方解析Ⅱ、総合薬学講座を担当している。これまでの臨床医としての経験に基づき、学生の疾患の病態への理解と興味を引き出すため、実際に経験した症例とのエピソード、病棟での実体験をできるだけ織り交ぜながら講義するようにしている。講義前にパワーポイントファイルをプリントし、一部穴埋め式にして、集中力を維持させるよう工夫している。少単元毎、もしくは授業毎に講義したことの復習や、具体的に国家試験で求められる知識レベルをイメージできるように、過去問を提示して、解答させるようにしている。Googleフォームを用いて、リアルタイムに学生の理解力を把握する。これにより、正解率が高い問題の解説は少なくし、低い問題には時間を費やす、という対応ができるように独自に工夫をしている。神戸大学医学部医学科の学生や、研修医への教育にも従事しており、研究室に配属された学生には、医学部学生との合同授業や、研修医との合同ミーティングをZOOMを用いて参加させている。これらによって多職種連携への意識づくり、医師視点での考え方を身に付け、将来の医師への情報提供、疑義照会がスムーズにできるように工夫している。</p>	
2	作成した教科書、教材、参考書 薬学生のための臨床病態学	2024年		「不整脈、弁膜症、心原性ショック、感染性心内膜炎」を担当した。	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021/7/19		FD	「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」

		FD 「WebClass使用実例の紹介」 2022/3/11 FD 「学修支援の現状と取り組み」 2022/7/19 FD 「授業設計と成績評価について」 2023/3/16 FD 「アクティブラーニングについて」 FD 「ロジカル思考演習」 2023/5/15 FD 「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」 2023/10/16 FD 「アクティブラーニングについて（その2）」 2024/10/28 FD OSCEの適正な実施に向けて 2025/3/11 FD 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 2025/7/22 FD 統括部門における教学IRの取り組みについて
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Takami M, Hara T, Okimoto T, Suga M, Fukuzawa K, Kiuchi K, Suehiro H, Akita T, Takemoto M, Nakamura T, Sakai J, Yatomi A, Nakasone K, Sonoda Y, Yamamoto K, Takahara H, Hirata KI	論文	Electrophysiological and Pathological Impact of Medium-Dose External Carbon Ion and Proton Beam Radiation on the Left Ventricle in an Animal Model. J Am Heart Assoc. 2021;10:e019687.

Adinata A, Hara T, Achyar AC, Suzuki Y, Hirata KI, Otake H, Emoto N.	論文	Usefulness of serial in vivo imaging to directly assess the role of inflammation in thrombus resolution and organization. <i>Biochem Biophys Res Commun.</i> 2025;747:151293. doi: 10.1016/j.bbrc.2025.151293
Suraya R, Nagano T, Yumura M, Hara T, Akashi M, Yamamoto M, Tachihara M, Nishimura Y, Kobayashi K.	論文	Loss of JCAD/KIAA1462 Protects the Lung from Acute and Chronic Consequences of Chronic Obstructive Pulmonary Disease. <i>Int J Mol Sci.</i> (2024). doi: 10.3390/ijms25179492.
Ryanto GRT, Musthafa A, Hara T, Emoto N.	論文	Inactivating the Uninhibited: The Tale of Activins and Inhibins in Pulmonary Arterial Hypertension. <i>Int J Mol Sci.</i> 2023;24:3332.
Achyar AC, Hara T, Adinata A, Suzuki Y, Nishimori M, Hirata KI, Otake H, Emoto N.	論文	Interleukin-6 Enhances Localized Immune Cell Infiltration and Deep Vein Thrombosis Resolution at the Distal Edge. <i>Am J Physiol Heart Circ Physiol.</i> 2025, in press.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
IL-6 attenuates murine venous thrombosis through localized leukocyte-platelet recruitment	2023年3月	日本循環器学会 学術総会
Loss of Chondroitin Sulfate N-acetylgalactosaminyltransferase-2 (ChGn-2) Impairs	2023年3月	日本循環器学会 学術総会
Loss of Chondroitin Sulfate N-acetylgalactosaminyltrans	2023年11月	AHA Scientific Sessions 2024
Interleukin-6-Modulated Inflammation Augments Deep Vein Thrombosis Organization in Mice.	2023年11月	AHA Scientific Sessions 2024

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 准教授	氏名 河内 正二
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>2009年4月～現在</p> <p>2012年4月～現在</p> <p>2012年4月～現在</p> <p>2014年4月～2024年9月</p> <p>2015年4月～現在</p> <p>2016年4月～2024年9月</p> <p>2018年4月～2025年3月</p> <p>2019年4月～現在</p> <p>2020年4月～現在</p> <p>2020年4月～現在</p> <p>2023年4月～現在</p> <p>2024年4月～現在</p> <p>2025年4月～現在</p>	<p>4年次の「実務実習事前教育」を分担した。</p> <p>4、5年次の「海外薬学研修」の講義を分担した。</p> <p>6年次の「総合薬学講座」を分担した。</p> <p>3年次の「調剤学Ⅰ」を分担した。</p> <p>1年次の「早期体験学習（救命救急訓練）」を分担した。</p> <p>4年次の「安全管理医療」を分担した。</p> <p>4年次の「処方解析学Ⅰ・Ⅱ」を分担した。</p> <p>5年次の「在宅医療演習」を分担した。</p> <p>2年次の「医療コミュニケーション演習」を分担した。</p> <p>6年次の「感染制御学Ⅱ」を分担した。</p> <p>1年次の「薬学入門」を分担した。</p> <p>3年次の「医療コミュニケーション演習」を分担した。</p> <p>4年次の「医療安全学」を担当した。</p> <p>臨床現場での経験を活かして最新の情報を提供することを心がけている。講義に使用する資料は、図表や写真画像および動画を多く取り入れ、学生が理解し、知識が定着するよう努めている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月19日	FD研修会 「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」

	2022年3月11日	「WebClass使用実例の紹介」 FD研修会
	2022年7月19日	「学修支援の現状と取り組み」 FD研修会
	2023年3月16日	「授業設計と成績評価について」 FD研修会
	2023年5月15日	「アクティブラーニングについて」 FD研修会
	2023年10月16日	「アクティブラーニングについて（その2）」 FD研修会
	2024年3月14日	「アクティブラーニングについて（その3）」 FD研修会
	2024年10月28日	「OSCEの適正な実施に向けて」 FD研修会
	2025年3月11日	「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025」 FD研修会
～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Horibe S, Ishikawa K, Nakada K, Wake M, Takeda N, Tanaka T, Kawauchi S, Sasaki N, Rikitake Y.	論文	Oncol Rep. 2022; 47:32. "Mitochondrial DNA mutations are involved in the acquisition of cisplatin resistance in human lung cancer A549 cells."

Kawauchi S, Mizoguchi T, Horibe S, Tanaka T, Sasaki N, Ikeda K, Emoto N, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	Glia. 2023; 71(2):467-479. "Gliovascular interface abnormality in mice with endothelial cell senescence."
Horibe S, Emoto T, Mizoguchi T, Tanaka T, Kawauchi S, Sasaki N, Yamashita T, Ikeda K, Emoto N, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	Glia. 2024; 72(1):51-68. "Endothelial senescence alleviates cognitive impairment in a mouse model of Alzheimer's disease."
Kawauchi S, Horibe S, Tanaka T, Sasaki N, Kunimasa J, Rikitake Y.	論文	Sci Rep. 2025; 15(1):23132. "Disruption of small intestinal mucosal homeostasis in mice with amiodarone induced steatohepatitis."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
薬剤性非アルコール性脂肪肝炎（NASH）が小腸粘膜恒常性に及ぼす影響	2022年3月	日本薬学会第142年会
アミオダロンによる薬剤性NASHにおける小腸粘膜恒常性の破綻機序に関する検討	2023年3月	日本薬学会第143年会
がんについて学べるカードゲーム「メディカルテット」によるがん教育の実施とその教育効果について	2024年5月	第17回日本緩和医療薬学会年会
中高生を対象としたがん教育推進のためのカード学習教材「メディカルテット」の開発	2024年5月	第17回日本緩和医療薬学会年会
社会的苦痛に対するがん教育の実施とその教育効果について	2025年3月	日本薬学会第145年会
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名

Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2005年4月～現在	日本病院薬剤師会	
2005年4月～現在	日本医療薬学会	
2009年4月～現在	日本薬学会	
2010年4月～現在	日本薬剤師会	
2017年4月～現在	登録販売者試験委員(兵庫県2017-2018、関西広域連合2019-)	
2017年4月～現在	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップでのタスクフォース	

専任教員の教育・研究業績

所属 生命分析化学研究室	職名 准教授	氏名 大山 浩之
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
分析化学実習	2010年4月～現在	分析化学実習では、講義で学んだ原理・原則などについて実習を通してより理解を深くし、安全かつ円滑に実験を遂行するための手法や技術の指導に努めている。
分析化学II	2018年4月～現在	各種滴定の原理およびこれらの応用例を講義している。医薬品の定量分析では国家試験でよく出題されるポイントを中心に解説している。
卒業研究I, II, III	2010年4月～現在	研究テーマの背景やその新規性に関して、平易な例を示しつつその重要性や国内外での位置づけ、今後の発展性や社会における有用性を理解させるよう努めている。短期的なゴールを設定し、モチベーション維持させることを心掛けている。
薬学入門	2010年4月～現在	化学的、物理的、生物化学的分析法について、代表例を挙げながら分析化学という学問に興味を持てるよう講義している。また、薬剤師国家試験での出題や薬剤師の業務との関連性についても解説し、自身の研究との接点にも言及している。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育FDシンポジウム2025に出席。
	2024年3月14日	神戸薬科大学FD研修会、「アクティブラーニングについて その3」に出席。
	2023年10月16日	神戸薬科大学FD研修会、「チューター制度について」に出席。「他3件」
	2022年7月19日	戸薬科大学FD研修会、「授業改善と成績評価について」に出席。「他1件」
	2021年7月19日	神戸薬科大学FD研修会、「遠隔授業の効果的な実施方法について」に出席。

II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Oyama H., Kiguchi Y., Morita I., Miyashita T., Ichimura A., Miyaoka H., Izumi A., Terasawa S., Osumi N., Tanaka H., Niwa T., Kobayashi N.	論文	Anal. Chem. Acta. 2021, 1161, 238180. "NanoLuc luciferase as a suitable fusion partner of recombinant antibody fragments for developing sensitive luminescent immunoassays"
Morita I., Kiguchi Y., Oyama H., Yamaki K., Sakio N., Kashiwabara K., Kuroda Y., Ito A., Yokota A., Ikeda N., Kikura-Hanajiri R., Ueda H., Numazawa S., Yoshida T., Kobayashi N.	論文	Anal. Methods. 2022, 14, 2745. "Derivatization-assisted immunoassays: application for group-specific detection of potent methamphetamine and amphetamine enantiomers"
Ohgita T., Kono H., Morita I., Oyama H., Shimanouchi T., Kobayashi N., Saito H.	論文	Sci. Rep. 2023, 10885. "Intramolecular interaction kinetically regulates fibril formation by human and mouse alpha-synuclein"
Su J., Zhu B., Inoue A., Oyama H., Morita I., Dong J., Yasuda T., Sugita-Konishi Y., Kitaguchi T., Kobayashi N., Miyake S., Ueda H.	論文	Biosens. Bioelectron. 2023, 219, 114793. "The Patrol Yeast: A new biosensor armed with antibody-receptor chimera detecting a range of cell wall-impermeable toxic substances associated with food poisoning"
Ohgita T., Sakai K., Fukui N., Namba N., Nakano M., Kiguchi Y., Morita I., Oyama H., Yamaki K., Nagao K., Kobayashi N., Saito H.	論文	FEBS Lett. 2024, 598, 902. "Generation of novel anti-apoE monoclonal antibodies that selectivity recognize apoE isoforms"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
CDR内チロシン置換の抗Δ9テトラヒドロカンナビノールscFv抗原結合能への影響	2021年3月	日本薬学会第141年会
コルチゾール-抗コルチゾールscFv複合体を認識するラクダ化単一ドメイン抗体の探索	2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
CAP法を活用するチロキシン-抗チロキシンscFv複合体を認識する変異scFvの探索	2023年3月	日本薬学会第143年会

アンチセンス核酸に対するマウス抗体の創製	2024年3月	日本薬学会第144年会
アンチセンス核酸に対するマウスモノクローナル抗体を用いる免疫測定法の開発	2025年3月	日本薬学会第145年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2004年4月～現在	日本薬学会会員	
2006年6月～現在	日本分析化学会会員	
2010年4月～現在	日本臨床化学会会員	
2013年4月～現在	生物化学的測定研究会会員	
2017年6月～現在	日本法中毒学会会員	
2024年4月～現在	日本核酸医薬学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	中央分析室	職名	准教授	氏名	都出 千里
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2018～  2023～  1996～	<p>情報リテラシー（分担）では担当範囲を分かりやすくするためパワーポイントを用いた講義を行っている。また、補講時間を設け、授業だけでは課題が終わらない学生に指導している。</p> <p>分析化学(III)（分担）新カリキュラムの講義であり、構造解析学Iの内容を含む。分光分析全般が担当であることから、それぞれの違いなども併せて説明し、理解しやすくする工夫をしている。また、補助プリントも作成し、講義を行っている。</p> <p>毎年数名のゼミ生の実験指導を行い、学年末にはプレゼンテーションのためのまとめ方、発表、論文作成などの指導を行った。</p>		
2	作成した教科書、教材、参考書	2010～  2023～  2022. 2	<p>現在の薬学総合講座では最低限必要なことをまとめたプリントを用意するとともに毎年、国家試験の問題を追加して解説するための資料を作成している。</p> <p>分析化学IIIでIR, MS, 旋光度、X線結晶構造解析、NMRの部分について理解を深め、重要なポイントをまとめた補助プリントを作成している。</p> <p>廣川書店 薬学機器分析第3版（共著）</p>		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021. 7 2022. 3 2022. 7 2023. 3  2023. 5 2023. 10	<p>「遠隔授業の効果的な実施方法について(webclassのりょうについて)参加</p> <p>「学修支援の現状と取り組み」参加</p> <p>「授業設計と成績評価について」参加</p> <p>「アクティブラーニングについて」参加</p> <p>「ロジカル思考演習」参加</p> <p>「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」参加</p> <p>「アクティブラーニングについて（その2）」参加</p>		

		「チューター制度について」参加 2024.3 「アクティブラーニングについて（その3）」参加 2024.10 「OSCEの適正な実施について」参加 2025.3 「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025」参加
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Maoka T. and Tode C.	論文	Marine Drugs, (2022), 20, 732-737. "A Novel Carotenoid with a Unique 2,6-Cyclo- $\psi$ -End Group, Roretziaxanthin, from the Sea Squirt <i>Halocynthia roretzi</i> "
Uchida Y. Maoka T. Palaga T. Honda M. Tode C. Shimizu M. Waditee-S. R. Kageyama H.	論文	J. Agric.Food Chem., (2023), 71, 16137-16147. "Identification of Desiccation Stress-Inducible Antioxidative and Antiglycative Ultraviolet-Absorbing Oxylipins, Saclipin A and Saclipin B, in an Edible Cyanobacterium <i>Aphanothece sacrum</i> "
Furukawa n. Chen X. Asano S. Matsumoto M. Wu Y. Murata K. Takeuchi A. Tode C. Homma T. Koharazawa R. Usami K. Tie J.-K. Hirota Y. Suhara Y.	論文	J. Molecular Structure, (2023), 1276, 134614. "Synthesis of new vitamin K derivatives with a ketone group at the C-1' position of the side chain and their conversion to menaquinone-4"
Homma T., Okamoto M., Koharazawa R., Hayakawa M., Fushimi T., Tode C., Hirota Y., Osakabe N., Baba M., Suhara Y.	論文	ACS Omega (2023), 8(45), 42248. "Exploring Novel Vitamin K Derivatives with Anti-SARS-CoV-2 Activity"
Ueda T., Yamaguchi M., C.-Tabak L., Takai Y. Tode C.	論文	Carbohydrate Research, (2024), 537, 109067. "Quantifying the bitter masking effect of drug-cyclodextrin complexation:NMR-ROESY mixing time approach
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
NMRによるシクロデキストリン包接挙動の解明及び苦みマスク効果との関連	2021.9	第37回シクロデキストリンシンポジウム

都出

qNMR法を用いた健康食品の有効成分の含有量調査ーその1ー	2023. 3	日本薬学会第143年会
定量NMRを用いた健康食品中の成分定量	2023. 11	第35回カロテノイド談話会
定量NMRを用いたビタミンCの定量	2024. 3	日本薬学会 第144年会
定量NMR法によるビタミンB群の分析	2025. 3	日本薬学会 第145年会
III 学会等および社会における主な活動		
1993年12月～	日本薬学会会員	
1995年～	日本カロテノイド学会会員	
2006年～	日本核磁気共鳴学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬品化学研究室	職名	准教授	氏名	武田 紀彦
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2021年	6年次の「がん薬物療法論(分担)」の「低分子の細胞障害性抗がん薬」を担当している。有機化学の観点から抗がん薬の構造式の重要性、官能基が果たす役割、その作用機序を含めて説明している。特にヘテロ環の分類、化学的性質、反応性だけでなく、DNAのアルキル化による抗がん薬からチロシンキナーゼ阻害薬である分子標的薬まで幅広く、理解してもらえるように意識している。他5件：3年次の「医薬品化学実習」、1年次の「薬学入門（分担）」、3年次の「医薬品化学（分担）」、3年次の「有機化学演習」、4年次の「合成化学II(分担)」			
	2022年	2年次の「医薬品構造学(分担)」を担当している。パーキンソン病を題材に有機化学、薬理学、臨床薬学の視点から分野横断型講義を展開しています。履修している薬学系科目が全て繋がっていることを意識しながら説明している。他5件：3年次の「医薬品化学実習」、3年次の「医薬品化学（分担）」、3年次の「有機化学演習」、4年次の「合成化学II(分担)」、6年次の「がん薬物療法論(分担)」			
	2023年	1年次「有機化学I」を担当している。電子の流れ、反応機構、酸塩基反応、立体化学、求核置換反応、脱離反応について説明している。各講義後、課題を課し、提出、必要であればフィードバックを適宜実施している。また前半と後半でそれぞれ演習問題を実施し、学習知識の定着を図っている。他5件：3年次の「医薬品化学実習」、3年次の「有機化学演習」、4年次の「合成化学II(分担)」、6年次の「がん薬物療法論(分担)」、1年次の「薬学入門（分担）」			
	2024年	3年次の「臨床・薬理・有機推論(分担)」を担当している。パーキンソン病を題材に有機化学、薬理学、臨床薬学の視点から分野横断型講義を展開している。さらにスモールグループディスカッションおよび学生に発表してもらい、医薬品からの議論と疾患からの議論を双方向から実施して、知識の定着を図る。他5件：3年次の「医薬品化学実習」、4年次の「合成化学II(分担)」、6年次の「がん薬物療法論(分担)」、1年次の「薬学入門（分担）」、1年次「有機化学I」			
2 作成した教科書、教材、参考書					

		該当ありません
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年5月	第22回 公開市民講座 ―神戸薬科大学の知の還元― 「くすりのちから＝分子のちから～未来を変える分子のつくり方を目指して～」 コロナ禍のため、Web配信ではあったが、講師を務めた。
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修は全て参加している	2022年7月19日	授業設計と成績評価について (安岡久先生)
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて (山野先生) 他1件
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み (坂根・山野・児玉先生)
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて (その2) (山野先生) 他1件
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて (河内先生)
	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望 (首藤先生) 他5件
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Matsuzaki H., Takeda N., Yasui M., Okazaki M., Suzuki S., Ueda M.	論文	Chem. Commun., 2021, 57, 12187-12190. "Synthesis of multi-substituted 1,2,4-triazoles utilizing the ambiphilic reactivity of hydrazones" <a href="https://doi.org/10.1039/D1CC05326D">https://doi.org/10.1039/D1CC05326D</a>
Takeda N., Kobori Y., Yasui M., Matsumoto Y., Orihara K., Kido Y., Ueda M.	論文	Tetrahedron Lett., 2021, 73, 153098. "Sequential nucleophilic addition/1,2-rearrangement of N-iminolactam: A ring-contractive strategy for the synthesis of 2-acyl pyrrolidines" <a href="https://doi.org/10.1016/j.tetlet.2021.153098">https://doi.org/10.1016/j.tetlet.2021.153098</a>

Takeda N., Suganuma R., Yasui M., Ueda M.	論文	Org. Biomol. Chem., 2023, 21, 1435-1439. "Synthesis of isolable $\beta$ -chloroamines from N-alkoxylactams with organometallic reagents" <a href="https://doi.org/10.1039/D20B02151J">https://doi.org/10.1039/D20B02151J</a>
Takeda N., Maeda R., Yasui M., Ueda M.	論文	Chem. Commun., 2024, 60, 172-175. "Synthesis of oxime ethers via a formal reductive O-H bond insertion of oximes to $\alpha$ -keto esters" <a href="https://doi.org/10.1039/D3CC05522A">https://doi.org/10.1039/D3CC05522A</a>
Takeda N., Miyashita T., Hirokawa N., Yasui M., Ueda M.	論文	Chem. Pharm. Bull., 2024, 72, 413-420. "P(III)-Mediated Formal Reductive N-H Bond Insertion Reaction of Hydrazones to $\alpha$ -Keto Esters" <a href="https://doi.org/10.1248/cpb.c24-00091">https://doi.org/10.1248/cpb.c24-00091</a>
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
チオラクタムの求電子活性化を利用した[3,3]-シグマトロピー転位反応の開発	2024年10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）
ヒドラゾンのC(sp <sup>2</sup> )-Hアミノ化反応を利用したインドール誘導体構築法の開発	2024年10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会（西宮）
N-アルコキシラクタムの求核付加-脱水反応の開発： $\beta$ -クロロエナミン合成	2024年10月	第50回反応と合成の進歩シンポジウム（神戸）
ジアゾ基を用いない還元的O-H/N-H挿入反応を利用したイミン誘導体合成法の開発	2024年12月	第51回有機典型元素化学討論会（神戸）
ヒドロキサム酸誘導体を用いたジアゾフリー還元的O-H挿入反応の開発	2025年3月	日本薬学会第145年会（福岡）
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名

求核付加から始まるラクタムの分子変換	2023年9月	2023年度膜工学秋季講演会・膜工学サロン開催プログラム (依頼講演：神戸大学)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在に至る	日本薬学会会員	
2010年～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2015年～現在に至る	近畿化学協会会員	
2019年～現在に至る	近畿化学協会ヘテロ原子部会幹事	
2024年～現在に至る	日本化学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	生命有機化学研究室	職名	准教授	氏名	山田 健
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2023年9月～現在  2024年4月～現在	2年の「有機化学III」を指導している。関連する分野の復習を含め該当範囲を解説した。毎回課題を出し、WebClassから提出させた。その際に、分からないことや授業に対する要望も書かせた。授業の終わりに課題の解説し、知識の定着を図った。必要に応じて補足解説資料をWebClassにuploadし、いつでも復習できるようにした。  3年次の「有機分析学実習（分担）」を指導している。有機機器分析の理論を理解させ、有機機器分析の基本事項を習得させた。主に紫外可視吸収スペクトルの実験を担当した。  他7件		
2	作成した教科書、教材、参考書	2023年9月～	機器分析学実習および有機分析学実習のテキストを毎回改訂している。		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項	2023年11月18日 2025年7月19日 FD研修会 2023年3月16日	薬学への誘い 小野高校・長田高校・姫路東高校(研究紹介・カフェイン実習) 薬学への誘い 姫路東高校・神戸高校・市西高校・神大附属中等(研究紹介・カフェイン実習) FD研修会参加 アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習		

FD研修会	2023年5月15日	FD研修会参加 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
FD研修会	2023年10月16日	FD研修会参加 アクティブラーニングについて(その2)、チューター制度について
FD研修会	2024年3月14日	FD研修会参加 アクティブラーニングについて(その3)、ルーブリック評価について
FD研修会	2024年10月28日	FD研修会参加 OSCEの適正な実施に向けて
FD研修会	2025年3月11日	FD研修会参加 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Takeshi Yamada, Yusuke Watanabe, Sentaro Okamoto	論文	6-Halo-2-pyridone as an efficient organocatalyst for ester aminolysis. RSC Adv. 2021, 11, 24588-24593.
Takeshi Yamada, Kazuki Arai, Rie Kikuchi, Sentaro Okamoto	論文	Deuteration of indole compounds: Synthesis of deuterated auxins, indole-3-acetic acid-d5 and indole -3-butyric acid-d5. ACS Omega 2021, 6, 19956-19963.
Kouta Ibe, Haruki Nakada, Mayu Ohgami, Takeshi Yamada, Sentaro Okamoto	論文	Design, synthesis, and properties of des-D-ring interphenylene derivatives of 1 $\alpha$ ,25-dihydroxyvitamin D3. Eur. J. Med. Chem. 2022, 243, 114795.
Takeshi Yamada, Sentaro Okamoto	論文	Organocatalytic multicomponent coupling to access a highly functionalised tetracyclic furoindoline: Interrupted Passerini/Joullié-Ugi cascade reaction. Chem. Commun. 2022, 58, 11701-11704.
Takeshi Yamada, Anri Kimura, Saya Takenouchi, Mizuki Sugahara, Mai Yoshioka, Yuhei Monta, Mike Matsuda, Manabu Hatano	論文	Concise synthesis of polyacyloxy cyclic ethers using p-toluenesulfonic acid-catalyzed cascade esterification/cyclization of polyols. ChemCatChem 2025, 17, e202401723.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名

Organocatalytic Interrupted Passerini Reaction of 3-(2-isocyanoethyl)-indole	2022年・11月	International Congress on Pure & Applied Chemistry Kota Kinabalu (ICPAC Kota Kinabalu) (招待講演)
酸・塩基複合型6-ヨード-2-ピリドン触媒による二重活性化機構を鍵とするエステルのアミノリシス	2023年・9月	第26回ヨウ素学会シンポジウム
6-ヨード-2-ピリドン触媒を用いるエステルのアミノリシスと液相ペプチド合成への展開	2024年・7月	日本プロセス化学会2024サマーシンポジウム
ポリアルコールの酸触媒によるエステル化反応を活用したカスケード型環状エーテル合成	2024年・10月	第53回複素環化学討論会
6-ヨード-2-ピリドン触媒によるエステルのアミノリシスを活用する液相ペプチド合成	2024年・11月	第125回有機合成シンポジウム
3. その他		
演題名	発表年・月	講演会名
2-ピリドン類を酸・塩基複合型触媒として用いる新規反応の開発	2024年・4月	大阪公立大学大学院理学研究科化学専攻、講演会、大阪公立大 (招待講演)
2-ピリドン類を酸・塩基複合型触媒として活用するペプチド合成と複素環合成	2025年・2月	徳島大学徳島大学研究クラスター「医薬・農薬・診断薬に展開可能な鍵物質創成」特別講演会、徳島大学 (招待講演)
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2002年4月～現在に至る	日本化学会会員	
2003年3月～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2011年12月～現在に至る	日本薬学会会員	
2023年4月～現在に至る	ヨウ素学会会員	
2023年4月～現在に至る	日本プロセス化学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター (薬効解析学研究室)	職名 准教授	氏名 土生康司
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014～現在 2014～現在	医薬品情報学 (4年生前期、2024年～3年後期) 実務実習事前教育：医薬品情報 (4年生前期：兼担) その他の兼担は現在4科目
2 作成した教科書、教材、参考書	2021.12	できる薬剤師とよばれるために 上手に使いたい薬学ナレッジ101 (じほう) 執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2013～現在 2021.7 2022.3 2023.3 2024.3 2025.3	CBT対策委員、実施委員 現在は合計10委員会の委員 FD活動参加：遠隔授業の効果的な実施方法について (webclassの利用について) FD活動参加：学修支援の現状と取り組み 当年計2件 FD活動参加：アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習 当年計3件 FD活動参加：アクティブラーニングについて (その3) 当年計2件 FD活動参加：数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
II 研究活動		

1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
土生 康司、上西 美穂、忍海邊 梨紗、谷村 学、辻井 佳代、小林 政彦	資料 (査読有)	PMDA の医療用医薬品情報検索サイトにおける識別コードの登録状況の変化 医薬品情報学, 2023, 25(2), 98-106, doi: 10.11256/jjdi.25.98
T. Kurimura, K. Yamamoto, H. Tanaka, T. Toba, T. Kimura, Y. Habu, K. Itoharu, Y. Kitahiro, T. Omura, I. Yano.	原著論文 (査読有)	Significance of pharmacist intervention to oral antithrombotic therapy in the pharmaceutical outpatient clinic of cardiovascular internal medicine: a retrospective cohort study. Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 2023, 9(1), 28, doi: 10.1186/s40780-023-00296-9.
K. Makihara, Y. Habu, Y. Ishihara, E. Goto, S. Yoshino, D. Mioki, T. Ejima, S. Mimatsu, Y. Rikitake, O. Miyata.	原著論文 (査読有)	Effect of Fentanyl Coadministration on the Prothrombin Time-International Normalized Ratio in Patients Receiving Warfarin: a multicenter retrospective observational study. 日本緩和医療薬学雑誌, 2024, 17(1), 1-7.
岡崎裕太郎, 大村友博, 上田昌史, 武田紀彦, 竹下治範, 飯田真之, 山下和彦, 木村丈司, 大本暢子, 山本和宏, 土生康司, 宮田興子, 矢野育子.	原著論文 (査読有)	テルミサルタン錠の変色原因は添加剤のメグルミンによるドパミン誘導体の分解物である 日本病院薬剤師会雑誌, 2024, 60(4), 395-401.
富田 猛, 山本 和宏, 木村 丈司, 宇田 篤史, 土生 康司, 大本 暢子, 山下 和彦, 大村 友博, 矢野 育子.	原著論文 (査読有)	院外処方における臨床検査値を用いた2段階チェック機能の有用性: 処方禁忌警告システムと処方せんへの検査値印字 医療薬学, 2024, 50(6), 277-286.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
内容液飛散のインシデント報告があった軟カプセル製剤の高温高湿下での製剤安定性	2022. 3	日本薬学会年会
薬剤師による問い合わせの一部簡素化に関する近隣クリニック・診療所医師の意識調査	2022. 6	日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
フェンタニルの併用によるワルファリンの作用増強についての検討~多施設共同後方視的観察研究~	2022. 9	日本医療薬学会年会

士生

薬剤師外来が抗血栓薬服用患者の長期臨床アウトカムに与える影響	2023. 10	日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2003～現在	日本医療薬学会会員	
2003～現在	日本病院薬剤師会会員	
2007～現在	日本医療薬学会認定薬剤師	
2010～現在	日本薬剤師会会員	
2013～現在	日本医薬品情報学会会員	
2014～現在	日本薬学会会員	
2016～現在	日本薬学教育学会会員	
2015. 4～2022. 3	日本薬学会近畿支部一日在宅体験ワーキンググループ委員	
2025. 4～2025. 11	第35回日本医療薬学会年会実行委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬剤学研究室	職名	准教授	氏名	河野 裕允
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1) 学部学生に対する教育		2021年～現在	薬物動態学I(3年生前期)：基礎的な知識について説明した後、教科書の図を中心に臨床現場で実際に遭遇する可能性のある事例について解説を行っている。また、国家試験の過去問題を要所要所に取り入れることで、知識の定着と応用ができるように心がけている。		
		2021年～現在	薬剤学実習(3年生後期)：作業を伴う実験のみでなく、Excelを用いた解析、Wordを用いたレポート作成、Powerpointを用いた発表資料作成を行うことで、実習内容についての理解を深めるのみでなく、論理的思考力およびプレゼン能力の向上も図っている。		
		2022年～現在	アクティブラボ(1～3年生通年)：実際に研究室で進めているテーマに関する実験とそのデータ解析、考察、発表を行うことで、実習とは異なる「研究」活動の一端を体験してもらい、卒業研究へのモチベーションの向上を図っている。		
		2024年～現在	薬物動態学II(3年生後期)：速度論式の組立、導出について説明した後、その式を用いた国家試験問題を解くことで、式の実践的な活用法を習得してもらうことを目指している。また、全講義日程の中盤あたりで前半部分の総復習を行い、理解度をチェックすることで、復習の参考にしてもらっている。		
(2) 大学院生への教育		2021年～現在	他2件 臨床薬剤学特論(大学院博士課程)：薬剤学に関する最新の研究、特に異分野融合に関する事例を紹介し、医薬品開発において薬学研究者として貢献できることを考える機会を提供するようにしている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					

4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月19日	遠隔授業の効果的な実施方法について(webclassの利用について)(土生先生) WebClass使用事例の紹介(土反先生)
	2022年3月11日	学修支援の現状と取り組み(児玉・竹仲・西村先生)
	2022年7月19日	授業設計と成績評価について(安岡久先生)
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて(山野先生) ロジカル思考演習(土反先生)
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み(坂根・山野・児玉先生)
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて(その2)(山野先生) チューター制度について(小山先生)
	2024年3月14日	アクティブラーニングについて(その3)(山野先生)
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施にむけて(河内先生)
	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育(首藤先生、上田先生 他4名)
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Y Kono, J Takegaki, T Ohba, K Matsuda, R Negoro, S Fujita, T Fujita.	論文	Int J Pharm. 596, 120298 (2021). "Magnetization of mesenchymal stem cells using magnetic liposomes enhances their retention and immunomodulatory efficacy in mouse inflamed skeletal muscle."
Y Kono, A Fushimi, Y Yoshizawa, K Higaki, K Ogawara.	論文	Int J Pharm. 623, 121904 (2022). "Effects of particle size and release property of paclitaxel-loaded nanoparticles on their peritoneal retention and therapeutic efficacy against mouse malignant ascites."
Y Kono, R Kamino, S Hirabayashi, T Kishimoto, H Kanbara, S Danjo, M Hosokawa, K Ogawara.	論文	Biomedicines. 11, 558 (2023). "Efficient liposome loading onto surface of mesenchymal stem cells via electrostatic interactions for tumor-targeted drug delivery."

Y Kono, T Sugaya, H Yasudome, H Ogiso, K Ogawara.	論文	Biochem Biophys Rep. 38, 101713 (2024). "Preparation of stable and monodisperse paclitaxel-loaded bovine serum albumin nanoparticles via intermolecular disulfide crosslinking."
Y Kono, K Onishi, H Kitamura, K Ogawara.	論文	J Drug Deliv Sci Technol. 108, 106866 (2025). "Development of liposome-loaded macrophages as tumor-targeted drug delivery carriers: Impact of macrophage phenotypes on their liposome-loading capacity and tumor-homing potential."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
生体模倣型薬物キャリアとしてのリポソーム搭載マクロファージの作製	2023年9月	第17回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム
がん治療に有効なイリノテカン搭載マクロファージの作製とその機能評価	2024年5月	日本薬剤学会 第39年会
ドキシソルビシン内封リポソーム搭載マクロファージの体内動態特性および抗腫瘍効果の評価	2024年5月	日本薬剤学会 第39年会
がん微小環境で効率的に薬物を放出するpH感受性自己崩壊型リポソームの開発	2025年3月	日本薬学会 第145年会
アシアチン酸による磁性リポソームの血中滞留性の向上に関する検討	2025年5月	日本薬剤学会 第40年会
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名
キャリアアップにおける異分野交流・連携の重要性	2022年10月	第16回次世代を担う若手のための医療薬科学シンポジウム 若手シンポジウム
磁場を利用した移植用細胞の組織内滞留性の向上	2023年7月	第39回日本DDS学会学術集会 一般シンポジウム
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2010年4月～現在	日本薬剤学会会員	

河野

2010年4月～現在	日本DDS学会会員
2012年4月～現在	日本薬学会会員
2013年4月～現在	日本癌学会会員
2019年7月～現在	次世代医工学研究会幹事
2021年7月～現在	日本薬剤学会 DDS製剤臨床応用FG 執行部
2022年7月～現在	日本薬学会 医療薬科学部会 若手世話人
2024年4月～現在	日本薬剤学会 代議員

## 専任教員の教育・研究業績

所属	疾病予防学研究室	職名	准教授	氏名	佐藤 敦
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2024年4月～  2024年4月～  2017年10月～2024年3月	<p>総合薬学講座 I において疫学・EBMに関する難解な問題の演習を中心とした国家試験対策を実施。</p> <p>臨床生化学実習において薬剤師臨床経験をもとに生化学の意義を説明。</p> <p>（前任の福岡大学にて）公衆衛生学の講義として、人口保健統計、疫学、および生物統計について、身近な問題を例にとり平易な言葉で説明。また実習として、小中学校での防煙・薬物乱用防止教室、高齢者施設訪問、EBMの実践演習などを実施。</p>		
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名		種別	内容		
Sato A, Arima H, Tanaka-Mizuno S, Fujiyoshi A, Kadota A, Miura K, Ueshima H, Okamura T, Murakami Y; EPOCH JAPAN Research Group.		論文	Serum Total Cholesterol and Fatal Subarachnoid Hemorrhage in 120,000 Japanese: A Pooled Analysis of Data from 12 Cohorts. J Atheroscler Thromb. 2025 May 24. doi: 10.5551/jat.65650. Online ahead of print.		
Takahashi K, Inoue Y, Tada K, Hiyamuta H, Ito K, Yasuno T, Sakaguchi T, Katsuki S, Shinohara Y, Nohara C, Okutsu S, Abe M, Sato A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Mukoubara S, Arima H, Masutani K.		論文	Skipping Breakfast and Progression of Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD). Kidney Blood Press Res. 2024;49(1):472-479.		

Kohagura K, <u>Satoh A</u> , Kochi M, Nakamura T, Zamami R, Tana T, Kinjyo K, Funakoshi R, Yamazato M, Ishida A, Sakima A, Iseki K, Arima H, Ohya Y.	論文	Urate-lowering drugs for chronic kidney disease with asymptomatic hyperuricemia and hypertension: a randomized trial. J Hypertens. 2023;41(9):1420-1428.
Abe M, Arima H, <u>Satoh A</u> , Okuda N, Taniguchi H, Nishi N, Higashiyama A, Suzuki H, Kadota A, Ohkubo T, Ueshima H, Miura K, Okayama A; NIPPON DATA2010 Research Group.	論文	Marital status, household size, and lifestyle changes during the first COVID-19 pandemic: NIPPON DATA2010. PLoS One. 2023;18(3):e0283430.
Ishida S, Kondo S, Funakoshi S, Abe M, <u>Satoh A</u> , Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Nishida Y, Tada K, Takahashi K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Miura S, Kodama S, Saku K, Mukoubara S, Masutani K, Arima H.	論文	Serum triglyceride levels and incidence of hypertension in a general Japanese population: ISSA-CKD study. Hypertens Res. 2023;46(5):1122-1131.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
一般住民における高感度 Troponin T と冠動脈石灰化との関連：福岡動脈硬化疫学研究	2024年1月	第34回日本疫学会学術総会
血清総コレステロール値とくも膜下出血死亡との関連：EPOCH-JAPAN	2022年6月	第58回日本循環器病予防学会学術集会
野菜・果物無償提供による尿中ナトリウム／カリウム比の変化 ～無作為化クロスオーバー比較試験～	2022年4月	第69回福岡県公衆衛生学会
III 学会等および社会における主な活動		
2017年10月～	日本高血圧学会 会員	
2017年10月～	日本循環器病予防学会 会員	
2017年10月～	日本公衆衛生学会 会員	
2017年10月～	日本疫学会 会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 准教授	氏名 森田 いずみ
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2021年度	『分析化学Ⅲ』を担当している。教科書の内容をもとに、各分析方法の特徴を理解できるような講義内容を心掛けている。單元ごとに確認テストや問題の解説を行い、理解度を各自で確認できるようにしている。『分析化学実習』を担当している。全体講義で器具の扱い方を見せながら説明を行うことはもちろんのこと、特に注意すべき点に関しては班ごとの少人数にわけて、操作を実際に見せてから実施させるなどの工夫を心がけている。他2件
	2022年度	『分析化学Ⅲ』を担当している。教科書の内容をもとに、各分析方法の特徴を理解できるような講義内容を心掛けている。單元ごとに確認テストや問題の解説を行い、理解度を各自で確認できるようにしている。『分析化学実習』を担当している。全体講義で器具の扱い方を見せながら説明を行うことはもちろんのこと、特に注意すべき点に関しては班ごとの少人数にわけて、操作を実際に見せてから実施させるなどの工夫を心がけている。他2件
	2023年度	『分析化学Ⅲ』を担当している。教科書の内容をもとに、各分析方法の特徴を理解できるような講義内容を心掛けている。單元ごとに確認テストや問題の解説を行い、理解度を各自で確認できるようにしている。『基礎薬学講座』を担当している。これまでに学修してきた生物の範囲について、総復習を行い、学修が不足している部分について各自が認識し、再度復習を行う動機付けとなるように心がけている。他4件
	2024年度	『基礎薬学演習』を担当している。これまでに学修してきた生物の範囲について、総復習を行い、学修が不足している部分について各自が認識し、再度復習を行う動機付けとなるように心がけている。『基礎実習』を担当している。これまでの実験の経験の差が大きい1年生に対して、高学年での研究活動につながるよう、基本的な器具の使用方法是はじめ、実験に対する心構えや注意事項などを伝え、実践できるような指導を心掛けている。他3件

	2025年度	本年度から開講となる『薬学的症例解析演習』を担当している。代表的な8疾患について、SGDを中心とした問題解決型学習を行う。これについて、演習実施のための準備なども担当している。『基礎実習』を担当している。これまでの実験の経験の差が大きい1年生に対して、高学年での研究活動につながるよう、基本的な器具の使用方法是はじめ、実験に対する心構えや注意事項などを伝え、実践できるような指導を心掛けている。 他4件
2 作成した教科書、教材、参考書	2023	『New薬品分析化学』第3版（廣川書店）の改訂執筆を分担担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項		
FD研修会	2024. 9. 26	神戸学院大学全学教育推進機構主催FDセミナー 「生徒化する大学生」
	2025. 3. 11	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
		他 10件
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
I. Morita, Y. Kiguchi, H. Oyama, A. Takeuchi, C. Tode, R. Tanaka, J. Ogata, R. Kikura-Hanajiri and N. Kobayashi	論文	Anal. Methods, 2021, 13, 3954-3962. "Derivatization-assisted enzyme-linked immunosorbent assay for identifying hallucinogenic mushrooms with enhanced sensitivity"
I. Morita, Y. Kiguchi, H. Oyama, K. Yamaki, N. Sakio, K. Kashiwabara, Y. Kuroda, A. Ito, A. Yokota, N. Ikeda, R. Kikura-Hanajiri, H. Ueda, S. Numazawa, T. Yoshida, N. Kobayashi	論文	Anal. Methods, 2022, 14, 2745-2753. "Derivatization-assisted immunoassays: application for group-specific detection of potent methamphetamine and amphetamine enantiomers"
I. Morita, Y. Kiguchi, S. Nakamura, A. Yoshida, H. Kubo, M. Ishida, H. Oyama, N. Kobayashi	論文	Biol. Pharm. Bull., 2022, 45, 851-855. "More than 370-fold increase in antibody affinity to estradiol-17β by exploring substitutions in the VH-CDR3"

Y. Kiguchi, I. Morita, K. Yamaki, S. Takegami, N. Kobayashi	論文	Biol. Pharm. Bull., 2023, 46, 1661-1665. "Framework-directed amino-acid insertions generated over 55-fold affinity-matured antibody fragments that enabled sensitive luminescent immunoassays of cortisol"
Ohgita T., Sakai K., Fukui N., Namba N., Nakano M., Kiguchi Y., Morita I., Oyama H., Yamaki K., Nagao K., Kobayashi N., Saito H.	論文	FEBS Lett., 2024, 598, 902-914. "Generation of novel anti-apoE monoclonal antibodies that selectively recognize apoE isoforms"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
免疫測定法の高感度化に資する高親和力変異抗体探索システム —Clonal Array Profiling (CAP) 法の構築と応用—	2021. 10	第71回日本薬学会関西支部総会・大会
幻覚性キノコのオンサイト同定を目指す抗シロシビンscFvの試験管内親和性成熟	2022. 3	日本薬学会第142年会
幻覚性キノコ成分シロシンの高感度検出を可能にする誘導体化ELISA	2022. 3	日本薬学会第142年会
誘導体化イムノアッセイによるメタンフェタミンおよびアンフェタミンの群特異的検出	2022. 10	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
テキストマイニングを用いた初年次基礎実習後における学生の意識調査：基礎実習（分析系）に取り組む態度の観点から	2024. 8	第9回日本薬学教育学会大会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1995年4月～現在	日本薬学会会員	
2003年9月～現在	日本分析化学会会員	
2024年5月～現在	日本薬学教育学会会員	
2013年4月～2024年	生物化学測定研究会会員	
2017年6月～2022年	日本法中毒学会会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	疾病予防学研究室	職名	講師	氏名	多河 典子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
臨床生化学、内分泌学、他8件		2021年	臨床生化学の内容にCBT・国家試験を交えて分かりやすく講義した。定期試験で解答できるようにと復習、練習問題の解説を行った。		
臨床生化学、内分泌学、他7件		2022年	臨床生化学の内容にCBT・国家試験を交えて分かりやすく講義した。定期試験で解答できるようにと復習、練習問題の解説を行った。		
臨床生化学、内分泌学、他7件		2023年	臨床生化学の内容にCBT・国家試験を交えて分かりやすく講義した。定期試験で解答できるようにと復習、練習問題の解説を行った。		
臨床生化学、臨床生化学実習、他4件		2024年	臨床生化学の内容にCBT・国家試験を交えて分かりやすく講義した。定期試験で解答できるようにと復習、練習問題の解説を行った。		
臨床生化学、薬物治療学VI、臨床生化学実習、他4件		2024年	臨床生化学及び病態・薬物治療学の内容にCBT・国家試験を交えて分かりやすく講義した。定期試験で解答できるようにと復習、練習問題の解説を行った。		
2 作成した教科書、教材、参考書		2023年12月15日	講義のための資料（練習問題を含む）を作成し、Webに掲載した。 南江堂「薬学生のための病態検査学」第2章B-1, 2 (P-27-39) 執筆した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD への参加状況		2021/7/19	遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）		
		2021/7/19	WebClass使用事例の紹介		
		2022/3/11	学修支援の現状と取り組み		
		2022/7/19	授業設計と成績評価について		
		2023/3/16	アクティブラーニングについて		
		2023/3/16	ロジカル思考演習		
		2023/5/15	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み		
		2023/10/16	アクティブラーニングについて（その2）		

	2023/10/16 2024/3/14	チューター制度について アクティブラーニングについて (その3)
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Kimura M, Kosuge K, Ko Y, Kurosaki N, Tagawa N, Kato I, Uchida Y.	論文	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2020 Aug 1;68(8):810-813. "Potent Antibacterial Activity of Synthetic Peptides Designed from Salusin- $\beta$ and HIV-1 Tat(49-57). "
Tagawa N, Fujinami A, Natsume S, Mizuno S, Kato I.	論文	PLoS One. 2022 Jan 27;17(1):e0262542. "Relationship between adiponectin multimer levels and subtypes of cerebral infarction."
Tagawa N, Ogura H, Miyawaki H, Asakawa A, Kato I.	論文	Mol Med Rep. 2023 Jan;27(1):7. "Intraperitoneal administration of nesfatin-1 stimulates glucagon-like peptide-1 secretion in fasted mice."
Hosogi S, Kuwahara A, Kuwahara Y, Tanaka S, Shimamoto C, Tagawa N, Kato I, Yoshimoto K, Aoi W, Takata K, Miyazaki H, Niisato N, Tsubo Y, Yagi K, Nakahari T, Marunaka Y.	論文	Biomed Res. 2023;44(1):17-29. "Mumefural prevents insulin resistance and amyloid-beta accumulation in the brain by improving lowered interstitial fluid pH in type 2 diabetes mellitus. "
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
腸管ペプチドxeninのELISA法の確立とマウス小腸組織での定量 ○多河 典子1)、浅野 真司2)、中張 隆司3)、桑原 厚和3)、丸中 良典3)、加藤 郁夫1) 1) 神戸薬科大学病態生化学研究室2) 立命館大学薬学部分子生理学教室3) 立命館大学総合科学技術研究機構	2020/10/30~11/1	第60回日本臨床化学会年次学術集会
絶食マウスにおけるnesfatin-1のGLP-1分泌促進作用 ○多河 典子1)、小椋 帆乃佳1)、宮脇 光1)、浅川 明弘2)、加藤 郁夫1) □ 1) 神戸薬科大学 病態生化学研究室 2) 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科心身内科学分野	2023/10/28	第63回日本臨床化学会年次学術集会

多河

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
1986年7月～	日本薬学会会員
2006年4月～	日本内分泌学会代議員
2014年6月～	日本臨床化学会評議員

## 専任教員の教育・研究業績

所属 地域連携サテライトセンター	職名 講師	氏名 上田 久美子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） （1）学部学生への講義・実習	2020年4月-現在に至る  2023年4月～2024年9月	学部学生に、がん薬物療法論（6年次前期、選択、兼担）について講義している。がん治療に役立つ抗がん薬のPK/PDについて動画にて解説している。できるだけ図示したパワーポイントを用意し、学生の理解を図るように努力している。  学部学生に、地域医療・プライマリケア論（4年次前期、必修、兼担）について講義した。学校薬剤師の業務を、実際の写真を示しながら解説するとともに、在宅医療の基本についてわかりやすく講義した。
（2）研究室配属学生への研究指導	1998年6月-2021年6月	薬剤学研究室在籍時に、研究室配属学生のうち数名の卒業研究指導を行った。がんや薬物動態学に関する研究を通して、実験の目的や実験結果の考え方を理解させるように努力した。また、わかりやすいプレゼンテーションや卒業論文の作成を目指すよう指導することを心がけた。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 （1）神戸薬科大学学長裁量経費取得状況 2021年度 神戸薬科大学学長裁量経費に基づく 教育改革プログラムに採択 （2）学内委員会活動 地域連携サテライトセンター運営委員 （3）その他	2021年4月    2022年4月-現在に至る	“低学力学生に対する「理解」を中心に据えた新たな演習プログラムの構築”    地域連携サテライトセンター専任教員として委員会に参加している。

FD研修会参加状況	2021年7月19日	土生講師 “遠隔授業の効果的な実施方法について（weclassの利用について）” 土反教授 “WebClass使用事例の紹介”
	2022年3月11日	児玉准教授、竹仲准教授、西村講師 “学修支援の現状と取り組み”
	2022年7月19日	安岡久教授 “授業設計と成績評価について”
	2023年3月16日	山野教授 “アクティブラーニングについて” 土反教授 “ロジカル思考演習”
	2023年5月15日	坂根教授、山野教授、児玉准教授 “新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み”
	2023年10月16日	山野教授 “アクティブラーニングについて（その2）” 小山教授 “チューター制度について”
	2024年3月14日	山野教授 “アクティブラーニングについて（その3）”
	2024年10月28日	河内准教授 “OSCEの適正な実施に向けて”
	2025年3月11日	首藤教授、上田教授、他 “数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～”
2025年7月22日	森田准教授 “統括部門における教学IRの取り組みについて”	
<b>II 研究活動</b>		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Tanaka S, Hosokawa M, Miyamoto T, Nakagawa A, Haruna M, Ueda K, Iwakawa S, Ogawara KI.	論文	Biochem. Biophys. Rep. 2021;26:100996. “miR-33a-5p in small extracellular vesicles as non-invasive biomarker for oxaliplatin sensitivity in human colorectal cancer cells”
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
<b>III 学会等および社会における主な活動</b>		
1992年 3月～現在に至る	日本薬学会 会員	

上田 久美子

1996年 9月～現在に至る	日本薬物動態学会 会員
1998年 6月～現在に至る	日本病院薬剤師会 会員
1997年 7月～現在に至る	日本医療薬学会 会員
1997年 7月～現在に至る	日本薬剤学会 会員
2004年 1月～現在に至る	日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師
2006年 6月～現在に至る	日本薬剤師会 会員
2016年 6月～現在に至る	日本薬学教育学会 会員
2019年12月～現在に至る	神戸市応急手当普及員（救急インストラクター）

## 専任教員の教育・研究業績

所属 生化学研究室	職名 講師	氏名 三上 雅久
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1) 学部学生への教育	2000年度～2023年度	「生化学実習」（3年次前期：～2013年度まで「生物学系II実習」、2014年度～2016年度「生物学系I実習」、現行名称：2017年度～）の実施を担当した。実習項目については、最新の医療や遺伝子操作技術の進展と同調したものにすることを、随時改訂した。実習時間の最後に、少人数のグループごとに質疑応答を行い、実習内容と講義や国家試験との関連性を意識させる指導を心がけた。
	2000年度～2024年度	「卒業研究(学部学生)」に対する指導を行っている。与えられたテーマに対して、自ら積極的に取り組む姿勢を身につけさせることに重点を置いている。定期的に行われる研究室のセミナーでの文献紹介や研究報告などを通じて、携わっている研究分野に対する深い理解と、プレゼンテーション能力や問題解決力の向上を目標に指導している。
	2007年度～2022年度	「生化学II」(2年次前期：～2014年度、1年次後期：2015年度～)の講義を担当した。講義では、タンパク質・酵素について、できるだけ日常の話題や疾患との関連性を織り交ぜながら解説した。
	2007年度～2022年度	「生化学III」(2年次後期)の講義を分担した。講義では、エネルギー代謝と恒常性の維持について、補助プリント等を用意して、体系的に理解してもらえよう努めた。
	2022年度～2024年度	「生命科学I」(1年次後期)の講義を担当した。本講義は、生化学・分子生物学関連の講義としては最初の講義となるため、生物系科目に対してできるだけ興味をもってもらえるよう、また苦手意識を持つ学生を減らせるように、日常の話題や疾患との関連性を織り交ぜながら担当範囲(タンパク質・酵素・脂質)を解説している。
	2023年度～2024年度	「生命科学実習」(2年次後期)の実施を担当した。限られた時間の中で、当該分野の必須項目を満たし、自ら考えながら実習を行えるような実習プログラムを組み立てている。実習時間の最後に、少人数のグループごとに質疑応答を行い、実習内容と講義や国家試験との関連性を意識させる指導を心がけている。

<p>(2) 大学院生への研究指導</p>	<p>2000年度～2024年度</p>	<p>生化学講座所属の大学院生に対する研究指導ならびに大学院特論（生化学特論、2012年度以降、生命科学特論に改称）の講義を担当している。大学院特論では、糖鎖の生理機能の重要性と正常な機能に異常を来たした代謝異常症について発生的視点から講義をしている。大学院生に対しては、研究テーマを理解し、主体的に実験計画と組み立てながら課題解決に取り組めるようになることを目標に指導をしている。 また、修了までの間に少なくとも1回の学会発表ができるよう、日々の研究指導にあたっている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 教科書</p>	<p>2023年9月7日刊行</p>	<p>第2章 タンパク質の基本、第3章 タンパク質の機能、第4章 タンパク質代謝、第5章 タンパク質解析技術、第16章 組織・器官の構築 「ニューディレクション薬学生化学 第2版」 (京都廣川書店)</p>
	<p>2024年3月31日刊行</p>	<p>第1章 3節 糖質 新スタンダード薬学シリーズ 第3巻 基礎薬学 VII. 生命科学4 (東京化学同人)</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし。</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 FDへの参加状況</p>	<p>2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日 2024年3月14日 2024年8月22日 2024年10月28日 2025年3月11日 2025年3月17日 2025年3月18日</p>	<p>「遠隔授業の効果的な実施方法について (webcassの利用について)」 「WebClass使用事例の紹介」 「学修支援の現状と取り組み」 「授業設計と成績評価について」 「アクティブラーニングについて」 「ロジカル思考演習」 「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」 「アクティブラーニングについて (その2)」 「チューター制度について」 「アクティブラーニングについて (その3)」 「障害のある学生への合理的配慮と修学支援研修」 「OSCEの適正な実施に向けて」 「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025」 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～ 「職場における化学物質管理とリスクアセスメント」 「障害のある学生への合理的配慮と修学支援」</p>
<p>II 研究活動</p>		

1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Mikami T., Kitagawa H.	著書	In Comprehensive Glycoscience, 2nd edition (ed. Joe Barchi) 2021, 3, pp. 29-62, Elsevier. "Biosynthesis and Degradation of Glycans of the Extracellular Matrix: Sulfated Glycosaminoglycans, Hyaluronan, and Matriglycan"
Koike, T., Mikami, T., Tamura, J., Kitagawa, H.	論文	Nat. Commun. 2022, 13, 7952. "Altered sulfation status of FAM20C-dependent chondroitin sulfate is associated with osteosclerotic bone dysplasia"
Tamura, S., Ishiguro, H., Suwabe, T., Katagiri, T., Cho, K., Fuse, K., Shibasaki, Y., Mikami, T., Shindo, T., Kitagawa, H., Igarashi, M., Sone, H., Masuko, M., and Ushiki, T.	論文	Sci. Rep. 2023, 13, 13098.. "Genetic manipulation resulting in decreased donor chondroitin sulfate synthesis mitigates hepatic GVHD via suppression of T cell activity"
Mikami T., Kitagawa H.	総説	J. Biochem. 2023, 173, 329-332. "Chondroitin sulfate glycosaminoglycans function as extra/pericellular ligands for cell surface receptors"
Ishiguro, H., Ushiki, T., Honda, A., Yoshimatsu, Y., Ohashi, R., Okuda, S., Kawasaki, A., Cho, K., Tamura, S., Suwabe, T., Katagiri, T., Ling, Y., Iijima, A., Mikami, T., Kitagawa, H., Uemura, A., Sango, K., Masuko, M., Igarashi, M., and Sone, H.	論文	iScience 2024, 27, 109528. "Reduced chondroitin sulfate content prevents diabetic neuropathy through TGF- $\beta$ signaling suppression"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
コンドロイチン硫酸の骨格筋維持機構における役割と加齢性構造変化	2021年・12月	第44回日本分子生物学会年会（横浜）
骨格筋におけるコンドロイチン硫酸の加齢性構造変化と再生・維持機構に与える影響	2022年・9-10月	第41回日本糖質学会年会（大阪）
コンドロイチン硫酸の硫酸化構造変化による骨硬化症の発症	2023年・9月	第42回日本糖質学会年会（鳥取）

コンドロイチン硫酸の加齢性構造変化と骨格筋可塑性における役割	2023年・9月	第42回日本糖質学会年会（鳥取）
「骨リモデリング過程における骨芽細胞由来コンドロイチン硫酸-E」	2024年・9月	第43回日本糖質学会年会（横浜）
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1997年2月～現在に至る	日本薬学会会員	
1996年4月～現在に至る	日本生化学会会員	
1998年4月～現在に至る	日本分子生物学会会員	
2000年4月～現在に至る	日本糖質学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 薬効解析学研究室	職名 講師	氏名 猪野 彩
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	<p>2010年～</p> <p>2010年～</p> <p>2011年～</p> <p>2014年～</p> <p>2014年～2024年3月</p> <p>2017年～2023年3月</p>	<p>4年次の実務実習事前教育を分担している。 5年次に実施される実務実習を想定して実習を行い、臨床現場で求められる知識・技能・態度の習得ができるように指導を行っている。 2010年～『代表的な医薬品の配合変化』、『調剤監査』、『持参薬チェック』を主に担当し、2024年～『医療コミュニケーション演習』、『疑義照会』、『医療従事者への情報提供』を担当している。</p> <p>1年次生の初期体験臨床実習を分担している。 医療現場でのチーム医療の実際を見学することに加え、学生たち自身が参加する実習の中でチームを意識して取り組むように指導している。</p> <p>4年次の薬事関係法規・薬事制度を分担している。 裁判事例などを挙げて、法律の条文が具体的に理解できるように工夫をしている。法律制定や改正の経緯などについて時代背景やニーズと結び付けた説明を行うことで、法律の意味を理解したうえで各条文について解釈できるように努めた。 『薬剤師法』、『毒物及び劇物取締法』、『医療法』、『健康保険法』、『介護保険法』を担当している。</p> <p>6年生を対象に「総合薬学講座」を担当している。 薬事関係法規の範囲として、主に『毒物及び劇物取締法』を担当し、実務の範囲として『処方箋、調剤録』を担当している。</p> <p>3年次の調剤学 I の講義を分担している。 薬剤師業務について、法的根拠とともに薬剤師業務の流れについて説明を行い、薬剤師業務の意義について理解を得るように努めた。 基礎的な知識として、医療用語、代表的な医薬品の用法用量についても講義を行った。</p> <p>2年次の医療コミュニケーション演習を分担した。 症例について、SGDを行いながら、医療コミュニケーションツールを実践することの効果を確認できるように指導する。</p>

	2018年～2024年	4年次の処方解析Ⅱを分担した。 『泌尿器系疾患』として前立腺肥大症、前立腺癌について、『眼疾患』として、白内障、緑内障、加齢黄斑変性症について講義・演習を行った。 各疾患の疫学、病態、治療、治療薬、患者への指導などについて幅広い知識の習得に繋がるように努めた。
	2024年～	3年次の医療コミュニケーション演習を分担した。 症例について、SGDを行いながら、医療コミュニケーションツールを実践することの効果を確認できるように指導する。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDへの参加状況を含む)	2020. 10. 5 2021. 7. 19 2022. 3. 11 2022. 7. 19 2023. 3. 16 2023. 5. 15 2023. 10. 16 2024. 3. 14 2024. 10. 28 2025. 3. 11	FD研修会「AIを用いた入学試験並びに修学状況のIR分析結果の報告」「前期遠隔授業に対する学生アンケートの集計結果」 FD研修会「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」「WebClass使用事例の紹介」 FD研修会「学修支援の現状と取り組み」 FD研修会「授業設計と成績評価について」 FD研修会「アクティブラーニングについて」「ロジカル思考演習」 FD研修会「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」 FD研修会「アクティブラーニングについて(その2)」「チューター制度について」 FD研修会「アクティブラーニングについて(その3)」 FD研修会「OSCEの適正な実施に向けて」 FD研修会「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		

氏名	種別	内容
竹下治範, 阿達早紀, 清水美希, 猪野 彩, 波多江 崇, 但馬操, 濱口常男, 沼田千賀子	論文	PF点眼薬の新規導入患者 への服薬支援へ向けた製剤学的評価および使用性の比較検討, 医薬品情報学会誌, 26(1) : 36-44, 2024.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
免疫チェックポイント阻害剤投与患者における副作用チェックアプリの使用性に関する調査	2023年11月	日本医療薬学会第33回年会 (ポスター発表)
1歳以上の川崎病患者に対する免疫グロブリン製剤の5%製剤、10%製剤の有効性の比較	2024年11月	日本医療薬学会第33回年会 (ポスター発表)
III 学会等および社会における主な活動		
2002年～現在に至る	日本病院薬剤師会 会員	
2016年～現在に至る	日本薬学会 会員	
2021年～現在に至る	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員	
2023年～現在に至る	日本医療薬学会 会員	
2024年～現在に至る	日本薬学会関西支部会在宅医療部会 (HOPE) ワーキンググループメンバー	
2024年～現在に至る	薬学共用試験センター広報委員	
2025年～現在に至る	日本薬学教育学会 会員	

専任教員の教育・研究業績

所属 薬用植物園	職名 講師	氏名 西山 由美
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
生薬化学実習 （2017年から細胞生物学実習）	2010年～2022年	2年次生の生薬化学実習（2017年からは細胞生物学実習）を担当している。実習開始時の講義ではパワーポイントを使って、実験の目的や実験内容について説明し、実験終了時には、結果について考察するなどのディスカッションを行い理解を深めるようにしている。また、実験中は各実習機を見回り、手技が正しく安全に行われているかチェックし、正しい器具の取り扱いなどを習得してもらうようにしている。
天然物化学・生薬学実習	2023年～現在に至る	2年次生の天然物化学・生薬学実習（新カリキュラムでの実習の再編に伴い2023年から実施）を担当している。実習の内容をより理解して実施できるように、丁寧な講義と時間をかけてディスカッションを行うようにした。また、実験中は各実習機を見回り、手技が正しく安全に行われているかチェックし、正しい器具の取り扱いなどを習得してもらうようにしている。
生薬学	2011年～現在に至る	2年次生（2012年からは1年生）の生薬学を担当している。生薬に関する基本的なことから始め、薬としての生薬について理解を深めてもらえるようにしている。国家試験やC B T試験に必要な知識を習得しながら、生薬に興味を持てるように標本を用意して講義を行っている。また、これまで希望者のみに行っていた屠蘇散作りを、全学生が行えるよう講義の中に取り入れ、生薬を身近な薬として考えてもらうようにした。
薬用資源学	2017年～現在に至る	3年生（後期）の薬用資源学を担当している。選択科目であり、生薬や天然物に関心のある学生のアドバンス教育として、深く掘り下げた内容で講義を行っている。2020年からは動画での講義であるが、オンデマンドの良さを活かしながら、学生がより興味を持ち学習しようと思えるように考えて動画を作成することを心がけている。また、学生が何を学びどう感じたかなどのコメントを書いてもらい、それをフィードバックしながら、次の講義に活かせるようにしている。

<p>漢方医学 薬物治療学Ⅶ</p> <p>薬学英語入門Ⅱ</p> <p>ロジカル思考演習Ⅰ・Ⅲ</p> <p>ロジカル思考演習Ⅱ・Ⅳ</p>	<p>2014年～2024年 2025年～</p> <p>2017年～2023年</p> <p>2022年～現在に至る</p> <p>2024年～現在に至る</p>	<p>4年次生（前期）の漢方医学（全12コマ）のうち、2014, 2015年度は4コマ、2016年度からは7コマ、2020年度からは9コマを担当した。また、新カリキュラムになってからは、薬物治療学Ⅶとなり、全14コマのうち、11コマを担当している。これまで学んできた西洋医学とは概念が異なるので、その部分を意識して説明している。近年は、漢方薬も多く処方されるようになったことや、利用を希望する人も増えてきているので、漢方に関する基本的な知識や汎用される漢方薬を中心に講義し、またCBT試験や国家試験の問題に対応できるように工夫している。薬物治療学Ⅶでは、コマ数も増えたので、丁寧な説明を心がけ、練習問題や症例問題を行うことで、より漢方薬に興味や関心を持ってもらえるように心がけている。</p> <p>3年次生（後期）の薬学英語入門Ⅱを担当している。英語で書かれた専門的な文章をただ訳すだけでなく、図や資料使いながら内容を深く理解することを目標としている。</p> <p>1, 2年次（後期）のロジカル思考演習Ⅰ・Ⅲを担当している。深く考えることを重視し、身近な「植物」をテーマに、プレゼンやレポートの基本的な作成の仕方を学べるように心がけた。グループ学習では、コミュニケーションの取り方やその重要性を認識できるように、楽しさも取り入れるなどの工夫を行った。2学年一緒の演習なので、先輩・後輩という縦のつながりのコミュニケーションができるように課題、グループ分けを行った。</p> <p>2, 3年次生（前期）のロジカル思考演習Ⅱ・Ⅳを担当している。Ⅰ・Ⅲの演習と基本的に目的や課題は同じであるが、学生がこれまでロジカル演習で学んだ内容を活用できるようなフィードバックを心がけた。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>生薬学のプリント冊子</p> <p>漢方医学のプリント冊子 薬物治療学Ⅶのプリント冊子</p>	<p>2013年～現在に至る</p> <p>2015年～2024年 2025年～</p>	<p>生薬学の講義で用いる冊子を毎年作成している。書き込み式なので、生薬について自分でまとめながら、勉強出来るようにしている。余白を使って、教科書に載っていないことなどを書き込み、生薬について自分だけのまとめのノートになるように使ってもらいたいと考えている。</p> <p>漢方医学の講義で用いる冊子を毎年作成している。テキストには多くの情報があり、漢方医学のことを学ぶにはじっくり読むのが一番だが、馴染みのない単語や内容が多いことから、簡単に内容をまとめた冊子を作成した。ただし、冊子だけでは不十分なので、冊子とテキストの両方で勉強して欲しいと考えている。冊子には、国家試験やCBTの問題集も入れて、少なくともどんな内容を勉強し理解しないとイケないかを考えてもらうことにした。薬物治療学Ⅶにおいても、内容を見直して同様の冊子を作成した。</p>

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		<p>第7回日本薬学教育学会大会において、植物園を利用した教育の一環として学生ガイドに関する発表を行った。日本生薬学会第69回年会においては、学生ガイド育成活動の効果について発表した。第9回日本薬学教育学会大会において、講義に体験を取り入れた学習効果 一生薬学で屠蘇散を作る体験について発表を行った。</p>
<p>・学生ガイドの育成</p> <p>・講義での体験学習（屠蘇散作り）</p> <p>・FDへの参加</p>	<p>2020年～現在に至る</p> <p>2022年～現在に至る</p> <p>2020年10月5日 2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日 2024年3月14日 2024年10月28日 2024年3月11日</p>	<p>薬用植物園を利用した能動的な学習として、学生ガイドの育成を行なっている。植物や生薬、ガイドに関心のある学生で希望者に対して行うものだが、学生は一般の人たちに向けてガイドするために、説明の内容だけでなく方法なども自ら考えて行い、能動的な学習につながると考えている。また、薬剤師に必要なコミュニケーション能力の向上にもつながるものと考えている。</p> <p>講義の内容に興味・関心を持つことは、学ぶ上で重要なことであると考え、講義に体験を取り入れることを試みた。まずは、生薬学において身近な生薬に関心を持つことを期待し、「屠蘇散」作りの体験を組み込んだ。アンケートでは、それぞれの生薬に特有の匂いなどもあって印象に残り、より生薬に関して興味を持ち覚えることができたとの意見が寄せられた。</p> <p>AIを用いた入学試験並びに修学状況のIR分析結果の報告 前期遠隔授業に対する学生アンケートの集計結果 遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について） WebClass使用事例の紹介 学修支援の現状と取り組み 授業設計と成績評価について アクティブラーニングについて ロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について アクティブラーニングについて（その3） OSCEの適正な実施に向けて 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～</p>
<p>II 研究活動</p>		
<p>1. 著書・論文等</p>		
<p>氏名</p>	<p>種別</p>	<p>内容</p>
<p>森川みか、宮崎智子、西山由美、竹内敦子、韓 秀妃</p>	<p>論文</p>	<p>薬局薬学. 2022, 14(2) : 161-169. 「0410対応」の処方箋を通して見える今後の薬局業務</p>

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
薬用植物園を利用した教育 ー薬用植物園学生ガイドの育成ー	2022年・8月	第7回日本薬学教育学会大会 オンライン
薬用植物園を利用した教育 ー「学生ガイド」育成活動の効果ー	2023年・9月	日本生薬学会 第69回年会 仙台
薬局薬剤師へのアンケート調査からわかる漢方薬使用における 問題点と課題について	2023年・9月	第56回 日本薬剤師会学術大会 和歌山
保険薬局へのアンケート調査からわかる漢方薬使用の現状につ いて	2023年・9月	第56回 日本薬剤師会学術大会 和歌山
講義に体験を取り入れた学習効果 ー生薬学で屠蘇散を作る体験ー	2024年・8月	第9回日本薬学教育学会大会 東京
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名
身近な生薬で健康に！ 一葉にもなる食材をうまく活用するー	2023年・8月	大学連携セミナー「こうべ生涯学習カレッジ」
漢方薬を医療に活かすために・・・	2024年・4月	神戸薬科大学同窓会 兵庫県支部研修会
身近な薬草で健康に 自分にあった健康茶を作ってみよう	2024年・6月	神戸市連携授業（六甲アイランド高校）
毎日のお茶で健康に！ ーオリジナルの健康茶を作ってみようー	2024年・10月	健康サポートセミナー（東灘区役所との連携）
身近な生薬で健康に！ ー植物が作る多彩な成分に注目ー	2025年・2月	神戸市老眼大学
III 学会等および社会における主な活動		
1986年7月～現在に至る	日本生薬学会会員	
1986年12月～現在に至る	日本薬学会会員	
2018年4月～2024年3月	日本薬剤師会会員（兵庫県薬剤師会会員）	

西山

2022年4月～現在に至る	日本薬学教育学会会員
2024年2月～現在に至る	日本東洋医学会会員

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 講師	氏名 藤波 綾
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	1995年度～2024年度	（臨床生化学実習） 3年次生に対して、代表的な疾患の診断や治療経過の把握に必要な検査項目および知っておいてほしい測定原理を含んだ検査項目について、原理を理解させるとともに測定結果から推定される疾患や状態、さらに必要となる検査項目を考えさせた。
	2011年度～2023年度	（薬学英語入門II） 3年次生に対して、薬学英語入門 I よりもレベルアップさせ、授業内容のより深い理解を促すためにクリティカルシンキングを取り入れた授業を検討した。
	2015年度～2023年度	（薬物治療学 I） 3年次生に対して、血液に関する臨床検査の項目と意義、異常値に対する見方などを講義した。
	2019年度～2024年度	（実務実習事前教育） 4年次生に対して、5年次に行われる実務実習時に必要な技能や態度（特に調剤、処方せん監査）を指導した。
	2020年度～現在に至る	（感染制御学II） 6年次生に対して、適切な感染症診療を行うための臨床検査ならびに肺炎やインフルエンザなどの感染症についての予防と治療について解説している。
	2020年度～2023年度	（薬学英語入門I） 3年次生に対して、英語を学習手段として専門的な内容を学ぶ内容言語統合型学習法を導入し、生命科学の分野で必要とされる基礎的な英語の知識を習得しながら、それまでの専門科目の講義内容をも復習できるように講義を行った。
	2020年度～現在に至る	（総合薬学講座 実務） 6年次生に対して、薬物療法の実践における「用法・用量」について注意すべき医薬品とその理由、相互作用および効果・副作用について解説している。
2021年度～2024年度	（処方解析II） 4年次生に対して、婦人科系疾患、皮膚疾患および感染症の病態と使用される薬物の特徴や使用法の総合的な理解の一助となるように症例を交えて解説した。	

	<p>2023年度～現在に至る</p> <p>2024年度～現在に至る</p> <p>2024年度～現在に至る</p> <p>2024年度～現在に至る</p> <p>2024年度～現在に至る</p> <p>2025年度～</p>	<p>(臨床生化学) 2年次生に対して、1年次に学ぶ機能形態学(血液や凝固・線溶系に関する内容)の復習を行いながら、検査項目とその意義、異常値に対する見方を講義している。</p> <p>(薬学英语) 3年次生に対して、英語を学習手段として専門的な内容を学ぶ内容言語統合型学習法を導入し、生命科学の分野で必要とされる基礎的な英語の知識を習得しながら、それまでの専門科目の講義内容をも復習できるように講義を行っている。2025年度からは習熟度別授業とし、英語が学生を対象に英語への苦手意識が少しでもなくなるような講義を心掛けている。</p> <p>(サイエンティフィックリテラシー) 1年次生に対して、薬学を学ぶ上で必要な化学や生物の基礎力を身につけ、他の科目との関連性を見出し、1年次で学ぶ基礎科目が臨床現場に生かされることを実感してもらえるような課題を設定することで課題発見能力及び問題解決能力を養える場を提供している。</p> <p>(ロジカル思考演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ) 1, 2年次生に対して当該学年や下の学年で学んだ内容を復習できるような内容を解説し、重要ポイントを意識させるために問題演習を行っている。</p> <p>(基礎実習) 1年次生に対して、実験器具の正しい使い方を修得させるとともに、実習の取り組み方やレポート作成に対する態度を醸成できるような内容で行う。</p> <p>(基礎薬学演習) 4年次生に対して、CBT前の総復習になるように問題演習を中心とした講義を行う。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p>	<p>1995年度～2024年度</p> <p>2011年度～2023年度</p> <p>2015年度～2023年度</p> <p>2016年度～現在に至る</p> <p>2021年度～2024年度</p> <p>2019年度～2024年度</p>	<p>(臨床生化学実習) 実習内容を実習書として作成した。</p> <p>(薬学英语入門Ⅰ、Ⅱ) テキストを作成し、講義で利用した。</p> <p>(薬物治療学Ⅰ) 講義用スライドを冊子として作成した。</p> <p>(総合薬学講座) 講義用スライドを学生配布プリントとして作成している。</p> <p>(処方解析Ⅱ) 講義用スライドを冊子として作成した。</p> <p>(実務実習事前教育) 実習内容を実習書として作成した。</p>

	2023. 9. 1	感染制御学 病原微生物との共存と戦い 第2版 (京都廣川書店) ウイルスやウイルス性疾患に用いる薬について執筆した。
	2023年度～現在に至る	(臨床生化学) 講義用スライドを学生配布プリントとして作成している。
	2024年度～現在に至る	(薬学英语) テキストを作成し、講義で利用している。
	2024年度～現在に至る	(サイエンティフィックリテラシー) テキストを作成し、講義で利用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021. 8. 21	第6回日本薬学教育学会 オンライン発表 リモート環境下での内容言語統合型学習(CLIL)における協調学習(community)を 前向きに行うための発話分析 —薬学英语入門における対面でのジグソー法の発話分析から推測する— リモート環境下においてグループ学習を活発に行うために、我々はグループ学習中に生じる感情に焦点を当てる必要があると考え、まず、従来のグループ学習での発話を「感情」の観点から分析した。
	2022. 8. 21	第7回日本薬学教育学会 オンライン発表 学習者1に対して教員3で構成されるオンデマンド型(3対1)授業の試み —有用性および満足度に関する調査・考察— オンデマンド型授業における新たな試みとして、1名の教員が「先生役」を、残り2名の教員が様々な年齢・職業を想定した「生徒役」を演じる仮想型ライブ授業を行った。このような3対1のオンデマンド型の英語授業に関する報告は見られないことから、まず初めに本授業の有用性と満足度について調査を行った。
	2023. 8. 20	第8回日本薬学教育学会 発表 薬学英语学習における動機づけの調査 ～課題価値の観点からの検討～ 薬学英语を学生自ら積極的に学んでもらうためには動機づけが必要であると考え、本研究では、英語の2技能(読む、聞く)および単語の意味理解に加えて、既存知識との関連付け(関連性)、内容を深く理解し要約する力(要約力)、将来医療人として患者に何ができるか(創造性)に着目し、これらに対して課題価値を調査した結果を報告した。
	2024. 8. 20	第9回日本薬学教育学会 発表

		神戸薬科大学におけるグローバル的未来志向の育成を目指した授業の取り組み —薬学英语の「読む」課題の価値づけに関する調査— 授業終了後もグローバル的未来思考を維持させるためには、薬学英语の課題に取り組みたいと思わせる課題の持つ価値づけ（課題価値）を促す授業設計が必要と考える。そこで本研究では、薬学英语の「読む」に対する課題での本学学生の課題価値について調査した結果を報告した。
4 その他教育活動上特記すべき事項	2017年度～現在に至る	薬学教育者ワークショップタスクフォース 実務実習指導薬剤師養成のためにタスクとして参加者にサポートを行っている。 2023. 11. 18, 19 第121回薬学教育者ワークショップin近畿（本学開催）会場責任者 2025. 6. 27, 28 第130回薬学教育者ワークショップin近畿（本学開催）タスクフォース兼事務局 2021. 7. 19 FD研修会「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」「WebClass使用事例の紹介」参加 2022. 3. 11 FD研修会「学修支援の現状と取り組み」参加 2022. 7. 19 FD研修会「授業設計と成績評価について」参加 2023. 3. 16 FD研修会「アクティブラーニングについて」「ロジカル思考演習」参加 2023. 5. 15 FD研修会「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」発表 2023. 10. 16 FD研修会「アクティブラーニングについて(その2)」「チューター制度について」参加 他1件 2024. 8. 22 FD研修会「障害のある学生への合理的配慮と修学支援研修」参加 2025. 3. 11 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 参加 他3件
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容

Tagawa N, Fujinami A, Natsume S, Mizuno S, Kato I.	論文	PLoS One, 2022 Jan 27;17(1) : e0262542. " Relationship between adiponectin multimer levels and subtypes of cerebral infarction."
児玉典子, 藤波綾, 湯立.	論文	薬学教育, 6(2022) . Control-Value Theoryを応用した薬学英语教育の試みー自己効力感, 達成関連感情, 学習方略の関連ー
Ohkura N, Morimoto-Kamata R, Oishi K, Higo-Yamamoto S, Fujinami A, Inoue K, Ohta M.	論文	J Med Food. 2023;26(11):843-848. Supplementation with Ashitaba (Angelica keiskei) Yellow Stem Exudate Prevents Aging-Induced Thrombotic Tendencies and Systemic Inflammation Without Affecting Body Weight Gain in Mice
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
NASHモデルマウスのメタボリックシンドローム関連因子に及ぼすアシタバカルコン摂取の効果	2021年・3月	日本薬学会第141年会
野生型マウスのメタボリックシンドローム関連因子に及ぼすアシタバカルコン摂取の効果	2023年・3月	日本薬学会第143年会
GABAサプリメントの崩壊、溶出におけるpHの影響	2024年・3月	日本薬学会第144年会
市販のサプリメント中に含まれるナットウキナーゼの新規活性測定法の開発	2025年・3月	日本薬学会第145年会
3. その他		
演題名	発表年・月	講演内容
コロナに負けない！続けようフレイル予防！	2022年・1月	第40回 メディカル・カフェ
ポリフェノールで生活習慣病予防！ ～明日葉ポリフェノールの効果～	2022年・5月	神戸薬科大学 第23回公開市民講座
熱中症対策 作ってみよう！スポーツドリンク	2022年・6月	兵庫県立東灘高校 看護医療探究
ポリフェノールの多彩な魅力 ～ポリフェノールで生活習慣病予防！～	2022年・8月	こうべ生涯学習カレッジ

ポリフェノールの健康効果 ～ポリフェノールで健康に過ごそう～	2023年・10月	第32回健康サポートセミナー
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
1995年8月～現在に至る	日本臨床化学会会員	
1996年1月～現在に至る	日本薬学会会員	
2001年1月～現在に至る	日本生化学会会員	
2016年4月～現在に至る	初年次教育学会会員	
2016年4月～現在に至る	日本薬学教育学会会員	
2019年4月～現在に至る	日本薬剤師会会員	
2019年4月～現在に至る	日本病院薬剤師会会員	
2021年度～2024年度	日本臨床化学会発行誌「臨床化学」編集委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 総合教育研究センター	職名 講師	氏名 前田 秀子
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2010年4月～	1年生に「情報リテラシー」（前期）の講義をPower Pointを使用して行った。練習問題をやりながら基本操作を修得させる。さらに、定着させることを目指し課題を作成させた。
	2014年9月～	6年生に「総合薬学講座」を教えた。初めに重要な所を説明した後、練習問題を解くことで理解させながら講義を進めた。さらに、講義の後復習させ定着させる。
	2022年9月～	1年生に「基礎実習」（後期）を教えた。1年生は、初めて実験をする学生も多くいるため、基本的なことを丁寧に指導した。色々な実験を通して、高校の授業で学んだことを実際に自分の眼で見て確かめさせるようにした。
	2023年4月～	2年生に「ロジカル思考演習II」および「ロジカル思考演習III」の講義を行った。1年生後期の反応速度論の振り返りを行い、3年生の薬物動態学や製剤学の授業へのスムーズに移行できるようにした。
	2023年9月～	4年生に「基礎薬学演習」を教えた。1年次から3年次までの物理系薬学の基礎的な知識を整理し、演習により定着させるようにした。
	2024年5月～	化学の苦手な1年生に補講を行った。高校の化学の復習をやりつつ大学の化学の講義が理解できることを目標にした。講義は出来るだけゆっくりとしたスピードで進めた。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2021年7月19日	遠隔授業の効果的な実施方法について (webclassの利用について) , WebClass 使用実例の紹介, 授業設計と成績評価について
	2023年3月16日	アクティブラーニングについて, ロジカル思考演習
	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
	2024年3月14日	アクティブラーニングについて (その3)
	2025年3月11日	薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Maeda H., Shiobara R., Tanaka M., Kajinami A., Nakayama H.	論文	Drug Dev. Ind. Pharm., 2021, 47: 535-41. "Effect of mechanochemical inclusion of triamterene into sulfobutylether-beta-cyclodextrin and its improved dissolution behavior"
Hayashi A., Otsu S., Kamiiji H., Yoshioka A., Ando S., Inoue C., Kohata H., Maeda H., and Nakayama H.	論文	Phosphorus Res. Bull. 2022, 38: 53-59. "Uptake and Release of Sodium Diphosphate by a Chloride-type Layered Double Hydroxide"
Akaki S., Hosokwa M., Maeda S., Kono Y., Maeda H., Ogawara K.	論文	Biol. Pharm. Bull. 2024, 47: 1832-35. "Efficient Loading into and Controlled Release of Lipophilic Compound from Liposomes by Using Cyclodextrin as Novel Trapping Agent"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
シクロデキストリンによるメトキシサリチル酸の溶解性の改善とチロシナーゼ阻害活性の評価	2022年3月	第142回日本薬学会年会
エクオール溶解性向上を目指したジホスホン酸塩によるリン酸修飾	2022年9月	第31回無機リン化学討論会
プレートリーダーによるイリノテカンとシクロデキストリンとの包接複合体形成の評価	2023年3月	第143回日本薬学会年会
神戸薬科大学における低学力学生の学習特性、性格特性に関する調査	2024年3月	第144回日本薬学会年会
テキストマイニングを用いた初年次基礎実習後における学生の意識調査: 基礎実習 (分析系) に取り組む態度の観点から	2024年8月	第9回日本薬学教育学会大会

前田

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2018年10月～現在に至る	日本無機リン化学会学会誌副編集委員長
2020年9月～2022年9月	日本無機リン化学会総務担当理事
2022年10月～現在に至る	日本無機リン化学会評議員

## 専任教員の教育・研究業績

所属	エクステンションセンター	職名	講師	氏名	鎌尾 まや
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） (1) 本学薬学部学生への教育		2017. 4～現在に至る	「健康食品」 薬剤師向け健康食品講座の受講により、健康食品に関連する法・制度や科学的根拠に対する考え方の教育に努めた。2020年度以降は新型コロナウイルス感染症対応として、e-learning形式を導入し、WEBによるレポート提出により受講成果を評価した。		
			「実践薬学」 薬剤師を対象とした研修会の受講により、薬剤師を取り巻く最新的话题を提供すると共に、生涯研修の意義の啓蒙に努めた。2020年度以降は新型コロナウイルス感染症対応として、e-learning形式を導入し、WEBによるレポート提出により受講成果を評価した。		
		2019. 10～現在に至る	「総合薬学講座」 衛生薬学系分野のうち栄養と健康について、重要ポイントと国家試験の最近の傾向を中心に講義した。また、近年の関連する法・制度の変更点について重点的に解説した。		
		2020. 4～現在に至る	「臨床栄養学」 e-learning形式で臨床栄養学の基礎及び疾患別の栄養管理について講義した。小テストにより、理解度を評価した。		
			「実務実習事前教育」 計数調剤、内用液剤の計量調剤、無菌調剤、チーム医療等の項目を担当した。調剤では学生一人一人の手技を観察し、レベルに合わせた指導を実施した。また、チーム医療では自身の臨床研修での経験や生涯研修支援事業の運営をする中で得た知識を活用し、学生のチーム医療への理解、将来的にチームの一員となり得る意識の醸成に努めた。		
		他1件			
		2023. 9～現在に至る	「ロジカル思考演習」 喫煙の健康影響およびアドバンス・ケア・プランニングをテーマとした演習を実施した。少人数のグループによる自ら設定した小テーマに関する資料検索、発表要旨作成、発表スライド作成を通じて、資料を吟味する力や論理的思考力を養うよう努めた。また、小グループにおける発表、全体発表を実施し、プレゼンテーション能力を醸成した。		

	2024. 4～現在に至る	「衛生薬学Ⅱ」 全14回の講義のうち、ミネラル・食物繊維、ビタミン、エネルギー代謝、食事摂取基準・栄養と疾病に関する4回を担当した。講義中にクイズを取り入れて学生の集中力の維持を図ると共に、冒頭で前回の内容を整理するための小テストをGoogleフォームを用いて実施し、その場でフィードバックを行った。
	2024. 9～現在に至る	「医療コミュニケーション演習」 ワールドカフェによる医療者との体験の共有、K・J法による理想的あるいは問題の多い薬剤師の可視化と発表、様々なシナリオによる露ロールプレイ等を実施した。それぞれの活動について、各学生の良かった点を挙げ、コミュニケーションに自信が持てるような雰囲気を心がけた。
	2025. 4～現在に至る	「アドバンスト実践薬学演習」 本学で実施している薬剤師向け研修会の受講により、現役薬剤師とのスモールグループディスカッション（SGD）の場を創出した。本演習と実務実習での体験の連動により、医療薬学、臨床薬学をより深く学び、多様な医療機関で多職種と連携しながら活躍できる実践的な知識および技能の修得を目指す。
2 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 実務実習事前教育実習テキスト	2021. 4～現在に至る	実務実習事前教育で用いるテキストについて、分担範囲の作成を担当した。
(2) 衛生薬学Ⅱ講義資料テキスト	2024. 4～現在に至る	衛生薬学Ⅱで用いる講義資料テキストについて、分担範囲の作成を担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) 第6回日本薬学教育学会大会	2021. 8. 21	神戸薬科大学生涯研修におけるe-learning研修受講者に対するアンケート調査—対面研修との比較分析—
(2) 第24回近畿薬剤師学術大会	2021. 10. 31	「生涯研修認定制度」及び「健康食品領域研修認定薬剤師制度」による薬剤師生涯研修の推進
(3) 第7回日本薬学教育学会大会	2022. 8. 20	「神戸薬科大学生涯研修e-learning講座受講者を対象としたアンケート調査—2020年度および2021年度の比較分析—」
(4) 第16回日本禁煙学会学術総会	2022. 10. 29	「中学生を対象とした薬剤師による体験型防煙授業の効果と課題—生徒のアンケート結果より—」  「中学生を対象とした薬剤師による体験型防煙授業の効果と課題—教諭アンケート結果より—」
(5) 第3回兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会・薬系5大学連携学術大会	2023. 6. 9	「神戸薬科大学における薬学生・薬剤師の臨床能力向上に向けた取り組み—卒前教育から卒後・生涯教育へ—」

(6) 日本薬学会第144年会 2023年度他1件	2024. 3. 30	「薬剤師のためのワクチン接種研修受講者を対象とした研修効果及び意識変化に関する調査」
(7) 第9回薬学教育学会大会	2024. 8. 18	「薬剤師生涯研修受講者の学習効果の認識に及ぼす開催方法の影響」
(8) 第18回日本禁煙学会学術総会 2024年度他2件	2024. 11. 16	「薬学生を対象とした防煙教育と薬物依存問題への取り組み」
4 その他教育活動上特記すべき事項		
(1) 学内委員	2017. 4～現在に至る	健康食品領域研修事業委員会 委員
		健康食品講座企画・運営委員会 委員
	2018. 4～現在に至る	エクステンションセンター事業統括委員会 委員
		生涯研修事業委員会 委員
		生涯研修企画・運営委員会 委員
	2020. 4～現在に至る	実務実習事前教育委員会 委員
	2020. 5～現在に至る	図書選定委員会 委員（生物・医療薬学系）
	2022. 4～現在に至る	CBT実施委員会 委員
	2024. 4～現在に至る	OSCE実施委員会 委員
	2025. 4～現在に至る	教務委員会 委員
2024. 4～現在に至る	広報委員会 委員	
(2) 学長裁量経費教育改革プログラムへの参画	2023. 4	「日本国内に在住または滞在中の人材を活用した国際理解教育の推進」
	2024. 4	「アメリカ、タイの薬学生と交流するタイ薬学研修による国際理解教育の実践」
	2025. 4	「海外で薬学を学ぶ同世代の学生との交流を通して実践する国際理解教育の推進」

(3)FD研修会参加	2022. 3. 11	「学修支援の現状と取り組み」
	2022. 7. 19	「授業設計と成績評価について」
	2023. 3. 16	「アクティブラーニングについて」「ロジカル思考演習」
	2023. 5. 15	「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2023. 10. 16	「アクティブラーニングについて（その2）」「チューター制度について」
	2024. 3. 14	「アクティブラーニングについて（その3）」
	2023. 10. 16	「アクティブラーニングについて（その2）」「チューター制度について」
	2024. 3. 14	「アクティブラーニングについて（その3）」
	2024. 11. 28	「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025. 3. 11	「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Tsugawa N, Nishino M, Kuwabara A, Ogasawara H, <u>Kamao M</u> , Kobayashi S, Yamamura J, Higurashi S.	論文	Comparison of vitamin D and 25-hydroxyvitamin D concentrations in human breast milk between 1989 and 2016-2017. <i>Nutrients</i> . 13, 573, 2021 1989年と2016年から2017年に収集された日本人の母乳中ビタミンD及び25-ヒドロキシビタミンD (25OHD) の濃度を比較し、これらの母乳中濃度が調査年に関係なく夏に高いことを明らかにした。また、2016～2017年の夏は1989年の夏と比較して有意に低いビタミンDおよび25OHD濃度が観察され、授乳中の母親のビタミンD栄養状態が関係していることが示唆された。 本人担当部分：母乳中ビタミンD及び25(OH)Dの測定法開発、分析

鎌尾まや	総説	学部教育及び卒業後教育への「栄養薬学」の導入 ―より良い薬物治療と健康サポートに貢献するために― 薬学教育, 5, doi: 10.24489/jjphe, 2021-010, 2021 健康サポート薬局制度の創設により薬学生、薬剤師に対する栄養や健康食品・サプリメントに関する教育の必要性が高まっている現状について概説すると共に、神戸薬科大学における「健康食品領域研修認定薬剤師制度」に基づく薬剤師研修について紹介し、臨床現場と大学が連携して「栄養薬学」領域の教育・研修を構築する必要性を示した。
鎌尾まや (北河修治編)	著書	できる薬剤師とよばれるために 株式会社じほう（北河修治編）2021年発行 本人執筆部分：栄養素が薬理作用をもち、薬の作用に影響を与えることはある？ pp298-300 乳酸菌と抗菌薬は一緒に服用できる？ pp308-310 ダイエット、ケトン体ダイエット、人口甘味料は薬効に影響する？ pp311-313 AGEs、各種ビタミン、ポリフェノールの体内での化学反応とは？ pp314-316
Tsugawa N, Kuwabara A, Ogasawara H, Nishino M, Nakagawa K, <u>Kamao M</u> , Hasegawa H, Tanaka K.	論文	Vitamin D Status in Japanese Young Women in 2016-2017 and 2020: Seasonal Variation and the Effect of Lifestyle Including Changes Caused by the COVID-19 Pandemic. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2022;68(3):172-180. doi: 10.3177/jnsv.68.172. 2016～2017年の日本人若年女性のビタミンD欠乏は夏では60%程度であったのに対し、春・冬では90%以上に達していることを報告した。また夏季における血清ビタミンD代謝物濃度は2016～2017年に比べて2020年では極端に低く、COVID-19による外出日数の減少がビタミンD栄養状態の悪化に影響したことを明らかにした。 本人担当部分：血清中ビタミンD及び25(OH)Dの測定法開発、分析
Kimura S, Tagami S, Mano H, Kittaka A, Ida Y, Takagi Y, Nakagawa K, Arai T, Yokota S, Tsugawa N, <u>Kamao M</u> , Suhara Y, Sakaki T, Nakagawa K, Okano T, Hirota Y	論文	Divergent roles of 25-hydroxyvitamin D <sub>3</sub> and 1 $\alpha$ ,25-dihydroxyvitamin D <sub>3</sub> in neural fate determination: A CYP27B1-dependent neuron formation and VDR-dependent astrocyte development. Biochem Biophys Res Commun. 2025; 755: 151547 1 $\alpha$ ,25D <sub>3</sub> の神経分化誘導作用にはビタミンD受容体を介するもの、介さないものがあることを明らかにした。また、アストロサイトの分化においてビタミンD受容体は必須であり、25D <sub>3</sub> も1 $\alpha$ 位水酸化を経ることなくアストロサイト分化誘導能を示した。 本人担当部分：Cyp27b1 <sup>-/-</sup> およびVdr <sup>-/-</sup> ノックアウトマウスの作出、データ解析
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名

高齢者における血中終末糖化産物（AGEs）濃度と健康関連指標との関連性	2021. 3	日本薬学会第141年会，広島（WEB）
高齢者における生活習慣と健康関連指標との関連性	2022. 3	日本薬学会第142年会，名古屋（WEB）
一般消費者におけるアドバイザースタッフの認知度とニーズに関する調査	2023. 11	第45回日本臨床栄養学会総会・第44回日本臨床栄養協会総会 第21回大連合大会
薬剤師における、健康食品・サプリメントの相談応需とアドバイザースタッフの認知に関する調査結果	2024. 10	第46回日本臨床栄養学会総会・第45回日本臨床栄養協会総会 第22回大連合大会
日本人のためのビタミン D 欠乏判定簡易質問票（VDDQ-J）を用いたビタミンD欠乏者割合の推定	2025. 6	日本ビタミン学会第77回大会
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名
「生涯研修認定制度」及び「健康食品領域研修認定薬剤師制度」による薬剤師生涯研修の推進	2021. 10	第24回近畿薬剤師学術大会
アドバイザースタッフに関するアンケート調査よりみえてくるもの	2022. 8	2022年度日本食品安全協会教育協議会研修会
ちょっとおもしろいビタミンのお話	2023. 10	がん哲学学校 in 神戸 第51回メディカル・カフェ
健康食品・サプリメントの適正利用に向けてのアドバイザースタッフへの期待	2024. 5	2024年度 中部支部 健康食品管理士研修会
骨粗鬆症の薬物療法 ―各薬剤の特徴と注意点―	2025. 5	第73回日本理学療法学会
III 学会等および社会における主な活動		
1995. 2～現在に至る	日本薬学会会員	
1996. 2～現在に至る	日本ビタミン学会会員	
2005. 7～現在に至る	栄養情報担当者（NR）・サプリメントアドバイザー	
2006. 11～現在に至る	研修認定薬剤師	
2017. 3～現在に至る	日本薬剤師会、兵庫県薬剤師会会員	
2017. 12～現在に至る	日本フードファクター学会会員	
2018. 1～現在に至る	日本薬学教育学会会員	

2019. 6～現在に至る	消費者庁セカンドオピニオン事業 健康食品の表示・広告に関する科学的根拠の妥当性評価における論文レビュアー
2019. 7～現在に至る	応急手当普及員（救急インストラクター）
2020. 7～現在に至る	特定非営利活動法人エナガの会 理事
2020. 7～2025. 2	I&H株式会社 倫理委員会委員
2020. 12～2021. 11	科学研究費委員会専門委員
2021. 1～現在に至る	認定薬剤師認証研修機関協議会 研修委員
2022. 10～2023. 11	第28回日本フードファクター学会学術集会実行委員
2023. 11～現在に至る	日本ビタミン学会 代議員

専任教員の教育・研究業績

所属	薬理学研究室	職名	講師	氏名	泉 安彦
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1) 本学薬学部学生への教育(講義)		2017年～現在		薬理学Ⅱ(2年次後期)	
		2018年～現在		薬理学Ⅳ(3年次後期) (分担5コマ)	
		2018年～2024年		医薬品毒性学(4年次前期) (分担4コマ)	
		2017年～現在		総合薬学講座(6年次後期)	
(2) 本学薬学部学生への教育(実習)		2022年～現在		薬学入門(1年次前期)	
		2017年～現在		薬理学実習 (3年次後期)	
		2017年～現在		卒業研究Ⅰ、Ⅱ(4年次、5年次)研究室に配属された学部学生に対して研究指導を実施。	
(3) 本学薬学研究科大学院生への教育		2018, 2020, 2022, 2024年		病態薬理生化学特論(後期)	
2 作成した教科書、教材、参考書				講義を行うにあたり、プレゼンテーション資料を作成し冊子にして配布するとともにWeb上で公開した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
FD研修会(神戸薬科大学開催分)への参加		2022年7月19日		FD研修会参加「授業改善と成績評価について(高等学校での取り組み)」	
		2022年3月11日		FD研修会参加「学修支援の現状と取り組み」	
		2023年3月16日		FD研修会参加「ロジカル思考演習」	

	2023年3月16日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて」
	2023年5月15日	FD研修会参加「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2023年10月16日	FD研修会参加「チューター制度について」
	2023年10月16日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その2）」
	2024年3月14日	FD研修会参加「アクティブラーニングについて（その3）」
	2024年10月28日	FD研修会参加「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025年3月11日	FD研修会参加「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部」
	2025年7月22日	FD研修会参加「統括部門における教学IRの取り組みについて」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Sawahata M, Izumi Y, Akaike A, Kume T.	論文	In vivo brain ischemia-reperfusion model induced by hypoxia-reoxygenation using zebrafish larvae. Brain Res Bull. 173:45-52, 2021.
Kato H, Sato H, Okuda M, Wu J, Koyama S, Izumi Y, Waku T, Iino M, Aoki M, Arawaka S, Ohta Y, Ishizawa K, Kawasaki K, Urano Y, Miyasaka T, Noguchi N, Kume T, Akaike A, Sugimoto H, Kato T.	論文	Therapeutic effect of a novel curcumin derivative GT863 on a mouse model of amyotrophic lateral sclerosis. Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener . 23:489-495, 2022.
Izumi Y, Tatsumoto A, Horiuchi N, Arifuku M, Uegomori M, Kume T, Koyama Y.	論文	TPNA10168, an Nrf-2 activator, attenuates inflammatory responses independently of Nrf2 in microglial BV-2 cells: Involvement of the extracellular-signal-regulated kinase pathway. J Pharmacol Sci . 149:1-10, 2022.
Izumi Y, Kataoka H, Takada-Takatori Y, Koyama Y, Irie K, Akaike A, Kume T.	論文	Isolation and Purification of Harpagogenin as an Nrf2-ARE Activator from the Tubers of Chinese Artichoke (Stachys sieboldii). Biol Pharm Bull. 46:1576-1582, 2023.
Izumi Y, Koyama Y.	論文	Nrf2-Independent Anti-Inflammatory Effects of Dimethyl Fumarate: Challenges and Prospects in Developing Electrophilic Nrf2 Activators for Neurodegenerative Diseases. Antioxidants (Basel). 13:1527, 2024.

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Nrf2活性化薬の抗炎症作用にNrf2遺伝子が関与しない可能性	2021年3月	第94回日本薬理学会年会
ミクログリアの炎症性活性化に関与する細胞内シグナル伝達経路に対するNrf2活性化薬TPNA10168の作用	2022年10月	第72回日本薬学会関西支部大会
Nrf2-ARE経路活性化物質の探索と疾患の予防や治療に向けて	2022年12月	第96回日本薬理学会年会・第43回日本臨床薬理学会学術総会
抗酸化ストレス応答転写因子Nrf2の活性化物質探索と作用解析	2024年3月	日本薬学会 第144年会
マクロファージにおけるNrf2活性化薬TPNA10168の抗炎症作用の機序解明	2025年3月	日本薬学会 第145年会
III 学会等および社会における主な活動		
2003年1月～現在	日本薬理学会	
2005年2月～現在	日本神経科学学会	
2008年4月～現在	日本薬学会	
2013年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	微生物化学研究室	職名	講師	氏名	増田 有紀
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概 要	
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				
	微生物学実習	2010年10月～現在		学部2年次後期に、微生物実習を行っている。学生の理解度を向上させるため、少人数でのディスカッションを実施している。また、操作（特に無菌操作）の一つ一つの意味について理解を深めるために、実習開始時に説明に加えてデモンストレーションを行っている。	
	情報リテラシー	2014年4月～現在		学部1年次前期に、情報リテラシーの講義の一部として、パワーポイントを用いたプレゼンテーションの作成について指導している。 その他2件	
2	作成した教科書、教材、参考書				
	該当なし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
	該当なし				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
	FD研修	2021年7月19日		「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」 「WebClass使用事例の紹介」	
		2022年3月11日		「学修支援の現状と取り組み」	
		2022年7月19日		「授業設計と成績評価について」	
		2023年3月16日		「アクティブラーニングについて」 「ロジカル思考演習」	
		2023年5月15日		「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」	

	2023年10月16日	「アクティブラーニングについて（その2）」 「チューター制度について」
	2024年3月14日	「アクティブラーニングについて（その3）」
	2024年10月28日	「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025年3月11日	「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」
	2025年7月22日	「統括部門における教学IRの取り組みについて」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Nakayama Y, Masuda Y, Shimizu R, Konishi M.	論文	Life Sci. 2024;358:123185. doi: 10.1016/j.lfs.2024.123185. "Neudesin, a secretory protein, attenuates activation of lipopolysaccharide-stimulated macrophages by suppressing the Jak/Stat1/iNOS pathway"
Masuda Y, Kondo N, Nakayama Y, Shimizu R, Konishi M.	論文	Clin Immunol. 2024;268:110376. doi: 10.1016/j.clim.2024.110376. "Neudesin regulates dendritic cell function and antitumor CD8+ T cell immunity"
Masuda Y, Yamashita S, Nakayama Y, Shimizu R, Konishi M.	論文	Biol Pharm Bull. 2024;47(4):840-847. doi: 10.1248/bpb.b23-00802. "Maitake Beta-Glucan Enhances the Therapeutic Effect of Trastuzumab via Antibody-Dependent Cellular Cytotoxicity and Complement-Dependent Cytotoxicity"
Nakayama Y, Masuda Y, Mukae T, Mikami T, Shimizu R, Kondo N, Kitagawa H, Itoh N, Konishi M.	論文	Commun Biol. 2024 Jan 25;7(1):129. doi: 10.1038/s42003-024-05802-9. "A secretory protein neudesin regulates splenic red pulp macrophages in erythrophagocytosis and iron recycling"
Masuda Y, Nakayama Y, Shimizu R, Naito K, Miyamoto E, Tanaka A, Konishi M.	論文	Life Sci. 2023 Mar 15;317:121453. doi: 10.1016/j.lfs.2023.121453. "Maitake $\alpha$ -glucan promotes differentiation of monocytic myeloid-derived suppressor cells into M1 macrophages"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
neudesinはがん免疫応答を抑制し、乳がんの発症と成長を促進する	2025年3月	日本薬学会 第143年会
分泌因子neudesinの樹状細胞機能の抑制を介した新規がん免疫回避機構の解明	2023年3月	日本薬学会 第142年会

食餌性肥満とニコチンによって誘発される筋萎縮におけるFgf21の生理的意義	2023年3月	日本薬学会 第142年会
Fgf21は胸腺髄質上皮細胞の分化成熟を促進し、樹状細胞への組織特異的自己抗原の移行を誘導することで、中枢性免疫寛容に貢献する	2022年3月	日本薬学会 第141年会
食餌性肥満とニコチンによって誘発される筋萎縮と代謝変化におけるFgf21の生理的意義	2022年3月	日本薬学会 第141年会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2003年～現在に至る	日本薬学会会員	
2009年～現在に至る	日本免疫学会会員	
2010年～現在に至る	日本分子生物学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 医療薬学	職名 講師	氏名 堀部 紗世
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
卒業研究	2013年10月1日～	本学5年生および6年生を対象に、卒業研究を指導している。卒業研究を通して、問題を提起しその問題を自己解決する力を養いように指導している。
総合薬学講座Ⅱ	2019年10月～	6年生を対象に総合薬学講座の1コマを指導している。過去の国家試験問題や現在の薬物治療の傾向を加味して、重要なポイントを要約して試験対策を行っている。
がん薬物療法論	2020年4月～	6年生を対象にがん薬物療法論の1コマを担当している。細胞傷害性の抗がん剤から分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤まで最近の新しい治療薬の耐性獲得機構について、指導している。
処方解析学Ⅱ	2021年10月～2024年3月	4年生を対象に処方解析学Ⅱの2014年から2020年は2コマを、2021年から4コマを担当している。便通異常および肺がんの病態および治療方法を解説し、実際の処方内容を用いて問題を解き、これらの病態に対する治療について理解を深めるように指導している。
薬学入門	2022年4月～	1年生を対象に薬学入門を0.5コマ担当している。肺がんの薬物治療を例にとり、病態や治療方法について説明を行い、その中で問題となっている抗がん剤耐性について、最近に研究内容を解説しており、一つ一つの大学での学びが大切であることを認識してもらえるように、指導している。
他2件		
2 作成した教科書、教材、参考書		

特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD研修会参加 FD研修会参加 FD研修会参加 FD研修会参加 FD研修会参加 FD研修会参加 FD研修会参加 FD研修会参加 FD研修会参加	2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月1日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日 2024年3月14日 2024年10月28日 2025年3月11日	遠隔授業の効果的な実施方法について（webcassの利用について） 学修支援の現状と取り組み 授業設計と成績評価について アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み アクティブラーニングについて(その2)、チューター制度について アクティブラーニングについて(その3) (山野先生)、ルーブリック評価について OSCEの適正な実施に向けて 数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Kasahara K, Sasaki N, Amin HZ, Tanaka T, Horibe S, Yamashita T, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	Heliyon. 2022 Jul 19;8(7):e09981. doi: 10.1016/j.heliyon.2022.e09981. Depletion of Foxp3+ regulatory T cells augments CD4+ T cell immune responses in atherosclerosis-prone hypercholesterolemic mice.

Horibe S, Ishikawa K, Nakada K, Wake M, Takeda N, Tanaka T, Kawauchi S, Sasaki N, Rikitake Y.	論文	Oncology reports (2022), Vol. 47(2):32. doi: 10.3892/or.2021.8243. "Mitochondrial DNA mutations are involved in the acquisition of cisplatin resistance in human lung cancer A549 cells."
Kawauchi S, Mizoguchi T, Horibe S, Tanaka T, Sasaki N, Ikeda K, Emoto N, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	Glia (2023), Vol. 71(2), p467-479. "Gliovascular interface abnormality in mice with endothelial cell senescence."
Horibe S, Emoto T, Mizoguchi T, Tanaka T, Kawauchi S, Sasaki N, Yamashita T, Ikeda K, Emoto N, Hirata K, Rikitake Y	論文	Glia (2024), Vol. 72(1), p51-68. "Endothelial senescence alleviates cognitive impairment in a mouse model of Alzheimer's disease."
Tanaka T, Sasaki N, Krisnanda A, Shinohara M, Amin HZ, Horibe S, Ito K, Iwaya M, Fukunaga A, Hirata KI, Rikitake Y.	論文	J Am Heart Assoc. 13(2):e031639, 2024. "A novel ultraviolet B phototherapy with a light-emitting diode device prevents atherosclerosis by augmenting regulatory T cell responses in mice."
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
血管内皮細胞老化によるアルツハイマー病モデルマウスにおける認知機能低下の抑制機序	2022年10月	第73回 日本薬学会関西支部総会・大会
5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法による細胞毒性に及ぼすシスプラチン耐性化の影響	2023年3月	日本薬学会第143年会
血管内皮細胞老化によるアルツハイマー病モデルマウスの糖代謝異常の軽減	2024年3月	日本薬学会第144年会
血管内皮細胞老化を介したミクログリアの機能変容はアルツハイマー病モデルマウスにおける認知機能低下を抑制する	2024年3月	日本薬学会第144年会
血管内皮細胞老化による若齢アルツハイマー病モデルマウスの糖代謝異常の軽減	2025年3月	日本薬学会第145年会

堀部

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2000年4月～現在に至る	日本薬学会会員
2008年1月～現在に至る	日本癌学会会員
2015年7月～現在に至る	日本癌学会会員
2020年4月～現在に至る	兵庫県薬剤師会会員

## 専任教員の教育・研究業績

所属	実践薬学研究室	職名	講師	氏名	富田 淑美
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
4, 5, (6)年次「海外薬学研修」を分担		2020年4月～	コロナ禍では国内で海外の薬学関係者によるオンライン講義や動画を学生に提供、2024年からは実際に海外（アメリカ合衆国）で薬学研修を実施することで、学生の国際感覚を養うと共に、英語学習に対する意欲向上に寄与した		
4年次「実務実習事前教育」を分担		2020年4月～	実務実習に臨む前に身に着けるべき技能の修得に寄与した		
4年次「地域医療・プライマリケア論」を分担		2021年4月～2024年9月	学生が地域医療、薬剤師に求められる役割に対する理解を深め、地域医療やプライマリケアに対する薬剤師の関わり方を考える機会を提供した		
4年次「社会保障制度と薬剤経済」を分担		2021年4月～2024年9月	薬剤師として働く上で重要な知識である、医療保険制度・薬価基準制度・診療報酬について、正しく理解することに寄与した		
4年次「処方解析Ⅰ」を分担		2021年4月～2024年9月	統合失調症および気分障害について、学生の疾患に対する理解を促した		
6年次「がん薬物療法論」を分担		2021年4月～	がん緩和医療、疼痛・栄養管理に関する知識を学生に提供した		
6年次「感染制御学Ⅱ」を分担		2021年4月～	学生の腎機能評価、疥癬治療や周術期感染症に対する理解を促した		
4年次「処方解析Ⅱ」を分担		2021年9月～2025年3月	妊婦・授乳婦・小児の薬物療法について模擬症例や最新の話題をまじえて解説し、正しく理解するための情報を提供した		
6年次「総合薬学講座（Ⅱ）」を分担		2021年9月～	実務領域（医薬品の管理）を担当し、学生が知識を定着させることに寄与した		
3年次「グローバル薬学入門」を担当		2024年4月～	学生に海外の薬学関係者が作成した動画の視聴機会を提供し、その解説を行うことを通じて海外の薬学事情に関する学生の理解を促した		
3年次「医療コミュニケーション演習」を分担		2024年9月～	学生が多職種や患者および患者家族との信頼関係を構築するために必要なコミュニケーション力を身に付けることに寄与した		
2 作成した教科書、教材、参考書					

<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>調剤業務で見直す！化学の有用性</p> <p>ひらめきと考察で差がつく薬剤師業務！</p>	<p>2021年8月25日</p> <p>2023年10月</p>	<p>2021年度名古屋市立大学東海薬剤師生涯学習センター講座（8月25日分）</p> <p>神戸薬科大学【e-learning講座】 第104回リカレントセミナー（～2024年3月31日）</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p> <p>神戸薬科大学で開催されたFD研修会に参加</p>	<p>2021年7月19日</p> <p>2022年3月11日</p> <p>2022年7月19日</p> <p>2023年3月16日</p> <p>2023年5月15日</p> <p>2023年10月16日</p> <p>2024年3月14日</p> <p>2024年10月28日</p> <p>2025年3月11日</p>	<p>研修会内容：遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）WebClass使用実例の紹介</p> <p>研修会内容：学修支援の現状と取り組み</p> <p>研修会内容：授業設計と成績評価について</p> <p>研修会内容：アクティブラーニングについて ロジカル思考演習</p> <p>研修会内容：新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み</p> <p>研修会内容：アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について</p> <p>研修会内容：アクティブラーニングについて（その3）</p> <p>研修会内容：OSCEの適正な実施に向けて</p> <p>研修会内容：数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～</p>
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
富田 淑美	コラム	兵庫県薬剤師会誌「兵薬界」2021, 791(12), 20-21. 「大学だより」

2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
日本語による海外の医療・薬学事情等に関する講演がもたらす教育効果の検証	2024年・3月	日本薬学会第144年会（横浜）
L-カルニチン欠乏を惹起する医療用医薬品の調査研究	2024年・3月	日本薬学会第144年会（横浜）
L-カルニチン欠乏を惹起する可能性のある医薬品とその代謝生成物に関する調査研究	2025年・3月	日本薬学会第145年会（福岡）
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2004年～	日本薬学会	
2011年10月～	国際薬剤師・薬学連合（FIP）	
2012年～	日本薬剤師会	
2024年9月～	日本薬剤師会国際委員会委員	
2014年4月～	日本医療薬学会	
2016年4月～	日本病院薬剤師会	
2022年8月～2023年12月	アジア薬科大学協会（AASP）	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	医薬細胞生物学研究室	職名	講師	氏名	山田泰之
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1) 本学薬学部学生への教育（講義・実習）		2021年4月～現在に至る		本学2年生を対象に「細胞生物学実習」にて、顕微鏡の使用方法や、動物・植物の組織の観察方法について指導を行った。	
		2021年4月～現在に至る		本学6年生対象の「総合薬学講座」にて、薬剤師国家試験対策の講義や問題演習を行った。	
		2022年4月～現在に至る		本学1年生対象の「薬学入門」にて、生薬学/植物細胞生物学に関する観点から、薬用植物が生産する薬の原料となるさまざまな代謝産物の特徴や、生産に関する課題と最新の研究事例を簡単に紹介した。	
(2) 本学薬学部学生への研究指導		2021年4月～現在に至る		研究室に配属された学部学生に対して卒業研究指導を行った。	
(3) 本学薬学研究科大学院生への研究指導		2021年4月～2024年3月		研究室に所属する大学院生に対して研究指導を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書		2021年4月～現在に至る		「細胞生物学実習 実習書」	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
(1) FD研修会への参加		2025年3月11日		FD研修会「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」	
		2024年10月28日		FD研修会「OSCEの適正な実施に向けて」	
		2024年3月14日		FD研修会「アクティブラーニングについて（その3）」	

	2023年10月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて（その2）」、「チューター制度について」
		※2023年度 他1件
	2023年3月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて」、「ロジカル思考演習」
	2022年7月19日	FD研修会「授業設計と成績評価について」
	2022年3月11日	FD研修会「学修支援の現状と取り組み」
	2021年7月19日	FD研修会「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」、「WebClass使用事例の紹介」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
<u>Yasuyuki Yamada</u> , Emi Tamagaki, Nobukazu Shitan, Fumihiko Sato	論文	“Integrated metabolite profiling and transcriptome analysis reveal candidate genes involved in the biosynthesis of benzylisoquinoline alkaloids in <i>Corydalis solida</i> ” Plant Biotechnology, 41(3), 267-276 (2024)
<u>Yasuyuki Yamada</u> , Miya Urui, Nobukazu Shitan	論文	“Integration of Co-culture and Transport Engineering for Enhanced Metabolite Production.” Plant Biotechnology, 41(3), 195-202 (2024)
Miya Urui, <u>Yasuyuki Yamada</u> , Akira Nakagawa, Fumihiko Sato, Hiromichi Minami, Nobukazu Shitan	論文	“Enhanced Co-culture System Using <i>Escherichia coli</i> and <i>Pichia pastoris</i> ( <i>Komagataella phaffii</i> ) for Improved Microbial Production of Valuable Plant Alkaloids” Biological and Pharmaceutical Bulletin 46(10), 1494-1497 (2023)
Yoshito Ikeda, Mizuki Kawakami, <u>Yasuyuki Yamada</u> , Masayuki Munekane, Kohei Sano, Takahiro Mukai, Taiho Kambe, Nobukazu Shitan	論文	“Chloroform Fraction of <i>Panax Ginseng</i> Extract Enhances Zip4-Mediated Zinc Influx into the Cytosol” BPB Reports, 6(3), 108-114 (2023)

Annette Becker, Yasuyuki Yamada, Fumihiko Sato	論文	“California poppy ( <i>Eschscholzia californica</i> ), the Papaveraceae golden girl model organism for evodevo and specialized metabolism” <i>Frontiers in Plant Science</i> 14, 1084358 (2023)
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
ケシ科ハナビシソウのベンジルイソキノリンアルカロイド合成に関わるシトクロムP450酵素群の解析	2025年3月	日本薬学会第145回年会 福岡
Metabolic engineering of plant-specialized metabolism based on the diversified regulatory mechanisms	2025年3月	第66回日本植物生理学会 金沢
ウマノスズクサが産生するアルカロイド合成に関わる2つのO-メチル基転移酵素の機能解析	2024年9月	日本生薬学会第70回年会 大阪
ケシ科ハナビシソウのイソキノリンアルカロイド合成系を制御するジャスモン酸応答性のGroup IX AP2/ERF転写因子群の解析	2024年8月	第41回 日本植物バイオテクノロジー学会（仙台）大会
アルカロイド生産性ピキア酵母への輸送体導入と微生物共培養系の応用	2024年6月	第18回トランスポーター研究会年会 静岡
III 学会等および社会における主な活動		
2023年6月～現在に至る	トランスポーター研究会世話人	
2023年9月～現在に至る	日本植物バイオテクノロジー学会広報委員	
2024年4月～現在に至る	公益社団法人日本薬学会ファルマシアトピックス小委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬品物理化学研究室	職名	講師	氏名	山崎 俊栄
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2017年～現在 2022年 2022年～現在	物理化学実習（2年次後期）（分担） 生体膜モデル粒子への薬物の分配係数の決定を担当 物理化学II（2年次後期）（分担） WebClassを用いた復習 基礎物理化学（1年次前期）（分担） 講義資料の作成、WebClassを用いた復習、課題プリント		
2	作成した教科書、教材、参考書		該当なし		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日 2024年3月14日 2024年10月28日	FD参加（遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）、WebClass使用実例の紹介） FD参加（学修支援の現状と取り組み） FD参加（授業設計と成績評価について） FD参加（アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習） FD参加（新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み） FD参加（アクティブラーニングについて（その2）、チューター制度について） FD参加（アクティブラーニングについて（その3）） FD参加（OSCEの適正な実施に向けて）		

	2025年3月11日	FD参加 (数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～)
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Azuma R., Yamasaki T., Sano K., Munekane M., Matsuoka Y., Yamada K., Mukai T.	論文	<i>Free Radic. Biol. Med.</i> , 163: 297-305 (2021) A Radioiodinated Nitroxide Probe with Improved Stability against Bioreduction for In Vivo Detection of Lipid Radicals.
Yamasaki T., Matsuda Y., Munekane M., Sano K., Mukai T.	論文	<i>Org. Biomol. Chem.</i> , 20: 7956-7962 (2022) Substituent effects of the phenyl ring at different positions from the $\alpha$ -carbon of TEMPO-type nitroxide.
Yamasaki T., Sano K., Mukai T.	総説	<i>Antioxid. Redox Signal.</i> , 36(10-12): 797-810 (2022) Redox monitoring in nuclear medical imaging.
Azuma R., Yamasaki T., Emoto C. M., Sato-Akaba H., Sano K., Munekane M., Fujii G. H., Mukai T.	論文	<i>Free Radic. Biol. Med.</i> , 194: 114-122 (2023) Effect of relative configuration of TEMPO-type nitroxides on ascorbate reduction.
Azuma R., Yamasaki T., Sano K., Mukai T.	論文	<i>Free Radic. Biol. Med.</i> , 224: 678-684 (2024) Detection of lipid radicals generated via cerebral ischemia/reperfusion injury using a radiolabeled nitroxide probe.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
次亜塩素酸の生体内分布・挙動を非侵襲的に検出する放射性プローブの開発	2024年3月	日本薬学会第144年会
脳虚血再灌流で発生した脂質ラジカル挙動の追跡-放射性ヨウ素標識ニトロキシド化合物を用いた評価-	2024年3月	日本薬学会第144年会
ベンゼン環含有置換基を2位に導入した4-Oxo-TEMPO誘導体のアスコルビン酸との反応性に対するパラ位置置換基効果の検討	2024年3月	日本薬学会第144年会
生体内で産生する次亜塩素酸の検出・解析を指向した放射性プローブの開発	2024年5月	第77回日本酸化ストレス学会・第23回日本NO学会合同学術集会
生体内の脂質炭素ラジカルを検出する放射性プローブの開発～一過性局所脳虚血モデルを用いた評価～	2024年5月	第18回日本分子イメージング学会総会・学術集会

3. その他（講演）		
演題名	発表年・月	学会名
ラジカル化合物の反応性制御と生体計測プローブ・治療化合物への展開	2022年9月	第19回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム (PPF2022)
脂質炭素ラジカルの生体検出を指向した放射性プローブの開発：脳虚血再灌流障害をモデルとした評価	2022年10月	第72回日本薬学会関西支部大会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2006年～現在	日本薬学会会員	
2007年～現在	電子スピンスサイエンス学会会員	
2014年～現在	International EPR Society会員	
2018年～現在	日本核医学会会員	
2019年～現在	日本癌学会会員	
2022年～現在	日本酸化ストレス学会会員	
2024年～現在	日本分子イメージング学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 薬化学研究室	職名 講師	氏名 高木 晃
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2016年10月-現在に至る	薬化学研究室に配属された学生の卒業研究指導を行っている。実験で行うことを薬剤師国家試験と関連付けすることで実験にも興味を持てるように工夫している。
	2017年4月-現在に至る	有機化学実習(学部2年生)を分担しており、実習講義の一部を担当している。実習時間の終わりにディスカッションを行い、実習の目的と実際に行った手順の理解を促進できるように努めている。
	2022年9月-現在に至る	総合薬学講座(学部6年生)の化学を分担しており、講義の1コマを担当している。国家試験で必要な知識と問題を解くためのポイントを効率的に理解できるように努めている。
	2022年4月-現在に至る	薬学入門(1年生)の1コマを担当している。高校の知識で理解できることと、今後の講義で学んでいくことを織り交ぜることで今後の勉強や研究に意欲を持って臨んでもらえるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2021年7月19日	FD研修会「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」、「WebClass使用事例の紹介果」
	2022年3月11日	FD研修会「学修支援の現状と取り組み」

	2022年7月19日	FD研修会「授業設計と成績評価について」
	2023年3月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて」、「ロジカル思考演習」
	2023年5月15日	FD研修会「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2023年10月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて（その2）」、「チューター制度について」
	2024年3月14日	FD研修会「アクティブラーニングについて（その3）」
	2024年10月28日	FD研修会「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025「薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
A. Takagi, K. Usuguchi, I. Takashima, K. Okuda	論文	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> <b>2023</b> , <i>71</i> , 641-649. “Development of 1,3,6-Tribenzoylated Glucose as an Antiausterity Agent Targeting Tumor Microenvironment”
A. Takagi, I. Takashima, K. Okuda	論文	<i>RSC Adv.</i> <b>2025</b> , <i>15</i> , 428-434. “A turn-on fluorescent probe containing a $\beta$ -ketoester moiety for the selective detection of intracellular hydrazine”
S. Moriyama, Y. Emi, T. Nosaki, Y. Morikawa, T. Shigeta, A. Takagi, M. Egi, T. Ikawa, Y. Sawama, S. Akai	論文	<i>Synlett</i> <b>2025</b> , <i>36</i> , 1413-1417. “Total Synthesis of Aloin by Regioselective Diels–Alder Reactions Connecting Two 3-Silylbenzynes and a 2-Stannylfuran”
K. Okuda, A. Takagi, R. Shimizu, K. Nishi, N. Hayano, I. Takashima, M. Konishi	論文	<i>ChemMedChem</i> <b>2025</b> , <i>20</i> , e202400818. “Total Synthesis of Antiausterity Agent Callistrilone O Reveals Promising Antitumor Activity in a Melanoma Homograft Mouse Model”
K. Usuguchi, A. Takagi, I. Takashima, K. Okuda	論文	<i>RSC Adv.</i> <b>2025</b> , <i>15</i> , 20734-20744. “Elucidation of the acid reactivity of polyhedral orthoformates for the synthesis of carbasugar derivatives”
2. 学会発表		

演題名	発表年・月	学会名
アノマー位水酸基を活用したグルコースの位置選択的アシル化反応の開発	2024年9月	第43回日本糖質学会年会
ブラシノキより見出された固形がんの栄養飢餓耐性解除能を有するcallistrilone 0の全合成	2025年2月	第25回菅原大西記念癌治療増感シンポジウム
遷移金属触媒を用いた5-ヒドロキシトリアゾール変換法の開発	2025年3月	日本薬学会第145年会
ワンポット反応による $\alpha$ -D-グルコースの6位2位連続的アシル化法の開発	2025年3月	日本薬学会第145年会
$\beta$ グルコース選択的アシル化法を利用したエラジタンニン類の合成	2025年3月	日本薬学会第145年会
3. その他		
演題名	発表年・月	学会名
III 学会等および社会における主な活動		
2009年～現在に至る	日本薬学会会員	
2009年～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2017年～現在に至る	国際癌治療増感研究協会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	製剤学研究室	職名	講師	氏名	田中 晶子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				
	アクティブラボ	2018年4月～	3年次生を対象に薬物動態関連の研究を行い、研究の面白さと研究室の雰囲気を感じてもらうように工夫している。		
	製剤学・薬剤学実習	2018年4月～	3年次生後期の薬剤学・製剤学実習において、製剤試験法についての指導を行っている。教科書で学んだことを実際自分の手で行うことにより、より深く理解できるようにしている。		
	卒業研究	2018年4月～	製剤学研究室に配属された4、5、6年次生に対し、卒業研究の指導を行っている。卒業研究を通して、問題解決能力・プレゼンテーション能力等を養うことができるように指導している。		
	創薬物理薬剤学	2021年4月～	物理薬剤学について授業を行っている。教科書のポイントをまとめ、重要単語を記入できるように工夫したパワーポイントを用いて授業を行っている。		
	社会薬学Ⅱ	2023年4月～	レギュラトリーサイエンスについて授業を行っている。薬が市場にでるまで、そして、市場にでたあとの法規制などを学ぶ。教科書のポイントをまとめ、重要単語を記入できるように工夫したパワーポイントを用いて授業を行っている。		
2	作成した教科書、教材、参考書				
	特になし				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
	特になし				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
	FD研修	2021年7月19日	「遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）」 「WebClass使用事例の紹介」		

	2022年3月11日	「学修支援の現状と取り組み」
	2022年7月19日	「授業設計と成績評価について」
	2023年3月16日	「アクティブラーニングについて」 「ロジカル思考演習」
	2023年5月15日	「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2023年10月16日	「アクティブラーニングについて（その2）」 「チューター制度について」
	2024年3月14日	「アクティブラーニングについて（その3）」
	2024年10月28日	「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025年3月11日	「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Hatakawa Y., Tanaka A., Furubayashi T., Nakamura R., Konishi M., Akizawa T., Sakane T.	論文	Pharmaceutics., 2021, 13, 1673. "Direct Delivery of ANA-TA9, a Peptide Capable of Aβ Hydrolysis, to the Brain by Intranasal Administration"
Tanaka A., Nakano H., Yoneto K., Yoneto C., Furubayashi T., Suzuki K., Okae A., Ueno T., Sakane T.	論文	Biol. Pharm. Bull., 2022, 45(4), 403-408. "Topical xerostomia treatment with hyaluronate sheets containing pilocarpine."
Suzuki-Mishima K., Tanaka A., Kato-Kogoe N., Yamanegi K, Hirata A., Yoneto K., Yoneto C., Hamada	論文	Journal of Hard Tissue Biology, 2023, 32, 223-230. "Topical Administration of Freeze-Dried Sheets of Hyaluronic Acid Promotes the Healing of Oral Mucositis in a Hamster Model"

Tanaka A., Kiriya A., Sano A., Cho C., Katsumi H., Yamamoto A., Furubayashi T.	論文	J. Pharm. Sci., 2024, 113, 2633-2640 "Left-Right Difference in Brain Pharmacokinetics Following Nasal Administration Via One-Site Nostrils"
Seino S, Ikehata H, Tanabe M, Umeda T, Tomiyama T, Tanaka A, Furubayashi T, Sakane T, Kiwa T, Washino M, Nomura K, Tonooka S, Izawa A, Okumura Y, Nakagawa T.	論文	J. Control Release., 2024, 367, 515-521. "Investigating the efficacy of nasal administration for delivering nanoparticles into the brain for magnetic particle imaging"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
口腔粘膜炎に対するヒアルロン酸シートの治癒効果	2024年5月	日本薬剤学会第39年会
鼻腔内投与後の薬物の脳内移行性：Microdialysis法による評価	2024年5月	日本薬剤学会第39年会
Oxytocin 鼻腔内投与後の脳内動態に対するGlymphatic System の影響	2024年7月	第40回日本DDS学会学術集会
ビタミンEとビタミンCの誘導体を用いた薬物の経皮吸収性評価	2025年5月	日本薬剤学会第40年会
鼻腔における粉末製剤の溶出性及び膜透過性評価	2025年5月	日本薬剤学会第40年会
3. その他		
招待講演		
Topical xerostomia treatment with hyaluronate sheets containing pilocarpine	2022年4月	The 2nd Annual Meeting of the International Society of Oral Care
ヒアルロン酸シートを用いたDDSによる口腔内疾患治療法の開発	2024年11月	第31回日本未病学会学術総会
中分子ペプチドの鼻から脳への移行特性	2025年2月	日本薬剤学会（経肺経鼻投与製剤FG研究会）

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2010年10月～現在に至る	日本薬学会会員
2011年3月～現在に至る	日本薬剤学会会員
2015年3月～現在に至る	日本DDS学会会員

専任教員の教育・研究業績

所属 衛生化学	職名 講師	氏名 中山 啓
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 衛生薬学実習 衛生薬学III	2021年4月～現在 2021年4月～現在 他3件	実習に関しては、各項目ごとにディスカッションを行い、思考力の向上につながるように努めている。講義課目に関しては、学ぶべきポイントをとらえやすくできるように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書 衛生薬学実習実習書 授業用プリント	2021年4月～現在 2021年4月～2023年4月	衛生薬学実習の手順書を作成した。 衛生薬学IIIで用いる授業プリントを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	以下のFD研修へ参加 2021年7月19日 2022年3月11日 2022年7月19日 2023年3月16日 2023年5月15日 2023年10月16日	遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）・WebClass使用事例の紹介 学修支援の現状と取り組み 授業設計と成績評価について アクティブラーニングについて・ロジカル思考演習 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み アクティブラーニングについて（その2）・チューター制度について
II 研究活動		

1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Mari Kondo, Haruka Okazaki, Kei Nakayama, Hirofumi Hohjoh, Kimie Nakagawa, Eri Segi-Nishida, Hiroshi Hasegawa	論文	“Characterization of Astrocytes in the Minocycline-Administered Mouse Photothrombotic Ischemic Stroke Model.” <i>Neurochemical Research</i> 47: 2839-2855, 2022.
Kei Nakayama, Takeshi Yoshida, Yoshiaki Nakayama, Noriaki Iguchi, Yuta Namba, Morichika Konishi, Hiroshi Hasegawa	論文	“Activation of macrophages mediates dietary restriction-induced splenic involution.” <i>Life Sciences</i> 310: 121068, 2022.
Hiroshi Hasegawa, Mari Kondo, Kei Nakayama, Tomoko Okuno, Nobuyuki Itoh, Morichika Konishi.	論文	“Testicular Hypoplasia with Normal Fertility in Neudesin-Knockout Mice.” <i>BPB</i> 45: 1791-1797, 2022.
Hiroshi Hasegawa, Kei Nakayama.	論文	“Starvation-Induced Involution of Lymph Node in Mice.” <i>BPB Rep.</i> 5: 133-136, 2022
Kei Nakayama, Mari Kondo, Tomoko Okuno, Nurhanani Razali, Hiroshi Hasegawa	論文	“Different Properties of Involved Thymus upon Nutritional Deficiency in Young and Aged Mice.” <i>BPB</i> , 46, 464-472, 2023
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
低栄養による脾臓退縮にはマクロファージが関与する	2022年3月	日本薬学会第142年会 (口頭)
低栄養による脾臓退縮における遺伝子発現の網羅的解析	2022年8月	フォーラム2022衛生薬学・環境トキシコロジー (口頭)
ストレス負荷によって退縮する胸腺での組織血管化	2022年11月	第45回日本分子生物学会年会 (口頭)
拘束ストレス負荷による胸腺退縮において胸腺内血管は変化する	2023年3月	日本薬学会第143年会 (口頭)
ストレス負荷により誘導される胸腺退縮における組織内変化	2023年9月	フォーラム2023 衛生薬学・環境トキシコロジー
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2005年～	日本分子生物学会会員	
2015年～	日本神経科学学会会員	
2018年～	北米神経科学学会会員	
2021年～	日本薬学会会員	

中山 啓

2024年～	日本毒性学会会員
--------	----------

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬剤学研究室	職名	講師	氏名	森下 将輝
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2024年～ 2024年～  2024年～  2024年～ 2024年～  2025年～	<p>薬物動態学I（3年生前期）</p> <p>総合薬学講座（6年生通年） 上記科目に関して、薬学に固有の学問である生物薬剤学を担当している。薬物の生体内運命について教科書の知識に加え、臨床で実際に扱われる事例を組み入れる講義設計をしている。また、学生の知識の定着を目的として国家試験の過去問題の解説も行っている。</p> <p>薬剤学実習（3年生後期） 実験やレポート作成を通して、生物薬剤学に関する知識の定着を図っている。一人ひとりの学生に適宜声掛けをし、実習の理解度に合わせた進行をするよう努めている。</p> <p>アクティブラボ（1～3年生通年）</p> <p>卒業研究（4～6年生通年） 上記科目に関して、研究活動での技術指導やデータ討論の場を提供して課題設定能力および解決能力の醸成を図っている。また、論文精読の機会も設け学生が研究に関する最新知識を獲得できるよう注力する。</p> <p>薬学入門（1年生前期） 薬物動態学/臨床薬剤学の観点から、薬物の生体内運命を講義した。初年次教育の一環であるため、専門用語を避けつつ薬学全体における本項目の位置づけが良く伝わるように、また他科目との繋がりを適宜交えながら解説を行った。</p>		
2	作成した教科書、教材、参考書				

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
M Morishita, H Katsumi, A Yamamoto.	論文	Yakugaku Zasshi, 143, 365-368, (2023). Effect of probiotic-derived extracellular vesicles on innate immunity and their usability.
M Morishita, R Nagata, K Maruoka, A Higuchi, S Sasaki, S Wada, H Katsumi, A Yamamoto.	論文	Biol. Pharm. Bull., 46, 1427-1434, (2023). Lymphatic transport and immune activation effect by locally administered extracellular vesicles from Saccharomyces cerevisiae as biocompatible vaccine adjuvants.
M Morishita, M Kida, T Motomura, R Tsukamoto, M Atari, K Higashiwaki, K Masuda, H Katsumi, A Yamamoto.	論文	Mol. Pharm., 20, 6104-6113, (2023). Elucidation of the tissue distribution and host immunostimulatory activity of exogenously administered probiotic-derived extracellular vesicles for immunoadjuvant.
M Morishita, M Makabe, C Shinohara, A Fukumori, S Morita, Y Terada, S Miyai, H Katsumi, A Yamamoto.	論文	Int. J. Pharm., 661, 124410, (2024). Versatile functionalization of Bifidobacteria-derived extracellular vesicles using amino acid metabolic labeling and click chemistry for immunotherapy.
M Morishita, M Atari, K Masuda, K Higashiwaki, C Sakata, T Waku, H Katsumi, A Yamamoto.	論文	Biol. Pharm. Bull., 48, 986-993, (2025). Optimizing prebiotic saccharides in culture medium for the Bifidobacteria-derived extracellular vesicles as biomaterial immunoadjuvant
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名

ビフィズス菌のアミノ酸代謝機構とclick chemistryを利用した細胞外小胞への分子搭載方法の開発と製剤化	2023年5月	日本薬剤学会第38年会
ビフィズス菌の代謝機構とアジド-アルキン反応を利用した細胞外小胞への分子搭載方法の開発と製剤化	2023年7月	日本バイオマテリアル学会関西ブロック 第18回若手研究発表会
プロバイオティクス由来細胞外小胞の有用性評価と高機能化	2024年1月	第31回次世代医工学研究会
生体直交型反応を基盤とするプロバイオティクス由来細胞外小胞の機能改変と免疫療法への応用 ―ハイドロゲル化と免疫賦活性評価―	2024年10月	第74回 日本薬学会関西支部総会・大会
Characterizing the Usefulness of Probiotic-derived Extracellular Vesicles and the Development of Functional Modification Technology for Immunotherapy Applications	2025年3月	Exosome: The Experts' talks
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2012年3月～現在	日本薬学会 会員	
2012年3月～現在	日本DDS学会 会員	
2015年3月～現在	日本薬剤学会 会員	
2021年4月～2022年5月	日本薬剤学会第37年会 組織委員	
2025年5月～	日本薬剤学会第41年会 組織委員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属 英語第3研究室	職名 講師	氏名 友繁 有輝
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
英語 I & II	2025年4月～現在に至る	英語 I & IIは、自然科学系のトピックを選別し、リーディング力から発信力を強化できるよう授業を構成。講義は基本的に英語で行うことで「英語を英語で理解する」よう促している。この授業スタイルの意義は、文法や単語などの知識はあるが、英語を使うことへの不安感を取り除く意味合いがある。リーディングの受動的な授業スタイルではなく、できるだけ内容に基づく意見を英語で述べるができるよう課題でエッセイを作成し、授業内で発表する活動を取り入れている。エッセイ作成時には、AI (chatGPT, deepl, wordtune, grammarlyなどの)利用を促し、新たな表現・単語の構築を目指している。
英語 III & IV	2025年4月～現在に至る	英語 III& IVは、医学系の英語を映画を通して学習できる教科書を使用し、医学英語・リーディング力・発信力を鍛えられるよう授業を構成。講義は基本的に英語で行うことで、難解な単語であったとしても、知っている単語で「英語を英語で理解する」ことを促す目的と、学生自身の英語へのハードルを下げる意味合いがある。また課題でリーディングに基づく自分の意見をエッセイとして書くことで、インプットとアウトプットのバランスを考えて授業を構成している。
2 作成した教科書、教材、参考書 スライド、プリントの作成	2025年4月～現在に至る	授業で使用する補助教材（スライド・プリント）の作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		
海外薬学研修	2025年4月～現在に至る	8/7～8/8 のアリゾナ大学の学生との交流支援。
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
友繁 有輝	論文	友繁有輝. (2021). 「レーガンとトランプの就任演説における反復のレトリック分析」『文体論研究』第67号, 53-68. 日本文体論学会.
Yuuki Tomoshige	論文	Yuuki Tomoshige. (2022). On American Presidential Metaphor and as if Constructions in the Corpus of Political Speeches. Journal of Language and Culture. Vol. 31. Society for the Study of Language and Culture: Osaka University.
Yuuki Tomoshige	論文	Yuuki Tomoshige. (2022). George H. W. Bush's Metaphor in Speeches Delivered in 1989: How Freedom Is Metaphorized in Speaking of Freedom. 2021 Osaka University Department Language and Culture, English and Japanese Rhetoric.
Yuuki Tomoshige	論文	Yuuki Tomoshige. (2024). The CARD Metaphor 'Play the X Card' as a Social Practice and Its Pragmatic Functions. In Robert Butler (eds.) Political Discourse Analysis: Legitimation Strategies in Crisis and Conflict. Edinburgh University Press.
友繁 有輝	論文	友繁有輝. (2025). 「岸田文雄首相の施政方針演説 (2022-2024) におけるレトリック分析」『国際学研究』14 (1), 181-192. 関西学院大学国際学部研究会.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
X Is the New Y, X Is the New Black, and Orange Is the New Black: Social Change and Metonymic Extensions.	2021年8月	11th International Conference on Construction Grammar. General Session. University of Antwerp, Belgium.

The Play the X Card as a Social Practice and Identity Politics.	2022年3月	International Conference at The University of Lorraine. Political Discourse: New Approaches to New Challenges. University of Lorraine, Nancy
A Building Metaphor and A Construction of Political Reality in the U.S. Inaugural Addresses (1960-2021)	2022年9月	15th Researching and Applying Metaphor Conference. University of Bialystok, Poland
Metaphors and Repetition in the First U.S. Inaugural addresses (1960 - 2021)	2023年8月	16th International Cognitive Linguistics Conference. Heinrich Heine University, Düsseldorf.
Donald Trump's "Stupid X" Construction as a Rhetorical Strategy in Political Discourse (2017-2021)	2024年9月	Cognitive Linguistics in the Year 2024. University of Silesia, Katowice
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2016年4月～現在に至る	日本認知言語学会会員	
2018年4月～現在に至る	日本語用論学会会員	
2018年4月～現在に至る	日本文体論学会会員	
2020年4月～現在に至る	International cognitive linguistic association会員	
2022年4月～現在に至る	Researching and Applying Metaphor会員	

専任教員の教育・研究業績

所属	機能性分子化学研究室	職名	助教	氏名	寶田 徹
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				
	生物物理化学(3年次前期：3コマ担当)	2022年～現在	生体分子の化学修飾やその同定技術についてのオンデマンド講義を実施した。		
	基礎物理化学実習（2年次前期）	2023年～現在	タンパク質の熱力学的安定性評価を担当した。講義資料の作成や実習の指導を行なった。		
	薬学入門（1年次前期：0.5コマ担当）	2024年～現在	核酸やタンパク質などの生体分子の特性を利用した機能性材料について、その基礎知識や具体的な応用事例を紹介した。		
2	作成した教科書、教材、参考書				
	基礎物理化学実習書	2022年～現在	継続して改訂している		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
			なし		
4	その他教育活動上特記すべき事項				
	FDへの参加状況	2021年7月19日	遠隔授業の効果的な実施方法について（webclassの利用について）		
		2022年3月11日	学習支援の現状と取り組み		
		2022年7月19日	授業設計と成績評価について		
		2023年3月16日	アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習		
		2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み		
		2023年10月16日	アクティブラーニングについて（その2）		
		2024年3月14日	アクティブラーニングについて（その3）		

	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて
	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～
	2025年7月22日	統括部門における教学IRの取り組みについて
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Masafumi Tanaka, Toru Takarada, Satomi Nadanaka, Risa Kojima, Kimiko Hosoi, Yuki Machiba, Hiroshi Kitagawa	論文	Influences of amino-terminal modifications on amyloid fibril formation of human serum amyloid A <i>Archives of Biochemistry and Biophysics</i> . 742 (1) 109615 (2023)
Emiko Sonoda-Fukuda, Yuya Takeuchi, Nao Ogawa, Shunsuke Noguchi, Toru Takarada, Noriyuki Kasahara, Shuji Kubo	論文	Targeted Suicide Gene Therapy with Retroviral Replicating Vectors for Experimental Canine Cancers <i>International Journal of Molecular Science</i> , 25(5): 2657 (2024)
Masakazu Fukuda, Kanako Takahashi, Toru Takarada, Shunsuke Saito, Masafumi Tanaka	論文	Synergistic effect of cyclodextrins and electrolytes at high concentrations on protein aggregation inhibition <i>Journal of Pharmaceutical Sciences</i> , 113(12): 3543-3553 (2024)
Masakazu Fukuda, Shino Nagae, Toru Takarada, Satoshi Noda, Shin-Ya Morita, Masafumi Tanaka	論文	Potential risk factors of protein aggregation in syringe handling during antibody drug dilution for intravenous administration <i>Journal of Pharmaceutical Sciences</i> , 114(3): 1625-1638 (2025)
Toru Takarada, Rikako Fujinaka, Masaki Shimada, Masakazu Fukuda, Toshiyuki Yamada, Masafumi Tanaka	論文	Effect of N-glycosylation on secretion, degradation and lipoprotein distribution of human serum amyloid A4 <i>Biochim Biophys Acta Mol Cell Biol Lipids</i> . 1870(2): 159588 (2025)
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
血清アミロイドA4におけるN型糖鎖の細胞外分泌やタンパク質分解に及ぼす影響	2023年10月	第96回日本生化学会大会（福岡）
血清アミロイドA4の生理機能解明を目指した相互作用タンパク質の解析	2024年3月	日本薬学会第144年会（横浜）

血清アミロイドA4のN型糖鎖修飾に及ぼすアミノ酸配列の影響	2024年11月	第97回日本生化学会大会（横浜）□
血清アミロイドA4の発現に及ぼす脂肪滴蓄積および細胞老化の影響	2025年3月	日本薬学会第145年会（福岡）□
肝細胞老化と脂肪滴蓄積が血清アミロイドA4発現に及ぼす影響	2025年5月	第71回 日本生化学会近畿支部例会（和歌山）□
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2013年5月～	日本質量分析学会 正会員	
2019年～	日本薬学会 正会員	
2023年～	日本生化学会 正会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	生命有機化学研究室	職名	助教	氏名	平田翼
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2022年4月～現在	「有機分析学実習（旧：機器分析学実習）」を担当している。有機化合物の分析を目的とする物質の定性・定量に関する基本的事項を修得させる。実際の実験や分析の操作を通して、これまでの学習内容をより深く理解できるよう、学生との議論に重点を置いている。		
		2022年4月～現在	「卒業研究」を担当している。生命有機化学研究室に配属された4～6年生を対象に、研究指導を行っている。研究活動における実験の考察と議論を通して、論理的思考力や課題解決力の養成を図っている。		
		2022年4月～現在	選択科目「アクティブ・ラボ」を担当している。本学1～3年生を対象に、有機合成化学実験における基本的な実験操作や実験結果に対する考察の仕方を指導している。特に、研究活動の魅力を伝えられるように指導している。		
2 作成した教科書、教材、参考書		2022年～現在	「有機分析学実習（旧：機器分析学実習）」の実習書を毎年改訂して作成している。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		2023年11月11日 2023年11月18日	薬学への誘い 明石北高校・小野高校・長田高校・市立西宮高校・姫路東高校 (研究紹介・カフェイン実習)		

	2022年7月19日	FD研修会参加 授業設計と成績評価について (FD研修会)
	2023年3月16日	FD研修会参加 アクティブラーニングについて、ロジカル思考演習
	2023年5月15日	FD研修会参加 新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み
	2023年10月16日	FD研修会参加 アクティブラーニングについて(その2)、チューター制度について
	2024年3月14日	FD研修会参加 アクティブラーニングについて(その3)、ルーブリック評価について
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Tsubasa Hirata, Io Sato, Yasuhiro Yamashita, Shū Kobayashi*	論文	Asymmetric C(sp <sup>3</sup> )-H Functionalization of Unactivated Alkylarenes such as Toluene Enabled by Chiral Brønsted Base Catalysts Commun. Chem. 2021, 4, 36.
Tsubasa Hirata, Yoshihiro Ogasawara, Yasuhiro Yamashita, Shū Kobayashi*	論文	$\alpha$ -Alkylation of Ketones with Alkenes Enabled by Photoinduced Activation of Silyl Enol Ethers in the Presence of a Small Amount of Water Org. Lett. 2021, 23, 5693-5697.
Tsubasa Hirata, Yoshihiro Ogasawara, Shū Kobayashi,* Yasuhiro Yamashita*	論文	Photocatalytic Addition Reactions of Ketene Silyl Acetals with Alkenes through Formation of $\alpha$ -Carbonyl Radicals Chem. Asian J. 2022, 17(19), e202200647.
Tsubasa Hirata, Tomoya Hisada, Yoshihiro Ogasawara, Shū Kobayashi,* Yasuhiro Yamashita*	論文	Development of Photoredox-assisted Direct $\alpha$ -Alkylation Reactions of Ketones with Arylalkenes using a Catalytic Amount of LiOtBu as a Brønsted Base Helv. Chim. Acta, 2023, e202300139.

Tsubasa Hirata,* Ayumi Ikegami, Manabu Hatano*	論文	Photocatalytic Regioselective Hydrofunctionalization of 1,4-Diaryl-1,3-butadienes Using O-, N-, and C-Nucleophiles Asian J. Org. Chem. 2023, 12, e202300486.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
塩化亜鉛触媒とGrignard反応剤を用いる芳香族ニトリルへのアルキル付加反応	2023年8月	日本プロセス化学会2023サマーシンポジウム
光触媒を用いる1,4-ジアリールブタジエンへの位置選択的付加反応の開発	2023年10月	第73日本薬学会関西支部総会・大会
Chemoselective Triflation of Phenols Using N-Trifluoromethanesulfonylimidazole	2023年11月	The 15th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry
有機光触媒を用いる1,4-ジアリール-1,3-ブタジエンへのO-, N-, およびC-求核剤による位置選択的ヒドロ官能基化反応	2023年11月	第16回有機触媒シンポジウム
N-トリフルオロメタンスルホニルイミダゾールを用いる高化学選択的トリフルル化反応	2024年3月	日本化学会第104回春季年会
III 学会等および社会における主な活動		
2018年4月～現在に至る	日本化学会会員	
2019年6月～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2021年10月～現在に至る	日本薬学会会員	
2023年4月～現在に至る	日本プロセス化学会会員	

## 専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名
医薬細胞生物学研究室	助教	市野 琢爾
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 本学薬学部学生への教育（講義・実習）	2023年5月～現在に至る	本学2年生対象の「細胞生物学実習」にて、顕微鏡の使用方法や、動物・植物の組織観察の方法について講義形式の説明と技術的な指導を行った。
	2023年8月～現在に至る	本学2年生、3年生対象の「アクティブラボ」にて、植物培養細胞の継代、薬効成分の生産誘導、顕微鏡の使用方法について指導を行った。
	2025年7月～現在に至る	本学6年生対象の「総合薬学講座I」にて、細胞の構造と機能についての講義形式の説明と問題演習および解説を行った。
(2) 本学薬学部学生への研究指導	2023年5月～現在に至る	研究室に配属された学部学生に対して卒業研究指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書		
	2023年8月～現在に至る	アクティブラボ用実習書の作成（分担）
	2024年1月～現在に至る	細胞生物学実習用実習書の作成（分担）
	2025年6月～現在に至る	総合薬学講座Iの講義用資料の作成（分担）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項		
	2023年5月15日	FD研修会「新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み」
	2023年10月16日	FD研修会「アクティブラーニングについて（その2）」、「チューター制度について」

	2024年3月14日	FD研修会「アクティブラーニングについて（その3）」
	2024年10月28日	FD研修会「OSCEの適正な実施に向けて」
	2025年3月11日	FD研修会「数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～」
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Takuji Ichino, Kanade Tatsumi, Yuka Munakata, Ai Tsuboyama, Eiko Moriyoshi, Masaru Nakayasu, Kojiro Takanashi, Koichiro Shimomura, Kazufumi Yazaki	論文	"Characterization of two G-type half-size ABC transporter genes from the lipid-secreting medicinal plant <i>Lithospermum erythrorhizon</i> " Journal of Plant Research, <i>in press</i> (2025), DOI: 10.1007/s10265-025-01651-7
Kohei Nakanishi, Hao Li, Takuji Ichino, Kanade Tatsumi, Keishi Osakabe, Bunta Watanabe, Koichiro Shimomura, Kazufumi Yazaki	論文	"Peroxisomal 4-coumaroyl-CoA ligases participate in shikonin production in <i>Lithospermum erythrorhizon</i> " Plant Physiology, 195 (4), pp2843-2859 (2024), DOI: 10.1093/plphys/kiae157
Kanade Tatsumi, Takuji Ichino, Natsumi Isaka, Akifumi Sugiyama, Eiko Moriyoshi, Yoza Okazaki, Yasuhiro Higashi, Masataka Kajikawa, Yoshinori Tsuji, Hideya Fukuzawa, Kiminori Toyooka, Mayuko Sato, Ikuyo Ichi, Koichiro Shimomura, Hiroyuki Ohta, Kazuki Saito, Kazufumi Yazaki	論文	"Excretion of triacylglycerol as a matrix lipid facilitating apoplastic accumulation of a lipophilic metabolite shikonin" Journal of Experimental Botany, 74 (1), pp104-117 (2023), DOI: 10.1093/jxb/erac405
Shingo Kiyoto, Takuji Ichino, Tatsuya Awano, Kazufumi Yazaki	論文	"Improved chemical fixation of lipid-secreting plant cells for transmission electron microscopy" Microscopy (Oxf), 71 (4), pp206-213 (2022), DOI: 10.1093/jmicro/dfac018

Takuji Ichino, Kazufumi Yazaki	総説	"Modes of secretion of plant lipophilic metabolites via ABCG transporter-dependent transport and vesicle-mediated trafficking" Current Opinion in Plant Biology, 66, 102184 (2022), DOI: 10.1016/j.pbi.2022.102184
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
脂質を分泌する薬用植物ムラサキから単離した2つのABCG輸送体の解析	2024年6月	第18回トランスポーター研究会年会
Lipid transfer protein facilitates apoplasmic secretion of lipophilic specialized metabolites by interacting with the biosynthetic enzyme in a boraginaceae medicinal plant	2024年4月	EMBO   EMBL Symposium: Diversity of plants: from genomes to metabolism
ムラサキにおける細胞外ナフトキノンと分泌型ペルオキシダーゼの生理的役割	2023年3月	第64回日本植物生理学会年会
薬用植物ムラサキにおける2つのハーフサイズABCG輸送体の解析	2022年9月	第39回日本植物バイオテクノロジー学会（堺）大会
ムラサキにおけるシコニン分泌機構の解明と植物の輸送能力の改変にむけた利用	2021年9月	第33回植物脂質シンポジウム
III 学会等および社会における主な活動		
2010年～現在	日本植物生理学会会員（2024年神戸年会における年会委員）	
2017年～現在	日本植物バイオテクノロジー学会会員（2025年神戸大会における大会実行委員）	
2022年～現在	日本農芸化学会会員	
2022年～現在	日本植物脂質科学研究会会員	
2023年6月～現在	生薬分析シンポジウム幹事（事務局）	
2023年7月～現在	日本薬学会会員	

市野

2023年10月～現在	日本生薬学会会員
2024年6月～現在	トランスポーター研究会幹事

## 専任教員の教育・研究業績

所属	生化学研究室	職名	助教	氏名	小池 敏靖
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2023年4月-現在に至る	卒業研究（4、5、6年生）：生化学研究室に配属された学生の卒業研究指導を行っている。実験やディスカッションを通して、正確な手技や論理的思考を身につけてもらえるように指導している。			
	2023年8月-現在に至る	アクティブラボ（3年生）：糖鎖の研究を行い、研究内容に興味を持ってもらうとともに、研究室の雰囲気を感じてもらえるように行っている。			
	2023年10月-現在に至る	生命科学実習（2年生）：実習講義の一部と実習指導の全般を行っている。手技の確認やディスカッション時に工程の意味を再確認することで、内容の理解が深まるようにしている。			
	2024年6月-現在に至る	総合薬学講座（6年生）：生物の2コマを担当している。担当分野の重要な点をその場で理解できるようなスライドを作り、授業に取り入れている。			
	2025年6月-現在に至る	薬学入門（1年生）：0.5コマを担当し、病気に関わる糖鎖について講義を行っている。1年生の科目のため、平易な内容のスライドを作成し、分かりやすく楽しく講義をすることを心掛けている。			
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)	2023年5月15日	新カリキュラムで実施した教育上の新しい試み			
	2023年10月16日	アクティブラーニングについて（その2） チューター制度について			
	2024年3月21日	アクティブラーニングについて（その3）			
	2024年10月28日	OSCEの適正な実施に向けて			
	2025年3月11日	数理・データサイエンス・AI教育 FDシンポジウム 2025 ～薬学部における数理・データサイエンス・AI教育の現状と展望～			
II 研究活動					

1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Nogawa, M., Watanabe, N., Koike, T., Fukuda, K., Ishiguro, M., Fujino, H., Hirayama, J., Shiba, M., Handa, M., Mori, T., Okamoto, S., Miyata, S., and Satake, M.	論文	Transfusion (2022) 62, 2304-13 Hemostatic function of cold-stored platelets in a thrombocytopenic rabbit bleeding model.
Koike, T., Mikami, T., Tamura, J., and Kitagawa, H.	論文	Nature Communications (2022) 13, 7952 Altered sulfation status of FAM20C-dependent chondroitin sulfate is associated with osteosclerotic bone dysplasia.
Koosha, E., Brenna, C., Ashique, AM., Jain, N., Ovens, K., Koike, T., Kitagawa, H., and Eames, BF.	論文	Development (2024) 151 (2), dev201716 Proteoglycan inhibition of canonical BMP-dependent cartilage maturation delays endochondral ossification.
Nadanaka, S., Koike, T., and Kitagawa, H.	論文	Proteoglycan Research (2024) 2 (1), e15 Chondroitin sulfate proteoglycan promotes APRIL - induced tumor cell proliferation.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
コンドロイチン硫酸4S による骨芽細胞分化抑制機構	2024年・5月	第70回生化学会近畿支部例会
統合失調症に関するコンドロイチン 6-O-硫酸基転移酵素-1KO マウスの解析 —パルプアルブミン陽性細胞における ErbB4及びリン酸化ErbB4—	2024年・10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会
FAM20A 欠損による石灰化機序の解明	2024年・10月	第74回日本薬学会関西支部総会・大会
骨芽細胞分化を制御するコンドロイチン硫酸	2024年・11月	第94回生化学会大会
FAM20A 欠損により生じる異所性石灰化と歯肉過形成	2025年・5月	第71回生化学会近畿支部例会
Ⅲ 学会等および社会における主な活動		
2015年4月～現在	日本輸血細胞治療学会会員	

小池

2022年7月～現在	糖質学会会員
2022年7月～現在	生化学会会員
2023年5月～現在	薬学会会員

## 専任教員の教育・研究業績

所属	薬品化学研究室	職名	助教	氏名	山田 孝博
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				
	医薬品化学実習	2024年4月～現在	3年次の「医薬品化学実習」を担当している。医薬品合成を実施し、合成実験とディスカッションを通して基本的な化学反応を理解してもらえるように努めている。		
	薬学入門	2024年4月～現在	1年次の「薬学入門」を担当しており、医薬品有機化学の観点から薬学の入門的内容の講義を行っている。		
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項				
II 研究活動					
1. 著書・論文等					
氏名		種別	内容		
Yamada T., Hashimoto Y., Tanaka K. III, Morita N., Tamura O.		論文	Org. Lett., 2021, 23(5), 1659-1663. "Palladium(II)-Catalyzed Substituted Pyridine Synthesis from $\alpha$ , $\beta$ -Unsaturated Oxime Ethers via a C-H Alkenylation/Aza-6 $\pi$ -Electrocyclization Approach"		
Yamada R., Sakata K., Yamada T.		論文	Org. Lett., 2022, 24(9), 1837-1841. "Electrochemical Synthesis of Substituted Morpholines via a Decarboxylative Intramolecular Etherification"		

Yamada T., Tanaka K. III, Hashimoto Y., Morita N., Tamura O.	論文	Adv. Synth. Catal., 2023, 365(18), 3138-3148. "Electrophilic C3-H Alkenylation of 2,6-Dialkoxypyridine Derivatives via Pd(II)/Tl(III) Reaction System"
Yano T., Yamada T., Ishida H., Ohashi N., Itoh T.	論文	RSC Adv., 2024, 14, 6542-6547. "2-Cyanopyridine derivatives enable N-terminal cysteine bioconjugation and peptide bond cleavage of glutathione under aqueous and mild conditions"
Yamada T.	論文	Org. Lett., 2024, 26(25), 5358-5363. "Iron-Catalyzed C-H Alkylation of Tyrosine Derivatives"
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
塩化鉄を用いるチロシン選択的C-Hアミノ化反応の開発	2023年・3月	日本薬学会第143年会
Electrophilic C3-H Alkenylation of 2,6-Dialkoxypyridine Derivatives via Pd(II)/Tl(III) Reaction System	2023年・7月	22nd European Symposium on Organic Chemistry
Pd(II)/Tl(III)協奏触媒系を用いたピリジン誘導体のC3-Hアルケニル化反応の開発	2023年・11月	第40回メディシナルケミストリーシンポジウム
Electrophilic C3-H Alkenylation of 2,6-Dialkoxypyridine Derivatives via Pd(II)/Tl(III) Reaction System	2024年・5月	第22回次世代を担う有機合成シンポジウム
塩化鉄を用いるチロシン選択的C-Hアミノ化反応の開発	2024年・11月	第125回有機合成シンポジウム
III 学会等および社会における主な活動		
2018年4月～現在に至る	有機合成化学協会会員	
2023年3月～現在に至る	日本薬学会会員	
2023年3月～現在に至る	日本化学会会員	

(朝倉)

## 専任教員の教育・研究業績

所属	臨床薬学研究室	職名	助教	氏名	朝倉 絢子
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2024年4月-  2024年4月-	臨床薬学研究室に配属された4-6年生を対象に、卒業研究の個別指導を担当している。研究成果のまとめ方やプレゼンテーション技術の指導およびディスカッションを行い、科学的コミュニケーション能力の向上にも取り組んでいる。  臨床薬学実習を担当している。VR技術を活用して解剖学の理解促進に取り組み、視覚的・空間的な学習を通じて知識の定着を図っている。また基本的診療技術についてはフィジコを用いて実践的なトレーニングを行い、学生の主体的な学びを促す指導法に努めている。		
2	作成した教科書、教材、参考書				
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		以下のFD研修に参加している。 2024/3/14 FD研修会 アクティブラーニングについて(その3) 2025/10/28 FD研修会 OSCEの適正な実施に向けて 2025/3/11 FD研修会 数理・データサイエンス・AI教育FDシンポジウム2025		
II 研究活動					
1. 著書・論文等					

(朝倉)

氏名	種別	内容
1.Asakura J, Nagao M, Shinohara M, Nishimori M, Yoshikawa S, Iino T, Seto Y, Tanaka H, Satomi-Kobayashi	論文	Plasma cystine/methionine ratio is associated with left ventricular diastolic function in patients with heart disease.
2.Seto Y, Nagao M, Iino T, Harada A, Murakami K, Miwa K, Shinohara M, Nishimori M, Yoshikawa S, Asakura J,	論文	Impaired Cholesterol Uptake Capacity in Patients with Hypertriglyceridemia and Diabetes Mellitus.
3.Nishimori M, Hayasaka N, Otsui K, Inoue N, Asakura J, Nagao M, Toh R, Ishida T, Hirata K, Furuyashiki T,	論文	Stress-induced stenotic vascular remodeling via reduction of plasma omega-3 fatty acid metabolite 4-oxoDHA by
Takuya I, Manabu N, Hidekazu T, Sachiko Y, Junko A, Makoto N, Masakazu S, Amane H, Shunsuke W, Tatsuro I,	論文	Assessment of transthyretin instability in patients with wild-type transthyretin amyloid cardiomyopathy
Junko A, Manabu N, Masakazu S, Tetsuya H, Naoya K, Makoto N, Hidekazu T, Seimi S-K, Sho M, Tsutomu S,	論文	Impaired cardiac branched-chain amino acid metabolism in a novel model of diabetic cardiomyopathy
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
血中cystine/methionine比とHFpEF患者における左室拡張機能との関連.	2023年10月	第6回日本腫瘍循環器学会学術集会.
Plasma cystine/methionine ratio associates with left ventricular diastolic function in patients with heart	2024年3月	The 88th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society
III 学会等および社会における主な活動		
	2016年- 日本内科学会(2017年- 日本内科学会認定内科医)	
	2016年- 日本循環器学会(2023年- 循環器内科専門医)	
	2023年- 日本腫瘍循環器学会	

専任教員の教育・研究業績

所属 臨床薬学	職名 特任助教	氏名 Gusty Rizky Teguh Ryanto
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDへの参加状況を含む)		
II 研究活動		
1. 著書・論文等		
氏名	種別	内容
Ramadhiani R, Ikeda K, Miyagawa K, Ryanto GRT, Tamada N, Suzuki Y, Kirita Y, Matoba S, Hirata KI, Emoto N.	論文	Endothelial cell senescence exacerbates pulmonary hypertension by inducing juxtacrine Notch signaling in smooth muscle cells.

Suraya R, Nagano T, Ryanto GRT, Effendi WI, Hazama D, Katsurada N, Yamamoto M, Tachihara M, Emoto N, Nishimura Y, Kobayashi K.	論文	Budesonide/glycopyrronium/formoterol fumarate triple therapy prevents pulmonary hypertension in a COPD mouse model via NF $\kappa$ B inactivation.
Ryanto GRT, Ikeda K, Miyagawa K, Tu L, Guignabert C, Humbert M, Fujiyama T, Yanagisawa M, Hirata KI, Emoto N.	論文	An endothelial activin A-bone morphogenetic protein receptor 2 link is overdriven in pulmonary hypertension.
Manggalya IM, Yagi K, Mayasari DS, Suzuki Y, Ikeda K, Ryanto GRT, Sasaki N, Rikitake Y, Nadanaka S, Kitagawa H, Miyata O, Igarashi M, Hirata KI, Emoto N.	論文	Chondroitin Sulfate N-acetylgalactosaminyltransferase-2 impacts foam cells formation and atherosclerosis by altering macrophage glycosaminoglycan chain.
Musthafa A, Ryanto GRT, Suraya R, Nagano T, Suzuki Y, Hara T, Hirata KI, Emoto N.	論文	Acute Amelioration of Inflammatory Activity Caused by Endothelin-2 Deficiency during Acute Lung Injury.
2. 学会発表		
演題名	発表年・月	学会名
Activin A-driven Endothelin-1 activation is an auxiliary pathway for pro-vascular remodeling phenotype during pulmonary hypertension	2024年・6月	7th World Symposium on Pulmonary Hypertension
Evaluation of ET-2 Physiology in the Lung via Generation of a Novel Edn2 Reporter Mice	2023年・10月	18th International Conference on Endothelin
III 学会等および社会における主な活動		
2019年9月～現在	European Society of Cardiology Working Group on Pulmonary Circulation and Right Heart Failure	
2025年3月～現在	日本循環器学会	
2023年3月～現在	日本肺高血圧・肺循環学会	